

昭島市男女共同参画プラン年次評価報告書(素案)

【平成27年度 進捗状況】



2016年(平成28年)11月

昭島市男女共同参画推進委員会

目 次

| | | |
|--------------------------------|-------|----|
| はじめに | ----- | 1 |
| 全体の評価及び提言 | ----- | 2 |
| 昭島市男女共同参画プラン平成27年度進捗状況報告書 | ----- | 9 |
| 資 料 | | |
| 昭島市男女共同参画推進委員会評価基準<資料 1 > | ----- | 48 |
| 昭島市男女共同参画推進委員会要綱<資料 2 > | ----- | 49 |
| 昭島市男女共同参画推進委員会委員名簿<資料 3 > | ----- | 50 |
| 第 3 期昭島市男女共同参画推進委員会開催記録<資料 4 > | ----- | 51 |

は じ め に

昭島市では、「総合基本計画」の部門計画となる「昭島市男女共同参画プラン」（以下「プラン」という）に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた施策の推進に努めています。

このプランは、これまでの計画である「昭島市女性プラン」「あきしまジェス21」を引き継ぎ、平成23年度から32年度までの10年間を計画期間とした、昭島市として第3期の計画となります。

市では、プランの推進を図ることを目的に、第三者評価機関となる昭島市男女共同参画推進委員会（以下「委員会」という）を設置しています。

本委員会は、学識経験者、公共的団体の代表者、公募の市民委員を含めた8人の委員により構成され、任期を2年間とし、平成28年3月に第3期目の委員会として設置されました。

委員会では、プランの進捗状況の確認及び評価を行い、その結果を市長に報告することにより、男女共同参画に係る施策の推進を図っています。

平成27年度の実施状況について、各担当課が取りまとめた「昭島市男女共同参画プラン平成27年度進捗状況報告書」（以下「進捗状況報告書」という）に基づき、平成28年5月から平成28年10月までの間、委員会を6回開催し、進捗状況の確認と評価を行いました。

また、「プラン」中間年にあたり、「プラン」策定時に掲げた中間目標の達成状況を「市民意識調査」の結果をもとに評価し、計画の一層の推進に向けた検討を行いました。

委員会では必要に応じて、それぞれの担当課に説明や資料の提出などを求め、事業の有効性や効果などについて、慎重に検討を行い、委員それぞれが持つ知識と経験により、できる限り客観的な評価を心掛けました。

ここに委員会の評価結果を取りまとめましたので、報告いたします。

本報告書により、「プラン」の一層の推進が図られ、市民一人ひとりの生活をより豊かなものとしていくための、一助となれば幸いです。

2016年（平成28年）11月

昭島市男女共同参画推進委員会

委員長 金野美奈子

全体の評価及び提言

平成23年度からの新たな計画として策定された「プラン」は、「男女共同参画基本法」をはじめとする関係法令や、「プラン」の上位計画にあたる「第五次昭島市総合基本計画」の理念を尊重し、男女共同参画社会の実現に向けて、市民との連携と協働による施策の推進に努めることを目的としています。

また、このプランは、市の基本的な考え方を示すとともに、施策を総合的かつ計画的に推進するための事業計画であり、プランに定められた事業を適切に行うことが、男女共同参画社会の実現に直結することとなります。

こうした点を踏まえ、委員会では、平成27年度における進捗状況を確認し、また、プランの中間年にあたる27年度に実施した「市民意識調査」の結果を参考に、客観的な評価に努めました。

委員会としての評価及び提言を以下のとおり述べます。

1. 平成27年度進捗状況について

平成27年度における主要施策の進捗状況についての評価結果については、「進捗状況報告書」に、取組内容や課題、委員会のコメントなど、詳細な記載がありますが、総合的な評価は下表（表1）のとおりです。

（表1）主要施策ごとの評価

| 目標 | 主要施策 | 評価 | 評価のコメント |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|----|-----------------------------------------------------------|
| 目 標 I 人 権 の 尊 重 と 男 女 平 等 を 育 む 社 会 づ く り | 人権意識の育成 | 良 | 意識育成のための講演会や各種講座などの取組は図られているが、その効果の検証と周知方法などに課題がある。 |
| | 多文化共生社会の場での男女共同参画の推進 | 不可 | 男女共同参画の推進は、文化・習慣などの違いから難しい取組ではあるが、取組内容の点検と併せ、施策の推進を図られたい。 |
| | 男女共同参画に関する啓発 | 良 | 今後、講座など開催にあたり、男女共同参画に関心を持たない方々も参加しやすい工夫が必要。 |
| | メディアにおける男女平等意識の形成 | 可 | 男女平等の視点に立っていない言葉がどのように使われているかなど、学習会などを検討し、意識啓発を図られたい。 |
| | 幼稚園・保育園における男女平等教育・学習の推進 | 良 | 教育現場において、男女の違いを認めながらも、男女平等意識の醸成を、引き続き、主導されたい。 |
| | 学校教育の場における男女平等教育・学習の推進 | 良 | 教職員への啓発が、生徒・児童への指導に活かされているのか検証し、更なる推進を図られたい。 |
| | 家庭・地域・社会における男女平等教育・学習の推進 | 良 | 講座の内容も多様化し、開催日程も対象者に配慮がみられる。更なる充実に向けて取組を継続されたい。 |

| 目標 | 主要施策 | 評価 | 評価のコメント | |
|--------|--------------------------------|-----------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------|
| 目標 II | 配偶者等からの暴力防止及び被害者支援 と男女の健康支援 | 配偶者等からの暴力防止のための意識啓発・情報提供 | 良 | 積極的に取り組まれており、成果も上がっている。何がDVにあたるのか具体的な広報・啓発など、更なる周知を図られたい。 |
| | | セクシュアル・ハラスメント防止の取り組み | 良 | 全体として取組は進められているが、研修が取組に活かされるよう、更なる充実を図られたい。 |
| | | 配偶者等からの暴力などによる被害者の安全確保と自立支援 | 良 | 引き続き、警察など関係機関との連携を密にし、被害者の安全確保をはじめとする支援をお願いする。 |
| | | 関係機関との連携と相談体制の充実 | 良 | 相談窓口を充実させると同時に、未然防止・早期発見に向け、対策強化を図られたい。 |
| | | 互いの性の尊重 | 可 | まだまだ身近に感じられないリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を普及していくことは困難な課題ではあるが、取組を進められたい。 |
| | | 性差や年代に応じた心と身体の健康支援 | 優 | 取組が進められているものと評価できる。 |
| 目標 III | 働く場における男女共同参画とワーク・ライフ・バランスの推進 | 働く場における男女共同参画 | 可 | 女性活躍推進法が施行され、市としても取り組まれていると思うが、市内企業への働きかけを積極的に進められたい。 |
| | | ワーク・ライフ・バランスを実現するための支援 | 可 | 事業主の意識の向上、意識改革のきっかけになるような取組を検討されたい。 |
| | | 女性の就業支援 | 良 | 起業したい女性の意思を汲み取り、きめ細かな相談・支援が実施されている。 |
| | | 子育て・家事支援 | 優 | 相対的によく取り組まれており、手厚い支援を継続されたい。 |
| | | 高齢者・障害者等の介護・介助を担う男女への支援 | 良 | 今後、育児をしながら介護をする世帯も増えてくるものと思われる。ダブルケアへの対応も検討されたい。 |
| 目標 IV | 男女共同参画の総合的推進 | 政策・方針決定参画の拡大 | 良 | 市主催行事への女性参画は向上していると考えるが、引き続き、目標指標達成に向けて取り組まれたい。 |
| | | 人材育成と活用の促進 | 不可 | 女性の人材育成にあたっては、人材リストの作成と併せ、活用に向けて検討されたい。 |
| | | 地域活動への男女共同参画 | 良 | 女性リーダーの育成と活用にあたっては、女性がいきいきと活動できる環境の整備が必要であり、取組を進められたい。 |
| | | 国際的取り組みとの協調 | 可 | ジェンダーギャップ指数の公表など、情報の提供や広報を充実させ、意識啓発に努められたい。 |
| | | 市民との協働による計画の推進 | 良 | 市発行の女性情報誌などを活用し、男女共同参画意識の啓発と認知度を高めるための周知活動に努められたい。 |
| | | 庁内推進体制の充実及び関係機関との連携 | 良 | 庁内における取組は推進されているものと評価できる。今後は、市民にも普及されることを期待する。 |

評価としては、昨年度と比べ「優（2）」が7減、「良（15）」が3増、「可（5）」が2増、「不可（2）」が2増という結果となりました。基準を改めているため、一概に比較することはできませんが、評価が低かった項目については担当課の取組状況に進捗が見受けられませんでした。特に「不可」となった「目標Ⅰ-1(2)多文化共生社会の場での男女共同参画の推進」「目標Ⅳ-1(2)人材育成と活用の促進」については、行政としては取り組めることにも限界があり、難しい課題であると思いますが、先進市の事例なども参考とし、一步一步着実に取り組んでいただき、目標達成に向けて取組を進めていただきたいと思います。

なお、今年度の評価にあたっては、第2期委員会からの提言に基づき、委員会評価基準について見直しを行う中で、より適切な評価の在り方について検討した結果、内部評価（a・b・c・d）との整合を図り、これまでの「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階評価から「優」「良」「可」「不可」の4段階評価に改めました（表2）。この基準見直しに伴い、各段階の達成度を引き上げたため、過去の評価と比較し、厳しい評価となっています。

（表2）委員会評価基準

| 変更前 | 変更後 | 評価の目安 |
|-----|-----|----------------------|
| 秀 | 優 | 取り組みが着実に推進されている |
| 優 | | |
| 良 | 良 | 取り組みによる効果が得られている |
| 可 | 可 | これまでの取り組み内容に変化が見られない |
| 不可 | 不可 | 取り組みが進んでいない |

2. 計画期間前半期における取組状況について

平成23年度から平成32年度までの計画期間中間年にあたる本年度は、「プラン」策定時に掲げた目標値（11指標16項目）の達成状況の評価も併せて行いました。各項目の値の推移については「進捗状況報告書」に記載していますが、現状値を(a)プラン策定時と比較した場合、および(b)平成27年度中間目標値と比較した場合の状況は（表3）のとおりです。

(表3) 11の目標指標

| 目標指標 | (a)プラン策定時と現状値との比較 | (b)中間年目標値と現状値の比較 |
|------------------------------|-------------------|------------------|
| *「男女共同参画社会基本法」を知っている人の割合 | ○ | × |
| *男女の地位について「対等になっている」と思う人の割合 | [女性] × | [女性] × |
| | [男性] × | [男性] × |
| 講座等における男性参加者率 | ○ | △ |
| *「DV防止法」を知っている人の割合 | △ | × |
| *DVの被害を受けた人のうち、「相談した」人の割合 | [女性] △ | [女性] × |
| | [男性] ○ | [男性] ○ |
| 健康教育事業参加者数 | [女性] × | [女性] × |
| | [男性] × | [男性] × |
| *「仕事と家庭生活をともに優先している(両立)」人の割合 | [女性] × | [女性] × |
| | [男性] × | [男性] × |
| 保育園の定員数 | ○ | ○ |
| 学童クラブの定員数 | ○ | ○ |
| 審議会等における女性委員の割合 | × | × |
| 自治会長への女性の参画率 | ○ | ○ |
| *「昭島市男女共同参画プラン」を知っている人の割合 | ○ | × |

| (a)プラン策定時と現状値との比較 | |
|-------------------|-----|
| 推進が図れた項目(○) | 7項目 |
| ほぼ横ばいの項目(△) | 2項目 |
| 推進が図れなかった項目(×) | 7項目 |

| (b)平成27年中間目標値と現状値の比較 | |
|----------------------|------|
| 目標を達成した項目(○) | 4項目 |
| 概ね目標に達した項目(△) | 1項目 |
| 目標に達しなかった項目(×) | 11項目 |

全体として、プランに位置付けられた主要事業の推進は図られてきているものの、中間年目標値の達成には至らなかった項目が散見されます。

市民意識調査において、プランにおける各施策の取組実態が反映されていない側面もあると考えられますが、結果は結果として真摯に受け止め、取り組みの更なる推進につながるよう、目標ごとに委員会として意見を述べます。

目標Ⅰ「人権の尊重と男女平等を育む社会づくり」について

「男女平等意識の醸成」における目標指標「男女の地位について「対等になっている」と思う人の割合」について、「女性の地位を改善しようと女性を優遇する施策を行えば行うほど、「女性が優遇されている」と回答する男性が増えることが考えられ、女性の方がいくら「対等になった」と回答するようになっても、男性の方は対等になっていない、むしろ「女性が優遇されている」と答える事実が増えかねない」という意見が第2期委員会でありました。男性の方もそれを受入れ

るところまで意識が行き届くことが理想ですが、この意識の差を埋めることが今後の課題であると考えます。

目標Ⅱ「配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援と男女の健康支援」について

目標Ⅰの目標指標の一つである「男女共同参画社会基本法」を知っている人の割合」についても同じことが言えますが、「あらゆる暴力の防止」における目標指標「DV防止法」を知っている人の割合」についても、20代あるいは30代女性で「知らない」とした回答率が高く、男女共同参画という視点からみると、一番知ってもらいたい性別、年齢層で周知が足りないという結果になったことが読み取れます。こうした点からも啓発、特に若年層への対策が必要になってくるものと考えられます。

また、DVについては自分が被害者であるという認識がない方も多く、「DV防止」という抽象的なことよりも「どのようなことがDVにあたるか」など、具体的な周知、啓発を行う必要があると考えます。効果的な取組を行い、認知度を高めていっていただきたいと思います。

更に、目標指標の「DV被害を受けた人のうち、「相談した」人の割合」について、女性はプラン策定時の指標とほぼ横ばいの32.8%と平成27年目標値である50%に届きませんでした。調査結果よりDV被害者が相談した相手として「友人・知人」(62.1%)、「親兄弟などの親族」(48.3%)が多く、「公的な専門の相談窓口」(20.7%)が、それに比べて少ないという結果になりました。

またDV被害を相談しなかった理由として「相談できる人(ところ)がいなかった」(19.4%)、「誰に(どこに)相談していかわからなかった」(12.9%)という回答結果と、回答者の年齢構成、男女の回答比率から判断し、まだまだ女性(特に若い女性)が相談できる体制が整っていないことが要因と思われます。引き続き公的な相談窓口における、より一層の相談しやすい環境づくりが求められます。男女共同参画センターの設置を一つの契機として、配偶者暴力相談支援センター機能を有する拠点整備について検討を深め、DV被害の相談及び支援体制の充実を図っていただき、その周知に努めていただきたいと思います。

目標Ⅲ「働く場における男女共同参画とワーク・ライフ・バランスの推進」について

「働く男女の就労環境の整備」における目標指標「仕事と家庭生活をともに優先している(両立)人の割合」について、「両立している」と回答した人の割合は女性も男性もプラン策定時より減少していますが、同時に「仕事を優先している」人の割合も減少し、「家庭生活を優先している」と回答した人の割合が男女とも増加しました。第2期委員会では「両立している」という回答の減少をもって、施策の効果が表れていないと即断はできず、実態としてのワーク・ライフ・バランスを推進していくことが重要であるとの評価になりましたが、第3期委員会では加えて、「仕事を優先している」「家庭生活を優先している」という現状に満足しているか否かを見極めなければならないと考えます。今後、この視点を踏まえた取り組みに期待します。

目標Ⅳ「男女共同参画の総合的推進」について

「政策・方針決定過程への男女の参画」における目標指標の「審議会等における女性委員の割合」について、市としては、公募市民委員枠において、男女の比率に配意し、取り組まれていることは評価できますが、外郭団体など推薦枠において、母体となる組織の男女構成比も影響することから、全体として目標値を達成するには至りませんでした。全体的に女性委員の比率を高めることが難しい要因があることも理解しますが、女性参画の向上に向けて、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

また、女性人材の育成と活用の視点においても、最終構想を持ち、人材リストの作成も含め、一步一步着実に取り組んでいただきたいと思います。

3. 年次進捗状況と計画期間前半期の進捗状況を踏まえた課題の整理

最後に、平成27年度における主要施策の進捗状況と計画前半期の評価を踏まえ、今後、重点的に検討が必要と考えられる4つの課題について意見を述べます。これらの意見については、将来を見据えた更なる具体的な検討をお願いします。

【課題1】ワーク・ライフ・バランスの取組の強化について

27年度から女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が施行され、市でも女性の活躍状況を把握し、改善するための取組を内容とする「事業主行動計画」を策定し、取組が進められていますが、更には、ワーク・ライフ・バランスの取組が全体として進められるよう、市内の事業所に対しても積極的に働きかけていただきたいと思います。

ワーク・ライフ・バランスの実現は、男女共同参画社会の実現に直結する市の重要課題でもあります。「仕事」も「私生活」も充実できるようなライフスタイル（生活様式）に変えることで、育児や介護などを分担しながら、一人ひとりの市民が、社会の一員として人間らしく生きることを可能にするとともに、女性の社会参加の促進が図られるものと考えます。まずは市が率先して取り組むことが、民間企業等での取組みを加速させることにつながります。また、今年度の「イクボス」をテーマとした講演会開催を手始めとして、次年度以降、「ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業の認定・公表」の実現に向けて、さらに積極的な取組に期待します。

【課題2】男女共同参画センターの整備について

「男女共同参画センター」の整備については、平成31年度開設予定で着実に進められていることと理解しています。この整備により、現在行われている「女性悩みごと相談」を含めた相談機能や情報提供機能の充実、男女共同参画に関する活動や交流の場としての利用範囲が拡大するなど、当該事業の取組が大きく前進することを期待します。

また、先にも述べたDV被害者への支援の充実に向けて、配偶者暴力相談支援

センター機能を有する拠点整備の検討を引き続きお願いします。

併せて、「男女共同参画センター」が、男女共同参画に関する中核施設として、必要となる機能を十分に備える施設としていただくよう、委員会として引き続き要望いたします。

【課題3】男女共同参画への認知度を高める取り組みについて

平成27年度に実施した市民意識調査では、11の目標指標に加え、情報誌「Hi, あきしま」の普及（男女全体28.1%）、男女共同参画に関する講演会やセミナーの開催（男女全体8.7%）、男女共同参画ルーム「おあしす」（男女全体6.1%）など、昭島市の事業の認知状況についても調査を行っています。

全体的に男女共同参画に対しての市民意識、認知度が低いということが、今後の取組を推進していく上での課題であると言えます。認知度が低いため、様々な取組を行っていても、効果に繋がらないことも考えられ、今後、更なる周知・啓発に努めていただきたいと思います。

具体的には「Hi, あきしま」の紙面で、読んで面白い、興味の持てるような話題を提供し、男女共同参画の普及につなげること、昭島市のホームページにコンテンツの1つとして「男女共同参画」を取り上げていただくことなどが考えられます。こうした広報活動に今一度力を注いでいただき、男女共同参画に関する一層の意識啓発と事業の推進に努めていただきたいと思います。全庁的な連携、取組に期待します。

【課題4】評価方法の見直しについて

各年度の実施状況の確認、評価については、担当課の内部評価をまとめた「進捗状況報告書」に基づき実施しています。

これまでも、目標達成に向けて進捗状況報告書の見直しを重ねてきましたが、市としても主要事業の達成段階が把握できるよう、また、市民にも分かりやすい資料となるよう、今後も継続的な見直しをお願いします。

担当課の取組状況において、その取組内容が「新規の取組」か、「継続した取組」か、「これまでの取組内容を充実」させたものか、その区別が明確であるだけでも、評価の一助につながるものと考えられます。

また、計画最終年度の目標達成に向けて、主要事業ごとに、年次目標を掲げて取り組むなど、事業の進捗状況を確認しながら、取組を進めていただければと思います。

第3期委員会として意見を述べさせていただきましたが、計画期間最終年度を視野に入れ、一人ひとりがいきいきと輝くまちをめざして、「プラン」が目的とする男女共同参画社会の実現につながることを願っています。

昭島市男女共同参画プラン

平成27年度進捗状況報告書



平成28年6月

昭島市企画部企画政策課

凡 例

1. 「平成 27 年度担当課の取組状況 担当課評価」欄

| 担当課評価 | 取 組 状 況 | 点数 |
|-------|--------------------------|-----|
| a | 十分である。 | 3 点 |
| b | 概ね十分である。 | 2 点 |
| c | ある程度の成果（関連）はあったが未だ課題が残る。 | 1 点 |
| d | 不十分である。 | 0 点 |

2. 「平成 27 年度担当課の取組状況 主要施策の評価」欄

主要施策ごとに数値化（a. b. c. d の合計点 ÷ 主要施策ごとの全体数 × 3 点）し、進捗状況（達成度）を見る。

※主要施策は全部で 24、施策における担当課事業数 256

3. 「平成 27 年度の取組状況に関する委員会の評価」評価欄

「優」「良」「可」「不可」の 4 段階評価については、「昭島市男女共同参画推進委員会評価基準」（＜資料 1＞、48 頁）を参照

男女共同参画プラン 目標指標の推移

| | 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値 (平成27年) | 目標値 (平成32年) | |
|-----------|---------------|----------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 目標Ⅰ | 1 | 人権が尊重される社会づくり | *「男女共同参画社会基本法」を知っている人の割合 | 9.3% | 16.6% | 20.0% | 30.0% |
| | 2 | 男女平等意識の醸成 | *男女の地位について「対等になっている」と思う人の割合 | [女性] 39.9% | [女性] 33.8% | [女性] 45.0% | [女性] 50.0% |
| | | | | [男性] 50.0% | [男性] 45.8% | [男性] 55.0% | [男性] 60.0% |
| 3 | 男女平等教育・学習の推進 | 講座等における男性参加者率 | 12.7% | 19.4% | 20.0% | 30.0% | |
| 目標Ⅱ | 1 | あらゆる暴力の防止 | *「DV防止法」を知っている人の割合 | 33.7% | 31.1% | 40.0% | 60.0% |
| | 2 | 配偶者等からの暴力などによる被害者への支援体制の確立 | *DVの被害を受けた人のうち、「相談した」人の割合 | [女性] 33.0% | [女性] 32.8% | [女性] 50.0% | [女性] 70.0% |
| | | | | [男性] 2.9% | [男性] 27.6% | [男性] 10.0% | [男性] 30.0% |
| 3 | 生涯を通じた男女の健康支援 | 健康教育事業参加者数 | [女性] 1,257人 [男性] 221人 | [女性] 987人 [男性] 153人 | [女性] 1,330人 [男性] 270人 | [女性] 1,480人 [男性] 320人 | |
| 目標Ⅲ | 1 | 働く男女の就労環境の整備 | *「仕事と家庭生活をともに優先している(両立)」人の割合 | [女性] 21.1% [男性] 29.1% | [女性] 18.5% [男性] 20.3% | [女性] 25.0% [男性] 32.0% | [女性] 30.0% [男性] 35.0% |
| | 2 | 仕事と家庭生活の両立支援 | 保育園の定員数 | 2,467人 | 2,783人 | 2,530人 | 2,600人 |
| 学童クラブの定員数 | | | 940人 | 1,359人 | 1,050人 | 1,070人 | |
| 目標Ⅳ | 1 | 政策・方針決定過程への男女の参画 | 審議会等における女性委員の割合 | 29.2% | 26.7% | 35.0% | 40.0% |
| | 2 | 地域社会への男女の参画 | 自治会長への女性の参画率 | 5.1% | 7.0% | 8.0% | 10.0% |
| | 3 | 計画の推進 | *「昭島市男女共同参画プラン」を知っている人の割合 | 6.0% | 10.3% | 15.0% | 30.0% |

※プラン策定時の数値は、平成21年度実績又は平成22年4月1日時点

※現状値の数値は、平成27年度実績又は平成28年4月1日時点、なお目標指標の*記号の数値は、平成27年8月～9月実施の市民意識調査による。

目標 I 人権の尊重と男女平等意識を育む社会づくり

| | | | | | |
|-----------------|-------------------------|--------|-------|-------------|-------------|
| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
| 1 人権が尊重される社会づくり | 「男女共同参画社会基本法」を知っている人の割合 | 9.3% | 16.6% | 20.0% | 30.0% |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | |
|--------------|--------------------------------------------|-----|-----------------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)人権意識の育成 | | | | | 誰もが性別にかかわらず一人の人間として個人が尊重され、社会のさまざまな分野に参画することができるよう、男女共同参画の基本となる人権を尊重する意識を育みます。 | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 人権の尊重の啓発 | 家庭・地域などあらゆる場で人権が尊重されるよう、啓発活動や相談機会の提供を行います。 | 1 | 家庭・地域等での広報紙等による人権を尊重する意識の普及 | 企画政策課 | 都の人権啓発パンフレット等を窓口で配付。広報紙(12/1号)に人権週間(12月4日～10日)みなで築こう 人権の世紀)等について掲載し、啓発に努めた。 | 広報紙、パンフレット等により人権意識の普及、啓発を図る。 | b | | 全戸配付の広報紙(52,000部)や窓口等でのパンフレット配付などにより、一定程度の普及・啓発は図られていると考える。 | 引き続き普及・啓発に努めるが、その効果の検証については今後の課題である。 | | | |
| | | 2 | 女性の人権についての講座等の開催 | 企画政策課 | (1)男女共同参画講演会の開催 期日:12月6日(日) テーマ:家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:50人(女性35人、男性15人)、決算額:115千円 (2)男女共同参画セミナーの開催 ①DV防止セミナー 期日:11月25日(水) テーマ:DV被害からの自由 自分らしく生きるということ 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円 ②男女共同参画セミナー 期日:2月22日(月) テーマ:もう一人でがんばらない家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円 | 講演会、セミナーの実施により、女性の人権に関する意識の普及、啓発を図る。 | b | 12/18 (66.7%) | 定期的講演会、セミナーを実施している。セミナーは、直接女性の人権に関するもの、女性の生活支援に関するものをそれぞれ実施し、女性の人権に関する意識の普及、啓発に努めているが、結果として前年度より参加者数が減っており、参加を呼びかける広報の仕方等に工夫が必要である。 【前年度(H26)比較】 男女共同参画講演会: -10人 DV防止セミナー: +4人 男女共同参画セミナー: -9人 | 引き続き、参加を増やす取組の研究が必要である。 H28年度はイクボス(部下の能力を活かし仕事で成果を上げさせるとともに、部下の私生活にも配慮できる上司)をテーマに講演が予定されており、産業活性課と協力し、市内の企業にも参加を呼び掛け、参加者数の増加を図ってきたい。 | ○講座、セミナーを実施しており、こういった取組には効果があるものと考えている。 ○テーマが前年度とあまり変わり映えがないように、参加者も減少しているため改善の必要があるように感じた。 ○今後の課題として産業活性課と協力し、市内の企業に呼びかけ「イクボス」というテーマで講演が予定されているということで、男性の参加は企業に呼びかけていくことによって効果があると思われるのでとても期待している。 | 良 | ◆男性の参加が少なく、どのように男性参加者を増やすかが課題である。 ◆参加人数だけでなく、何を学んだか、どのような効果があったかを検証し、今後の取組に生かされるよう検討されたい。 ◆DV被害者への対応など庁内研修を実施することで改善につなげていただきたい。 ◆すぐ魅力のあるテーマかという今一つのように感じた。 ◆意識育成のための講演会や各種講座などの取組は図られているが、その効果の検証と周知方法などに課題がある。 |
| | | | 人権擁護委員等による人権問題に関する相談機会の提供 | 秘書広報課 | 「人権身の上相談」として、毎月第4月曜日の午後1時30分から午後4時30分まで相談を実施した。 27年度相談件数 24件 27年度予算額 237千円 【前年度実施状況】 26年度相談件数 15件 26年度予算額 237千円 | 家庭や地域での人権侵害に関する様々な問題について相談を受け、解決に向けたアドバイスを行う。 | 両セミナーとも直接女性の人権をテーマとした講座ではないが、人権尊重を図ることも意識している。 | c | | セミナーは女性の人権を加味し構成してあるが、全面的に人権啓発なセミナーとまで至っていない。 | 現状では月1回の相談で概ね対応できている。 今後、相隣問題の増加等により、相談予約が取りにくくなるのであれば、相談日を増やすなどの対応を検討する。 | ○市役所にこういった窓口があり、それが機能していることは素晴らしい。 ○相談件数がアップしているので広報活動の成果だと思われる一定の評価ができる。 ○件数は増加しているが、効果測定、満足度などはどのような状況かが不明である。 | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------|--------------------------------------------|-----|----------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----|------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 人権の尊重の啓発 | 家庭・地域などあらゆる場で人権が尊重されるよう、啓発活動や相談機会の提供を行います。 | 4 | 市職員に対する人権研修の実施 | 職員課 | 市町村職員研修所の人権啓発研修へ職員を派遣しており、平成27年度については、12名が受講した。また、DV被害者への理解を高めることを目的に庁内研修を実施し、18名が受講した。 【前年度(H26)実施状況】 人権啓発研修受講者2名 庁内研修受講者29名 | 市町村職員研修所の研修においては、同和問題をはじめとする人権問題について基礎的知識を習得する。また、機会を捉えて人権に関する研修を庁内で実施し、職員の意識啓発を図る。 | b | | 市町村職員研修所の人権啓発研修へ職員を派遣するとともに、庁内においても研修を実施することにより人権に関する意識啓発が図れた。 【前年度(H26)比較】 人権啓発研修受講者：+10名 庁内研修受講者：-13名 | 引き続き市町村職員研修所へ職員を派遣するとともに、庁内研修においても人権に関する意識啓発に努める。 また、研修受講者が、研修内容を職場へフィードバックすることにより、職場全体の人権に関する意識啓発にも努める。 | | | ○庁内研修受講者が減少しており、対応について強化する必要があるものと考えられる。 |
| 人権教育の推進 | 性別を問わず、一人ひとりを大切に人権教育を実施します。 | 5 | 人権尊重の教育の実施 | 指導課 | 人権教育推進委員会を中心に、年5回の人権教育研修会を実施【H26実績】 人権教育研修会を3回実施 | 全校の人権教育担当の教員を対象に研修を行い、周知を図る。 | b | | 人権教育推進委員会主催の公開授業を全小・中学校の教員を参加対象とし、効果的な取組を紹介した。 | 平成28年度も継続していく。 | | | |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2) 多文化共生社会の場での男女共同参画の推進 | 多様な価値観を認め合う多文化共生時代に対応し、市内に住む外国人が暮らしやすくなるよう、情報提供や相談体制の充実を図るとともに、在住外国人の男女共同参画に対する意識の普及に努めます。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------------|----------------------------------------------|-----|---------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 在住外国人に対する情報提供と生活支援 | 市内に住む外国人に対して男女共同参画意識の普及を図るとともに、生活支援事業を推進します。 | 6 | 在住外国人に対する生活上の情報提供と相談体制の充実 | 秘書広報課 | 一般の相談体制の中で対応。必要に応じて、東京都の外国人相談パンフレットや電話番号等を案内する。 27年度相談件数 0件 【前年度実施状況】 26年度相談件数 0件 | 市内に住む外国人への情報提供と生活支援を図る。 | c | | 特定の相談窓口を設けていないため、各主管課で対応したものについての詳細な内容、件数等は不明である。 | 当面は現行の相談体制の中で対応する。 相談件数が増加した場合は、他市の動向等を参考に専門窓口の設置等を検討する。 | ○東京都の外国人相談パンフレットや電話番号等の案内をするなど、市独自で事業を行っているというよりも、東京都やNPOの施策に頼っているという感じを受けた。 | 不可 | ◆この項目については、ここ2年間で全く変わり映えがなく、自己評価も低いままである。受け身ではなく積極的に関係団体とコンタクトを取っていただきたい。 ◆それぞれ担当課の評価の理由欄に「不明である」「困難である」という記述が多い。実際に取組内容を見て何もしない印象を受けた。 ◆昭島市では市内在住の外国人の把握をしているのかという疑問を感じた。昭島在住の外国人の支援は昭島で育つ子どもの将来にも影響があると思うので、支援に力を入れていただきたい。 |
| | | | | 企画政策課 | (1)東京都等の外国人相談パンフレットの配付 (2)男女共同参画ルーム利用団体で外国人支援を実施する団体への情報の提供 (3)東京都在住外国人支援事業助成 助成事業の募集案内を市のホームページに掲載 | 情報提供と相談体制の充実に努め、市内に住む外国人の生活支援を図る。 | b | 相談については、外国人に特化せず、一般と同様に対応している。 市の体制や予算面で対応が難しい部分については、国や東京都が実施する事業を広報することで支援につなげている。 東京オリンピックを控え、外国人観光客増が予想される中、おもてなしの心と英会話能力の向上を図るために「外国人おもてなしボランティア講座」をH28年度に社会教育課と連携し開催する。 | 多様な言語に対応することが求められるが、登録した職員が話せる外国語だけでは、対応が厳しい状況もある。 | | | | |
| | | | | 職員課 | 職員課に外国語を話すことができる職員を登録し、外国人の方が窓口に来庁した際など、必要に応じて対応した。 | 外国人に対する市民サービスの向上を図る。 | c | 13/27 (48.1%) | 勤務状況等により登録した職員が対応に当たれない場合、スムーズな対応ができないことがある。 | | | | |
| | | | | 指導課 | 東京都の外国人相談窓口及び、支援するNPOを紹介、周知した。 | パンフレット及び今までの実績を周知する。 | b | | 関係するNPOとの連携を図った。 | 外国人相談窓口及び、支援するNPOを紹介するだけにとどまらず、経過の確認も行う。 | | | |
| | | 7 | 在住外国人の児童・生徒の日本語習得のための支援 | 指導課 | 日本語指導員(7名分)を必要とする学校で活用できるよう予算措置をした。 | 必要が生じた際に予算措置をするとともに、人材も紹介した。 | b | | 予算確保を行えたが、予想以上の増加があった。 | 今後も増加することを考え、予算確保を行う。 | ○昭島市も在住外国人が増えており、今後必要とされる取組である。 ○学習意欲があっても通訳がいなくて学習に参加できないという児童もいるので、市だけではなく、NPOなど支援団体の力を借りてでもすぐに対応できるようにシステムがあれば、子どもたちが意欲的に学習に参加できるし、保護者との連絡などにも使える。 | ◆在住外国人への生活支援に関して、周囲からの孤立がDVを生むということもあるので、このテーマに積極的に取り組んでいただきたい。 ◆男女共同参画の推進は、文化・習慣などの違いから難しい取組ではあるが、取組内容の点検と併せて、施策の推進を図られたい。 | |
| | | 8 | 市ホームページの多言語化 | 情報推進課 | 平成22年12月よりホームページ自動翻訳サービスの利用を開始し、英語・中国語・韓国語の3カ国語に対応済 | 外国人を意識した情報の発信 | c | | 利用件数について大きな伸びはみられない。事業効果を計ることは困難である。 | 主管課において自動翻訳した内容の確認が困難である。 | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------------|----------------------------------------------|-----|-------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 在住外国人に対する情報提供と生活支援 | 市内に住む外国人に対して男女共同参画意識の普及を図るとともに、生活支援事業を推進します。 | 9 | 在住外国人に対する多様な媒体を通じた男女共同参画意識の普及 | 秘書広報課 | 「広報あきしま」及び市ホームページに、男女共同参画に関する記事を12回掲載。 ※市ホームページには、広報をPDFにしたものを、配布と同時にアップしている。 【前年度実施状況】10回掲載 | 市内に居住する外国人に対し、男女共同参画意識の普及を図る。 | c | | 「広報あきしま」への掲載については、主管課からの原稿をもとに記事を作成しているため、主体的に取り組むことが難しい。 | どの程度普及しているかを計ることは困難であるが、継続して広報で取り上げていくことは重要である。 | | | |
| | | | | 企画政策課 | 東京都在住外国人支援事業助成 助成事業の募集案内を市のホームページに掲載し、事業拡大に努めた。 | 東京都が実施する在住外国人支援事業に対しての補助事業を広報することにより、外国人支援団体と連携するためのきっかけをつくり、市内に居住する外国人に対し、男女共同参画意識の普及を図っていく。 | c | | これまで外国人に特化した普及事業は、実施できていないが、国や都が実施する事業を広報することで、支援団体との連携への糸口を探る一歩となった。 | 取組を進めるためには、外国人支援団体とのネットワーク化検討していく。 国や都が実施する事業の広報を行うことで、広域での事業の推進に努める。 | | | |
| | | | | 情報推進課 | 市ホームページに、男女共同参画に関する記事を掲載。 | 外国人を意識した情報の発信 | b | | ホームページの多言語対応はすでに実施済。事業効果を計ることは困難である。 | 情報推進課としての対応はなし。 | | | |

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|-------------|----------------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 2 男女平等意識の醸成 | 男女の地位について「対等になっている」と思う人の割合 | [女性] 39.9% | [女性] 33.8% | [女性] 45.0% | [女性] 50.0% |
| | | [男性] 50.0% | [男性] 45.8% | [男性] 55.0% | [男性] 60.0% |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------|
| (1)男女共同参画に関する啓発 | 男女平等意識に基づく男女共同参画について市民等の理解を深めるため、さまざまな機会や広報媒体を通じて、啓発活動や情報の提供を行います。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|---------------------------|-----------------------------------------|-----|--------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 男女平等・男女共同参画に関する講座・学習会等の開催 | 各種講座・学習会等を開催し、男女平等・男女共同参画に関する意識啓発を図ります。 | 10 | 男女平等・男女共同参画に関する講座・学習会の実施 | 企画政策課 | (1)男女共同参画講演会の開催 期日:12月6日(日) テーマ:家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:50人(女性35人、男性15人)、決算額:115千円 (2)男女共同参画セミナーの開催 ①DV防止セミナー 期日:11月25日(水) テーマ:DV被害からの自由 - 自分らしく生きるということ - 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円 ②男女共同参画セミナー 期日:2月22日(月) テーマ:もう一人でがんばらない 家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円 | 講演会、セミナーの実施により、男女平等・男女共同参画に関する意識の普及、啓発を図る。 | b | 46/66 (69.7%) | 定期的に講演会、セミナーを実施している。セミナーは、DV防止に関するものと、女性の生活支援に関するものをそれぞれ実施し、男女平等・男女共同参画に関する意識の普及、啓発に努めたが、結果として前年度より参加者が減っており、参加を呼びかける広報の仕方等に課題が残った。 【前年度(H26)比較】 男女共同参画講演会:-10人 DV防止セミナー:+4人 男女共同参画セミナー:-9人 | 引き続き、参加を増やす取組の研究が必要である。 H28年度はイクボス(部下の能力を活かし仕事で成果を上げさせるとともに、部下の私生活にも配慮できる上司)をテーマに講演が予定されており、産業活性課と協力し、市内の企業にも参加を呼び掛け、参加者数の増加を図ってきたい。 | ○今後の予定欄に「イクボス」の取組がありとても期待している。 | 良 | ◆全体的にはまだまだ改善点があると考えられる。 ◆今後、講座などを開催するにあたり、男女共同参画に関心を持たない方々も参加しやすい工夫が必要。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|---------------------------|-----------------------------------------|-----|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 男女平等・男女共同参画に関する講座・学習会等の開催 | 各種講座・学習会等を開催し、男女平等・男女共同参画に関する意識啓発を図ります。 | 10 | 男女平等・男女共同参画に関する講座・学習会の実施 | 市民会館・公民館 | (1)子育てセミナー「楽しくなる+ココロが軽くなる子育て」女性の権利について一部加味し構成している。全8回 参加者17人【H26実績】 子育てセミナー6回開催 参加者17人(男5人、女12人) 決算額236千円 (2)男女共同参画セミナー「自分らしいライフ&キャリアをデザインしよう」全4回 参加者8人(女) 80千円【H26実績】 男女共同参画セミナー全4回開催 参加者8人(男)全3回 決算額96千円 | (1)参加者同士の話を通し子育ての悩みなどを共有しつつ、地域とのつながり(持っ事により親自身の気持ちが楽になる)の重要性を狙いとし、全8回の講座で、2回男性講師も交えて父親向けの講座を行い、母親、父親のコミュニケーションが円滑に交わされ楽しく子育てできることを狙いとした。 (2)女性の生き方や働き方をみつめ、将来に向けた生き方や働き方をデザインすることを目的とする。 | b | | (1)夫婦参加の回を2回設け、男性、女性講師を招き、別室で講義を行ったことにより、同性同士じっくりと話すことができ、効果はあった。 (2)参加者のほとんどが仕事や家庭で忙しんでいる方々であったが、自分の過去を振り返ったり子育てを考える事が具体的にできた。 【前年度(H26)比較】 子育てセミナー:±0 男女共同参画セミナー:±0 | 公民館主催の子育て講座に参加したことがない人が気軽に参加できるように企画したが、地域で子育てに活躍している方の参加が多かった。また、平日開催であったため参加者が少なく、今後は、保護者のニーズに合った日程等の検討をしたい。 (2)内閣府のキャッチフレーズに近い内容のものを企画したが、参加者が少ないことを考えると、テーマ、内容を親しみやすい企画にしていきたい。 | ○男性講師を招いていた、男性、女性講師を招き別室で講義を行ったというのの良い取組だと思った。ただ平日開催であったため参加者が少なかったとあり、日中であっても夜間であっても託児サービスの必要性を感じた。 | | |
| | | 11 | 男性の参加しやすい講座・学習会の実施 | 企画政策課 | (1)男女共同参画講演会の開催 期日:12月6日(日) テーマ:家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:50人(女性35人、男性15人)、決算額:115千円 (2)男女共同参画セミナーの開催 ①DV防止セミナー 期日:11月25日(水) テーマ:DV被害からの自由—自分らしく生きるということ— 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円 ②男女共同参画セミナー 期日:2月22日(月) テーマ:もう一人でがんばらない家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円 | 男性が参加しやすい講座等を実施し、男女共同参画意識の普及、啓発を図る。 | c | | 講演会、セミナーともに、全体的に参加者が少なかったが、男女共同参画セミナーを除き、少数ではあるが、男性の参加があり、男女共同参画意識の普及、啓発に努めた。今年度の男性参加者数:10人はH26年度(男性参加者数:18人)実績に比べて8人減っている。 | 今後、参加者を増加させるための工夫と男性が参加しやすい日程や内容での講演会・セミナーの開催が課題であり、引き続き検討したい。 H28年度はイクボス(部下の能力を活かし仕事で成果を上げさせるとともに、部下の私生活にも配慮できる上司)をテーマに講演が予定されており、産業活性課と協力し、市内の企業にも参加を呼び掛け、参加者数の増加を図るとともに、市内の企業にも「イクボス」を普及させていきたい。 | ○主要事業で男性向けと掲げているならばそれなりに男性の参加を促すような対策が必要だと思う。取組内容があるだけで男性が参加できるような工夫、対策がない。 ○自治会で非常食の試食やあるもので担架を作って人を運ぶというイベントでは男性がイキイキと参加している。防災というテーマを取り入れるなど、そういったことで男性も参加しやすくなり、男性も楽しく参加しているという気になる。 | | |
| | | | | 健康課 | 男性を対象にした健康教室を土曜日に開催した。 (1)男性のための運動教室を2回実施した。 ①5月9・16・23日 ②1月23・30日、2月6日 参加:62人、決算額:100,800円 (2)男性のためのウォーキング教室 10月31日 参加:13人、決算額14,500円 【H26実績】 男性のための運動教室:6回*70人 | 健康教室における男性参加者を増やす。 | b | | 講座に参加した男性は、女性ばかりの講座だと参加しにくいとされているひとが少なからずおり、このような企画に賛同していた。対象を男性に限定した健康教室に参加した数 75人(前年度比+5人) | 男性を対象とした講座は継続していく。 | ○男性対象の講座も増えてきているので改善の効果がみられる。 ○ウォーキング教室も男性のためのとせずに、夫婦、カップル、パートナーと行うウォーキング教室とすれば男女共同参画の趣旨に合ったものになるのではないかと。 | | |
| | | | 市民会館・公民館 | (1)地域公民館事業 地域課題講座「日本の科学技術最前線」全4回 参加者50人(男35人・女15人) 決算額89千円 【H26実績】 地域公民館事業 「地域災害から身を守る」14回 参加者27人(男18人、女9人) 決算額81千円 (2)自主市民講座「暮らしに役立つ環境講座～再生エネルギー・下水道の再利用・自然災害・食の安全について～」参加者33人(男22人・女11人) 69千円 | 男性が参加しやすいテーマによる講演会、講座の実施により男女共同参画の意識啓発を図る。 | a | | 男性の参加者が7割を占め効果があった。 【前年度(H26)比較】 地域公民館事業:±23人(男:17人、女:6人) | 男性の参加しやすい講座、学習会の重要性は、認識しているのでも、市民ニーズを動かし企画検討したい。 | ○いかに男女共同参画に結びつけるかが課題である。 ○市民会館・公民館の事業は夫婦で楽しく参加できるので、工夫さえすればうまくいった。 ○男女共同参画に関する意識啓発の項目だが、これらがそれに合致した取組なのか、施策のねらいと取組内容がずれていると感じた。 | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|---------------------------|-----------------------------------------|-----|---------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-----------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 男女平等・男女共同参画に関する講座・学習会等の開催 | 各種講座・学習会等を開催し、男女平等・男女共同参画に関する意識啓発を図ります。 | 12 | 男性向けの講座・学習会の実施 | 企画政策課 | <p>年次計画の中で27年度は男性向けのテーマで講座の実施に至らなかったが、男性も参加できる講座は実施した。</p> <p>①DV防止セミナー 期日:11月25日(水) テーマ:DV被害からの自由 - 自分らしく生きるということ- 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円</p> <p>【前年度(H26)実施状況】 参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円</p> <p>②男女共同参画セミナー 期日:2月22日(月) テーマ:もう一人でがんばらない家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円</p> <p>【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円</p> | 男性向けの講座等を実施し、男女共同参画意識の普及、啓発を図る。 | b | | <p>男性向けのテーマで講座の実施には至らなかったが、男性も参加できる講座を実施し、少数ではあるが、男性の参加があり男女共同参画意識の普及、啓発に努めた。今年度の男性参加者数:10人はH26年度(男性参加者数:18人)実績に比べて-8人。</p> | <p>今後、参加者を増加させるための工夫と男性が参加しやすい日程や内容での講演会・セミナーの開催が課題であり、引き続き検討したい。</p> <p>H26年度はイクボス(部下の能力を活かし仕事で成果を上げさせるとともに、部下の私生活にも配慮できる上司)をテーマに講演が予定されており、産業活性課と協力し、市内の企業にも参加を呼び掛け、参加者数の増加を図るとともに、市内の企業にも「イクボス」を普及させていきたい。</p> | ○前年度実績より減っており、男性参加者が-8人で評価がbでは甘すぎる。 | | |
| | | | | 市民会館・公民館 | H26年度に男性向けの料理講座を実施したが、H27年度は実施に至らなかった。今後、実施できるよう取り組んでいきたい。 | 男女共同参画の意義や啓発を図る。 | d | | 講座等が実施できなかったため。 | 市民ニーズを勘案し男性向けの講座を企画検討したい。 | ○「〇〇が喜ぶお料理教室」など、対象を考えて募ると参加があるのではないかと期待している。 | | |
| | | 13 | 成人式等を利用した男女平等・男女共同参画意識の啓発 | 社会教育課 | <p>実行委員7名中1名が女性委員【H26実績】 8名中5名が女性委員</p> | 成人式を利用した意識啓発 | a | | | 女性委員が副委員長を務め、男女委員が共同で企画運営に携わった。 | 前年と同様に実施 | ○女性委員の数が大幅に減っているというイメージを受けるのでそれでも担当課評価がaというのは甘い気がした。 | |
| | | 14 | 男女平等・男女共同参画の意識を高める講演会等の実施 | 企画政策課 | <p>(1)男女共同参画講演会の開催 期日:12月6日(日) テーマ:家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円</p> <p>【前年度(H26)実施状況】 参加者:50人(女性35人、男性15人)、決算額:115千円</p> <p>(2)男女共同参画セミナーの開催 ①DV防止セミナー 期日:11月25日(水) テーマ:DV被害からの自由 - 自分らしく生きるということ- 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円</p> <p>【前年度(H26)実施状況】 参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円</p> <p>②男女共同参画セミナー 期日:2月22日(月) テーマ:もう一人でがんばらない家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円</p> <p>【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円</p> | 講演会、セミナーの実施により、男女平等・男女共同参画の意識を高める。 | a | | <p>定期的に講演会、セミナーを実施している。セミナーは、DV防止に関するものをそれぞれ実施し、男女平等・男女共同参画に関する意識の普及、啓発に努めたが、結果として前年度より参加者が減っており、参加を呼びかける広報の仕方等に課題が残った。</p> <p>【前年度(H26)比較】 男女共同参画講演会:-10人 DV防止セミナー:+4人 男女共同参画セミナー:-9人</p> | <p>引き続き、参加を増やす取組みの研究が必要である。</p> <p>H28年度はイクボス(部下の能力を活かし仕事で成果を上げさせるとともに、部下の私生活にも配慮できる上司)をテーマに講演が予定されており、産業活性課と協力し、市内の企業にも参加を呼び掛け、参加者数の増加を図っていきたい。</p> | ○参加者が減っているのにaという評価は疑問に感じた。 | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------------|-----------------------------------|-----|-----------------------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 男女共同参画に関する情報の収集・提供 | 男女共同参画に関する情報や資料等を収集し、市民への提供に努めます。 | 15 | 男女共同参画ルーム「おあしす」の情報コーナーの充実 | 企画政策課 | 関連機関からの情報資料の提供と、常設する図書コーナーに男女共同参画関連図書の購入。 16冊 決算額30千円 【前年度(H26)実績】 19冊購入 決算額31千円 | 男女共同参画に関する情報や資料の「おあしす」の利用者への提供の充実を図る。 | b | | 平成27年度登録団体は、17団体。図書コーナーを充実することや関連機関からの情報資料の提供で利便を図った。 | 今後設置される男女共同参画センターを視野に入れた「おあしす」の充実を検討していく。 | | | |
| | | 16 | 男女共同参画情報誌「Hi、あきしま」の発行 | 企画政策課 | 年2回(10月、3月) 各7,000部発行 決算額 編集委員謝礼 6人 60千円 作成委託 273千円 | 男女共同参画に関する情報誌を市民公募の編集委員により発行し、市民への情報提供を図る。 | a | | 紙ベースと共に、音訳テープ版の発行を行っている。平成24年度からデジター版(CD)の発行を行い、引き続き利便を図った。 また、平成27年度は女性委員4名、男性委員2名が編集にあたった。 | 引き続き、男女共同参画プランの施策の推進が図れるよう、公募の市民委員とともに、市民に情報提供を行っていく。 | | | ○実際に育児に携わっている方々が多く立ち寄りやすい場所や、若い世代の方が行く場所に置くのもアイデアだと思う。 ○一般の方にとっては「堅い」というイメージがある。 ○視覚障害の方、活字では情報を取り込めない方々のために録音図書があるということは素晴らしいことだと思う。 |
| | | 17 | 広報紙等による男女共同参画に関する取り組みの情報提供 | 企画政策課 | 情報誌「Hi、あきしま」7,000部の発行、広報紙全戸配布52,000部で男女共同参画について啓発に努めた。 | 男女共同参画に関する取組みを市民に周知する。 | b | | 身近で、分かりやすく、読んでみたくなる情報誌の作成、配布、設置方法を検討し、紙面の作成にあたった。 | 昨年度実施した市民意識調査の結果、認知度が低いことが判明したので、認知度を上げるような取り組みを検討しながら、引き続き2年に1度実施している市民意識調査などで効果の検証を図る。 | | | |
| | | 18 | ホームページによる男女共同参画の啓発、各種事業の紹介 | 企画政策課 | ホームページで男女共同参画の啓発、事業等の紹介及び報告等を掲載。 ・講演会1回 ・セミナー2回 ・情報誌Hi、あきしま ・男女共同参画ルーム ・女性悩みごと相談 ・男女共同参画推進委員会6回など | 男女共同参画の啓発、各種事業等の紹介をホームページに掲載し、市民への情報提供を図る。 | a | | 定期的な事業や情報の掲載に加え、平成23年度末から、男女共同参画推進委員会の審議状況をホームページで掲載し、市民に情報提供を行っている。 | 引き続き、男女共同参画の啓発、各種事業等の紹介及び報告等を、市民に情報提供していきたい。 | | | |
| | | | | 職員課 | 第四次昭島市職員次世代育成支援プランや毎年の取組状況などを掲載した。 | 昭島市職員の男女共同参画の取組に関する情報提供を行う。 | c | | 第四次昭島市職員次世代育成支援プランなどを掲載し、情報提供に努めた。 | 昭島市職員の男女共同参画の取組を情報提供することの効果を検討することは困難である。 | | | |
| | | | | 健康課 | 実習風景などの写真を掲載し、参加事業の紹介を行った。 | 多くの市民が参加しやすいように作成した。 | b | | 男女共同参画の視点を取り入れた啓発ができた。 | 今後も各健康教室のイメージなどを掲載し、市民に分かりやすい掲載を取り入れていきたい。 | | | |
| | | | | 指導課 | 子どもの主観意見文及び英語スピーチコンテストの文を広報誌で12月に周知した。 | 男女共同参画の視点をテーマとした作品を取り上げた。 | b | | 男女共同参画の視点が児童・生徒の意見文のテーマの一つであったため、地域社会などのテーマなど多岐にわたった。 | 視点の変更は行わず、意見文の指導の中で、男女共同参画の視点もテーマの一つであることを周知する。 | | | ○これからの世代の子どもたちへの教育は大事だと思う。 |
| | | 19 | 図書館における男女共同参画に関する図書コーナーの常設 | 市民会館・公民館 | 男女共同参画セミナー「自分らしいライフ&キャリアをデザインしよう」女性の人権について一部加味し構成している。全4回。参加者8名(女8)。決算額80千円ホームページにより男女共同参画の講座等事業の紹介を随時行った。 | 市民が講座等の情報を得られるよう掲載し紹介する | a | | 男女共同参画の講座等の事業を随時紹介できた。 | よりいっそう分かりやすく紹介できるよう検討していく。 | | | |
| | | | | 市民図書館 | 男女共同参画に関する図書のコーナーの設置を目指したが、スペースの関係でコーナーの設置ができなかった。 | 専用コーナー設置しアピールすることにより男女共同参画に関する啓発を推進する。 | d | | コーナーのスペース確保ができなかったため。 | 現状では、専用スペースの確保が困難。(仮称)教育福祉総合センターでは男女共同参画センターと同じ施設内に入ることで連携により新たなサービスを検討していく。 | | | ○専門コーナー、資料コーナーを設置しているだけでは市民の関心はなかなかそちらに向かないと思うので、そういったコーナーがあること自体を知らない方たちへどう知らせていくかを考える必要がある。資料が置いてあるというだけではなく惹きつける工夫も必要と感じた。 |
| | | 20 | 市役所内における男女共同参画に関する資料コーナーの設置 | 企画政策課 | 1階総合案内、2階情報資料コーナー、3階企画政策課窓口、7階食堂前のラックに関する啓発パンフレット等を配架した。また、2階の行政資料コーナーは閲覧用に男女共同参画プランを設置している。 | 市民への男女共同参画に関する情報や資料の提供の充実を図る。 | a | | 市民への情報提供を図るため、継続して配架場所を確保するとともに、2階情報資料コーナーに新たな配架場所を確保し、その充実に努めた。 | 引き続き、配架場所の確保に努めたい。 | | | ○配架するだけで評価がaになるのはいかがなものかと思う。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-----------------|--------------------------------------|-----|---------------------|-------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----------|-------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 制度、慣行の情見直しに向けた啓 | 男女平等に関する調査分析や法律・制度の改正等についての周知等を行います。 | 21 | 市民意識調査の実施 | 企画政策課 | 市民意識調査については、2年毎に秘書広報課で実施している。平成27年度に実施。 | 男女平等意識等に関する調査・分析を実施し、その結果を男女共同参画事業に反映させていく。 | b | | 2年ごとに状況の把握はできている。 | 分析結果を事業の見直し等に反映させることが課題であり、27年度実施結果をプランの施策の見直し等に活用していく。 | ○男女平等に関する調査をしており、現状の把握を行ったことは評価できる。 | | |
| | | 22 | 関係法令や制度改正等に関する情報提供 | 企画政策課 | 広報紙・情報誌等に掲載するとともに、関係機関からのパンフレット等により情報を提供する。 | 男女平等に関する法律・制度の改正等について周知を図る。 | b | | 関係法令や制度の改正についての情報提供については、継続して取組んでいる。 | 引き続き、啓発活動に努める。27年に成立した女性活躍推進法についても効果的な情報提供方法について検討を進める。 | | | |
| | | 23 | 多様な媒体を通じた広報・啓発活動の推進 | 企画政策課 | ホームページの活用、広報紙や情報誌の配布、リーフレット等の窓口配布、啓発用横断幕の掲示などにより、広報、啓発に努めている。 | 多様な媒体を活用した啓発活動により、その充実を図る。 | a | | できる限り多様な媒体の活用に努めている。 | 引き続き、啓発活動に努める。 | | | |

| 主要 施策 | 主要 施策 の 狙 い |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2)メディアにおける男女平等意識の形成 | メディアが流す情報に含まれるジェンダーに対して市民が敏感に反応できるよう、メディア・リテラシーに関する啓発を行うとともに、男女平等の視点から広報出版物の表現の見直しを行います。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|------------|----|-------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 男女平等の視点に立った学習機会の提供 | 市民がメディアに対して男女平等の視点から主体的な判断ができるよう、メディア・リテラシーに関する学習機会を提供します。 | 24 | 男女平等の視点に立って言葉を見直す学習機会の提供 | 企画政策課 | 情報誌の発行・セミナーの開催等の中で機会の提供に努めている。 | 男女平等の視点から言葉を見直す学習機会を市民に提供する。 | c | 16/33 (48.5%) | 情報誌を発行する中で機会の提供に努めた。 また、どの程度市民に提供できたかを計ることは、困難である。 | 言葉の見直しについては、基本的な方向性を慎重に検討し、総合的な見地から対応する必要がある。 | | 可 | ◆男女平等の視点に立っていない言葉がどのように使われているかなど、学習会などを検討し、意識啓発を図りたい。 |
| | | | | 市民会館・公民館 | 同施策の取り組みは今年度は実施に至らなかった。 | 男女平等の視点に立って言葉を見直す学習機会の提供を図る。 | d | | 施策及び市民ニーズを助成し、事業を企画しているが、当該主要事業に関わる取り組みはできなかった。 | 主要事業については専門性が高いので、市民ニーズなどを参考に検討していきたい。 | | | |
| | | 企画政策課 | メディア・リテラシーに関するセミナーの開催には至らなかった。平成24年度に、情報誌「Hi.あきしま」にメディア・リテラシーの情報を掲載したが、平成27年度は紙面に掲載できなかった。 | メディア・リテラシーに関する学習機会を提供し、市民の情報を評価・識別する能力の向上を計る。 | d | メディア・リテラシーに関するセミナーの開催には至らなかった。平成24年度に、情報誌「Hi.あきしま」に情報を掲載し啓発を図ったが、平成27年度は掲載できなかった。 | まずは情報誌での啓発を含めたメディア・リテラシーの周知を図り、学習会等につながるよう、検討を進める。 | | | | | | |
| 市民会館・公民館 | 同施策の取り組みは今年度は実施に至らなかった。 | メディア・リテラシーに関する講座・学習会の実施を図る。 | d | 施策及び市民ニーズを助成し、事業を企画しているが、当該主要事業に関わる取り組みはできなかった。 | 主要事業については専門性が高いので、市民ニーズなどを参考に検討していきたい。 | ○職員がメディア・リテラシーの扱いに困っている様子がうかがえ、市民も自分たちの意識の向上が実生活にどのように影響しているのかということが分かっていないので難しいと感じた。 | | | | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-----------------------|-----------------------------------|-----|----------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 市の発刊物などにおける男女平等の視点の確立 | 市が発行する出版物においても男女平等の視点に立った表現に努めます。 | 26 | 男女平等の視点による広報や行政資料の発行 | 秘書広報課 | 男女平等の視点に立った「広報あきしま」などの編集について、常に意識して取り組んでいる。 | 市民から、男女平等意識についての市の姿勢に疑問をもたれることなどが無いように努めるとともに、その意識の普及を図る。 | a | | 言葉づかいだけでなく、人物イラストなどに至るまで、常に意識して取り組んでいる。 | 引き続き、男女平等の視点を意識した表現に取り組む。 | | | ◆広報等の出版物の発行に当たり、男女平等の視点に立った言葉・表現の使用が前提となるため、不平等な言葉・表現が使用されることのないように、更なる徹底に努めていただきたい。 |
| | | | | 企画政策課 | 情報誌の編集などの例を挙げるまでもなく、常に意識して取り組んでいる。 | 市が発行する出版物等については、男女平等の視点に立つこと、その編集を行い、市民から市の姿勢に疑問をもたれることなど、ないように努める。 | a | | 行政として当然の取組であると認識しており、行っている。 | 引き続き、男女平等の視点を意識した出版物等の発行に取り組んでいきたい。 | | | |
| | | | | 職員課 | 庁内研修等で、男女平等の視点に立った表現には努めたが、資料等の発行には至らなかった。 | 男女平等の視点に立った表現に努める。 | d | | 資料等の発行には至らなかったため。 | 今後、資料等を発行する際には、男女平等の視点に立った表現に努める。 | | | |
| | | | | 健康課 | ①行政資料の配布 ・母子健康手帳交付時にマタニティクラスや両親学級の案内を配布 ・父親ハンドブックを配布 ②各健康教室での参加の呼びかけ | 男女平等の視点に立った意識の啓発 | b | | ①妊娠届時を利用して、男性の参加意欲を促すことができた。 ②男性が参加しやすい健康教室の開催ができた | 男女平等の視点に立った表現について今後も継続していく | ○父親ハンドブックを配布しているという内容はよい取組だとは思いますが、もう一歩踏み込んでいただき、埼玉県では祖父手帳が配布されており、世代間ギャップを解消する意味で重要である。 | | |
| | | | | 指導課 | 平成22年度に人権教育推進委員会重点として取り組んだ人権課題「女性」について平成27年度も研修課題の一つとして取り組んだ。 | 教員向けの人権教育の通信「子どもの心」で啓発を図る。 | b | | 平成27年度も研修の課題の一つとして取り組んだ。 | 男女平等の視点を個別的な課題として授業で取り上げる。 | | | |
| | | | | 社会教育課 | 独自資料の発行は未実施であるが、提供される資料配布などを行っている。 | 市立会館は、多くの市民が利用することから、他部署からの資料配布の依頼がある。 | b | | 市立会館において他部署の資料提供を実施できたため。 | 引き続き、市立会館において資料提供を行い啓発に努める。 | | | |
| | | | | 市民会館・公民館 | 公民館だよりやチラシ・ポスター等男女平等の視点を配慮し発行を行った。 | 男女平等の視点に立ち広報を図る。 | a | | 男女平等の視点で各種発行物の作成に努め効果があったため。 | 引き続き男女平等の視点を意識し、広報及び資料の発行を行う。 | | | |

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|----------------|---------------|--------|-------|-------------|-------------|
| 3 男女平等教育・学習の推進 | 講座等における男性参加者率 | 12.7% | 19.4% | 20.0% | 30.0% |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| (1) 幼稚園・保育園における男女平等教育・学習の推進 | 幼稚園や保育園において、早い時期から男女平等意識や人権を尊重する意識を育むため、教育・保育を推進するとともに、教職員等に対する研修を充実します。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-------------------------|------------------------------|-----|-----------------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------|----------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 幼稚園・保育園における男女平等教育・学習の推進 | 園児に対し、男女平等意識に基づく教育・保育を推進します。 | 27 | 男女平等意識に基づいた教育・保育の推進 | 子ども子育て推進課 | 保育所保育指針「性別による固定的な役割分業意識を補え付けない配慮をする」の事項に基づき、互いを尊重する心の育成を心掛けた保育を実施する。 | 幼少期において役割分業意識の刷り込みが行われないよう、男女平等にかかる意識づけに留意した保育の実施。 | b | | 日頃から、保育園や幼稚園の職員へ男女平等に留意した保育の実施を働きかけており、役割分業となる保育は行われていない。 | 引き続き、男女平等意識の啓発を働き掛けている。 | ○男女の体の違いは明らか事実であり、それぞれに良い面があり、その辺りをどのように教えていくか、お互い一緒にいるということに意味があり、その辺りを保育園や学校でしっかりと教えられるような現状があればよいと考えている。 | 良 | ◆幼い子どもへの男女平等意識に基づく教育・保育は難しいものがあると思われるが、男女の違いを認めながら、男女平等意識を醸成するよう、引き続き、主導されたい。また、職員についてはその方向で、研修等で意識向上に努めていただきたい。 ◆保育園の運動会に参加すると、若い男性の保育士が活躍しているのを見る機会が多くなり、徐々にではあるが男性保育士も増えていることが感じられる。 |
| | | 28 | 教職員・保育士等に対する男女平等に関する研修の実施 | 子ども子育て推進課 | 各保育園、幼稚園へ男女平等にかかる情報の提供を行っている。 | 職員への男女平等意識の啓発 | b | 4/9 (44.4%) | 冊子の配布による、男女平等についての周知、啓発に努めた。 | 引き続き、男女平等意識の啓発を働き掛ける。職員の男女平等意識の状況について把握に努めた。 | ○その研修が生徒・児童の指導にどう活かされているかという部分が不明である。 | | |
| | | 29 | 教職員・保育士等に対する男女平等に関する実態調査の実施 | 子ども子育て推進課 | 指導する側で、男女で対応の差がないような保育を実施しているが、調査の実施には至っていない。 | 実態調査による状況の把握 | d | | 当該独自の実態調査は実施できなかったため。 | 市民意識調査結果や、各園の男女平等にかかる状況について職員から情報提供をいただき、状況把握に努めていく。 調査実施については、今後の検討課題。 | ○具体的な研修、実態調査が実施されていない | | |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | |
|---------------------------|-----------------------------|-----|------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2)学校教育の場における男女平等教育・学習の推進 | | | | | 学校教育をはじめとするあらゆる教育活動を通し、児童生徒に対し、男女平等意識や人権を尊重する意識を育むための教育を推進するとともに、教職員等に対する研修を充実します。 | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 学校教育における男女平等教育・学習の推進 | 児童生徒に対し、男女平等意識に基づく教育を推進します。 | 30 | 男女平等意識に基づいた教育の推進 | 指導課 | 人権課題「女性」について取り組んだ。 | 人権教育推進委員会で周知する。 | b | 11/15 (73.3%) | 平成22年度の資料を各種会議で周知した。 | 男女平等の視点を個別的な課題として授業で取り上げる。 | ○具体的な研修、実態調査が実施されていない | 良 | ◆児童・生徒に対する周知方法やその効果の検証については、まだ課題がある。 ◆男女平等に特化した教育学習というのは難しいように感じられる。 ◆高学年になると異性への関心が高くなり、デートDVについて知るのも決して早くない時期であると感じる。この年代から男女平等意識や人権意識を育むための教育を進めていただきたい。 ◆学校教育の現場では以前から男女平等教育は進められており、性に関することは養護教諭により授業の中で指導がなされていると認識している。 ◆教職員への啓発が、児童・生徒への指導に活かされているのか検証し、更なる推進を図りたい。 |
| | | 31 | 男女平等の視点に立った生活・進路指導の推進 | 指導課 | 適切な生活・進路指導を各種主任会で2回扱った。 | キャリア教育推進委員会で進路指導主任に周知する。 | a | | 周知・徹底ができたため。 | 継続していく。 | | | |
| | | 32 | 教職員等に対する男女平等に関する研修の実施 | 指導課 | 人権課題「女性」について取り組んだ。 | 人権教育推進委員会及び各種研修で周知する。 | b | | 研修での実施が不十分のため。 | 研修での取り組みを充実していく。 | | | |
| | | 33 | 児童生徒の男女平等に関する意識調査の実施 | 指導課 | 11月に児童・生徒向けにアンケートを実施し、設問に「家族や社会の一員として、お互いをたわりあうように心がけていますか」を記載した。 | アンケートを実施し、経年変化を確認する。 | b | | 男女平等を全面に出した調査ではないため。 | 調査項目の見直しは経年のため難しい。 | | | |
| | | 34 | 学校と家庭・地域が連携した男女平等学習の推進 | 子ども育成課 | 子どもと親の家庭教育講座として3回講座を開催したが男女平等に関しての講座はしていません。 | 社会の急速な変化に伴い、育児不安の増大やしつけへの自信喪失など、家庭や地域の教育力の低下を心配する声が大きくなっている。市では、子どもを取り巻くような状況に「対処するため、家庭、学校、地域と連携して、「子どもと親の家庭教育講座」を開設した。 | b | | 年8回を予定していたが、3回しか実施できなかった。また、男女平等に関してのテーマで、講座を開催していない。 | 講座及び講演の内容は、地域団体やPTAが決定するので男女平等をテーマにするには事前協議が必要になる。 | | | |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|-----|--------------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|------------|----|--------------------------------------------------|
| (3)家庭・地域・社会における男女平等教育・学習の推進 | | | | | さまざまな機会を通して家庭や地域における男女平等教育の重要性を啓発するとともに、社会のあらゆる分野に男女がともに参画することができるよう、多様な学習機会を提供します。 | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 家庭における男女平等教育・学習の推進 | 家庭における男女平等を推進するための学習機会を提供します。 | 35 | 家庭において、男女平等の意識を育てるための講座・学習会の実施 | 企画政策課 | (1)男女共同参画講演会の開催 期日:12月6日(日) テーマ:家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:50人(女性35人、男性15人)、決算額:115千円 (2)男女共同参画セミナーの開催 ①DV防止セミナー 期日:11月25日(水) テーマ:DV被害からの自由 - 自分らしく生きるということ - 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円 ②男女共同参画セミナー 期日:2月22日(月) テーマ:もう一人でがんばらない家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円 | 講演会、セミナーの実施により、家庭における男女平等の意識を育む機会を提供する。 | b | 19/27 (70.4%) | 定期的講演会、セミナーを実施している。セミナーは、直接女性の人権に関するものと、女性の生活支援に関するものをそれぞれ実施し、家庭における男女平等の意識を育む機会を提供したが、前年度より参加者数が減っており、広報の仕方に関係が残った。 【前年度(H26)比較】 男女共同参画講演会:-10人 DV防止セミナー:+4人 男女共同参画セミナー:-9人 | 今後の課題としては、直接、家庭における男女平等意識などをテーマとした、セミナー開催を検討したい。 | | 良 | ◆講座の内容も多様化し、開催日程も対象者に配慮がみられる。更なる充実に向けて取組を継続されたい。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------------|-------------------------------|-----|--------------------------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 家庭における男女平等教育・学習の推進 | 家庭における男女平等を推進するための学習機会を提供します。 | 35 | 家庭において、男女平等の意識を育てるための講座・学習会の実施 | 市民会館・公民館 | (1)子育てセミナー「楽しくつながる+ココロが軽くなる子育て」女性の人権について一部加味し構成している。全8回 参加者17名(男5人、女12人) 256千円 【H26実績】 子育てセミナー6回開催 参加者17人(男5人、女12人) 決算額236千円 (2)男女共同参画セミナー「自分らしいライフ&キャリアをデザインしよう」全4回 参加者8人(女)80千円 【H26実績】 男女共同参画セミナー全4回開催 参加者8人(男)全3回 決算額96千円 | (1)参加者同士の話を通し子育ての悩みなどを共有しつつ、地域とのつながり(持行事により親自身の気持ちに楽になる)の重要性を狙いとし、全8回の講座で、2回男性講師も交えて父親向けの講座を行い、母親、父親のコミュニケーションが円滑に交わされ楽しく子育てできることを狙いとした。 (2)女性の生き方や働き方をみつめ、将来に向けた生き方や働き方をデザインすることを目的とする。 | b | | (1)夫婦参加の回を2回設け、男性、女性講師を招き、別室で講義を行ったことにより、同性同士じっくりと話ことができ、効果はあった。 (2)参加者のほとんどが仕事や家庭で忙しんでいる方々であったが、自分の過去を振り返り今後を考える事が具体的にできた。 【前年度(H26)比較】 子育てセミナー:±0 男女共同参画セミナー:±0 | (1)公民館主催の子育て講座に参加した人が気軽に参加できるように企画したが、地域で子育てに活躍している方の参加が多かった。また、平日開催であったため参加者が少なく、今後は、保護者のニーズに合った日程等の検討をしたい。 (2)内閣府のキャッチフレーズに近い内容のものを企画したが、参加者が少ないことを考えると、テーマ、内容を親しみやすい企画にしていきたい。 | ○取組は工夫されている ○夫婦参加の会を設け、男性講師、女性講師を招き、それぞれ別室で講義を行ったというのはすごく良いと思った。 ○夫婦一緒にセミナー開催など工夫がなされている。 ○取組のねらいは良いが、その取組みの内容について周知方法の表現や対象者が参加しやすい日程で実施する等、工夫も必要だと感じた。 | | |
| | | 36 | 男女平等の視点に立った子育て講座の実施 | 健康課 | (1)フレッシュパパママ学級 年6回実施 参加:286人 【H26実績】 5回実施 参加:228人 | 妊娠期からの父親としての自覚を向上し、子育ては母親だけでなく夫婦で力を合わせて行っていくということを動機づける。 | b | | 教室への応募は多く、参加した父親の反応も良かった。先輩パパママの協力も得られ、具体的なイメージづくりができた。 【前年度(H26)比較】 実施回数: +1回 参加人数: +58人 | 教材が時代に合ったものを、今後検討していく。 | ○健康課の取組内容も良い ○フレッシュパパママ学級について、最近、若いお父さんが普通に子どもを連れてくる姿が見られるようになってきたので、その現状は良いと感じている。 ○「先輩パパママの協力も得られ」とあるが、どういった方にお声掛けしたのかと思ったら、とても人気があったようよい取組だと思った。 | | |
| | | 37 | 講座等の開催における男性参加の促進 | 企画政策課 | (1)男女共同参画講演会の開催 期日:12月6日(日) テーマ:家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:50人(女性35人、男性15人)、決算額:115千円 (2)男女共同参画セミナーの開催 ①DV防止セミナー 期日:11月25日(水) テーマ:DV被害からの自由 -自分らしく生きるということ- 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円 ②男女共同参画セミナー 期日:2月22日(月) テーマ:もう一人でがんばらない家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円 | 男性が参加しやすい講座等を実施し、男性に対する男女共同参画意識の普及、啓発を図る。 | b | | 男性向けのテーマで講座は実施することはなかったが、男性も参加できる講座を実施し、少数ではあるが、男性の参加があり男女共同参画意識の普及、啓発に努めた。今年度の男性参加者数:10人はH26年度(男性参加者数:18人)実績に比べて-8人。 | 今後、参加者を増加させるための工夫と男性が参加しやすい日程や内容での講演会・セミナーの開催が課題であり、引き続き検討したい。 H28年度はイクボス(部下の能力を活かし仕事で成果を上げさせるとともに、部下の私生活にも配慮できる上司)をテーマに講演が予定されており、産業活性化と協力し、市内の企業にも参加を呼び掛け、参加者数の増加を図るとともに、市内の企業にも「イクボス」を普及させていきたい。 | ○男性が参加しやすいように具体的にはどう取り組んだか、納得しづらいところもあった。 ○取組内容に男性の参加をどのように増やすかという工夫が見られない。 | | |
| | | | | 健康課 | 男性を対象にした健康教室を土曜日に開催した。 (1)男性のための運動教室を2回実施した ①5月9・16・23日 ②11月23・30日 参加:62人、決算額:100,800円 (2)男性のためのウォーキング教室 10月31日 参加:13人、決算額14,500円 【H26実績】 男性のための運動教室:6回*70人 | 男性が参加しやすいように土曜日の午前中に実施し、健康づくりができるようにする。 | b | | 男性対象の教室なので気兼ねなく参加できたと好評だった。対象を男性に限定した健康教室に参加した数 75人(前年度比+5人) | 今後も男性が参加しやすい健康教室を実施していく。 | ○運動教室やウォーキング教室が施策の目的にあっているのかわかか疑問である。 ○取組のねらいと内容が施策の趣旨とずれていると感じた。 | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-----------------------|-----------------------------------------|-----|-----------------------------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 家庭における男女平等教育・学習の推進 | 家庭における男女平等を推進するための学習機会を提供します。 | 37 | 講座等の開催における男性参加の促進 | 市民会館・公民館 | 講座の多くは男女の区別なく参加できるようになっているが、男性が参加しやすい内容の講座を実施した。 〔1〕地域公民館事業 地域課題講座「日本の科学技術最前線」全4回 参加者50人(男35人・女15人) 決算額89千円 【H26実績】 地域公民館事業 「地域災害から身を守る」14回 参加者27人(男18人、女9人) 決算額81千円 〔2〕自主市民講座「暮らしに役立つ環境講座～再生エネルギー・下水道の再利用・自然災害・食の安全について～」参加者33人(男22人・女11人) 68.5千円 | 講座のテーマ、内容、開催日時等を勘案し男性参加の促進を図る。 | a | | 講座の多くは、男女区別なく参加できるようになっているが結果として男性の参加が多く見受けられた。 【前年度(H26)比較】 地域公民館事業：+23人(男：17人、女：6人) | 引き続き男性参加の促進が図れるよう講座の内容等を工夫していく。 | | | |
| | | 38 | 男女共同参画ルーム「おあしす」の周知及び機能の充実 | 企画政策課 | 男女共同参画ルーム「おあしす」について、広報紙(6/15号)に掲載し啓発に努めた。 また、関連図書を購入して施設の充実を図った。 男女共同参画関連図書の購入。 16冊 決算額30千円 | 男女平等の意識を育むことができるよう、情報提供を図るとともに、学習の場を提供する。 | b | | 「おあしす」の周知と充実を図ることに努めているが、施設の規模や老朽化が進む現状から、利用の拡大には至っていない。 なお、資料の購入等、機能の充実には努めている。 | 今後設置される男女共同参画センターを視野に入れ、「おあしす」の充実を検討する。 | ○おあしすの周知はあまり図れていないと感じている。借りたい本もあるが借りづらい。もっとおあしすの周知を図り、利用を促すような工夫をした方が良いと感じた。 | | |
| 地域・社会における男女平等教育・学習の推進 | 市民が生涯にわたり男女平等の意識を育むことができるよう、学習機会を提供します。 | 39 | 男女平等・男女共同参画に関する講座・学習会の実施(No.10再掲) | 企画政策課 | 〔1〕男女共同参画講演会の開催 期日：12月6日(日) テーマ：家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者：50人(女性35人、男性15人)、決算額：115千円 〔2〕男女共同参画セミナーの開催 ①DV防止セミナー 期日：11月25日(水) テーマ：DV被害からの自由－自分らしく生きるということ－ 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者：17人(女性16人、男性1人)、決算額：28千円 ②男女共同参画セミナー 期日：2月22日(月) テーマ：もう一人でがんばらない家事半分術 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者：27人(女性25人、男性2人)、決算額：24千円 | 講演会、セミナーの実施により、男女平等・男女共同参画に関する意識の普及、啓発を図る。 | b | | 定期的講演会、セミナーを実施している。セミナーは、DV防止に関するもの、女性の生活支援に関するものをそれぞれ実施し、男女平等・男女共同参画に関する意識の普及、啓発に努めたが、結果として前年度より参加者数が減っており、参加を呼びかける広報の仕方等に課題が残った。 【前年度(H26)比較】 男女共同参画講演会：-10人 DV防止セミナー：+4人 男女共同参画セミナー：-9人 | 引き続き、参加を増やす取組みの研究が必要である。 H28年度はイクボス(部下の能力を活かし仕事で成果を上げさせるとともに、部下の私生活にも配慮できる上司)をテーマに講演が予定されており、産業活性課と協力し、市内の企業にも参加を呼び掛け、参加者数の増加を図ってきたい。 | ○講演会「家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方」というテーマで、このタイトルなら周りに声をかけやすいので、このようなテーマが増えるといいと感じた。 | | |
| | | | | 市民会館・公民館 | 〔1〕子育てセミナー「楽しくつながる+ココロが軽くなる子育て」女性の権利について一部加味し構成している。全8回 参加者17名(男5人、女12人) 256千円 【H26実績】 子育てセミナー6回開催 参加者17人(男5人、女12人) 決算額236千円 | 〔1〕参加者同士の話を通し子育ての悩みなどを共有しつつ、地域とのつながり(持つ事により親自身の気持ちも楽になる)の重要性を狙いとし、全8回の講座で、2回男性講師も交えて父親向けの講座を行い、母親、父親のコミュニケーションが円滑に交わされ楽しく子育てできることを狙いとしました。 | b | | 夫婦参加の回を2回設け、男性、女性講師を招き、別室で講義を行ったことにより、同性同士じっくりと話すことができ、効果はあった。 【前年度(H26)比較】 子育てセミナー：±0 | 公民館主催の子育て講座に参加したことがない人が気軽に参加できるように企画したが、地域で子育てに活躍している方の参加が多かった。また、平日開催であったため参加者が少なく、今後は、保護者のニーズに合った日程等の検討をした。 | ○施策のねらいとずれている。 | | |

目標Ⅱ 配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援と男女の健康支援

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|-------------|-------------------|--------|-------|-------------|-------------|
| 1 あらゆる暴力の防止 | 「DV防止法」を知っている人の割合 | 33.7% | 31.1% | 40.0% | 60.0% |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | | | |
|------------------------------|-------------------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------|
| (1) 配偶者等からの暴力防止のための意識啓発・情報提供 | | | | | ドメスティック・バイオレンス(DV)等の男女間の暴力は、人権侵害であるという認識を広め、啓発活動などによる意識づくりや情報提供の充実へ努めます。 | | | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | | |
| 配偶者等からの暴力防止のための広報・啓発 | 配偶者等からの暴力の防止に向けた、情報提供等による意識啓発を行います。 | 40 | 配偶者等からの暴力根絶の広報・啓発 | 企画政策課 | 広報紙(11/1号)に「女性に対する暴力をなくす運動」を掲載。DV防止セミナー「DV被害からの自由 一人自分らしく生きるということ」11/25実施 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円 | 配偶者等からの暴力の防止に向けた情報提供等により、配偶者等からの暴力の根絶を図る。 | a | 19/27 (70.4%) | 広報紙の全戸配付(52,000部)やセミナーを開催し啓発に努めた。前年より受講者が増え(+3人)、参加者アンケートからも評価が高かったことから、推進が図られていると考えている。 | 引き続き、広報紙掲載、セミナーの開催等啓発に努めていきたい。 | ○全戸配布の広報紙はよく読まれているので、『Hi.あきしま』も全戸配布できればいいと感じている。 ○届けたい人に届いていないという印象がぬくえない。 ○自分から伝えるのはデリケートなことであるため『Hi.あきしま』がポストに入っていれば、嫌でも目に付くので市の取組として進めてほしい。 | 良 | ◆活字による広報啓発によって、被害者にも加害者にも気づいてもらうことが大事である。 ◆積極的に取り組まれており、成果も上がっている。何がDVにあたるのか具体的な広報・啓発など、更なる周知を図られたい。 | | |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 各課との連携により、自治会を通じて情報を発信し、市民への啓発に努めている。 | 配偶者等からの暴力の根絶のための情報提供と啓発 | c | | | | | | | 被害者からの相談には、警察等関係機関を案内し、対応に努めている。 | 被害を防ぐために他部署と連携し、意識啓発の一助を担う。 |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 母子生活支援施設及び女性相談センター等の利用により、対応 | 被害者の安全確保 | b | | | | | | | 被害者の安全確保を第一に考えている。被害者支援に必要な情報の共有を関係機関と連携し対応している。 | 継続。。相談者との対応の中で助言啓発する。 |
| | | 生活コミュニティ課 | 不審者情報の提供があった場合、安全・安心まちづくり広報車による啓発を実施 | 情報提供による啓発 | c | 被害者からの相談には、警察等関係機関を案内し、対応に努めている。 | より効果的な広報・啓発方法を検討する。 | | | | | | | | |
| 42 | デートDV防止啓発の推進 | 企画政策課 | DV防止セミナー「DV被害からの自由 一人自分らしく生きるということ」11/25実施 参加者21人(女性19人、男性2人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】参加者:17人(女性16人、男性1人)、決算額:28千円 | デートDV防止に関する情報の提供や啓発により、デートDVの防止を図る。 | b | デートDVに特化した取組は行っていないが、DV防止セミナーを実施し、啓発に努めた。 また、DV防止啓発カードを市内公共施設に設置し、啓発に努めた。 | 今後の課題としては、市内の中学校、高校に協力いただき、若者を対象とした事業の実施や啓発ポスターの作成による周知を検討していく。 | ○昨年不審者情報などの件数をお示ししたが、今年は統計をとっていないが、明らかに情報量が増えている。近隣自治体からの情報も含め昭島市の情報が増えており、改善が見られた。 | | | | | | | |
| | | 指導課 | 平成26年度から学校に相談窓口(担当者)を設置した。 平成27年度は学校における相談件数0 | 担当者を各校に設置する。 | a | 全校に設置したため。 | この取り組みを継続し、相談体制の周知を図っていく。 | ○指導課の取組は各校に相談窓口を設置とあり、素晴らしい取組だと思った。 ○相談件数が0ということは、デートDVがなかったということなのか、周知不足なのか、相談しにくい環境なのか実際には分からないが、周知不足という印象を受ける。 ○窓口を設置したということだが、利用方法が知られているのか疑問である。取組を継続し周知を図ることが重要である。 | | | | | | | |
| 学校・地域等で施の教育や研修の実 | 学校や地域においても、配偶者等からの暴力防止に対して、認識を深めるよう教育や研修を充実します。 | 43 | 民生委員等へのあらゆる暴力の防止についての研修の実施 | 生活福祉課 | 東京都や各関係機関で実施される研修について地区の各会長に案内し、出席について会員への周知依頼をした。 | 共通した理解・認識を持ち、市民からの相談に対応することができる。 | c | 東京都主催の人権研修等の参加者17名。暴力や人権侵害に対する認識を深めた。市民からの相談に対しても、警察や関係機関への相談を促す等適切な対応、助言ができていた。 【H26実績】人権研修参加者数:16名 | 日々、活動に追われる民生委員の研修参加はなかなか困難であるが、各関係機関から届く研修についてはもれなく周知を図り、受講の支援をし、日頃の活動の充実に繋げる。 | ○よい取組だと思った。 | | | | | |
| | | 44 | 性暴力に対する認識を深める教育の推進 | 指導課 | 児童・生徒に各教科等を通じた性教育の中で家族の大切さや自分の心身の健康等について指導していくとともに相談できる環境づくりを行う。 | 子ども家庭支援センターと情報共有しながら、家庭の状況を把握し、保護者や児童・生徒の相談に適切に対応していく。 | a | 性教育を教科等の指導計画に位置付け取り組んだ。 | この取り組みを継続し、相談体制の充実を検討する。 | | | | | | |
| | | 45 | 教職員に対する研修の実施 | 指導課 | 子ども家庭支援センターの職員から教員に対しての講義を行った。 | 全校から教員が参加できるようにした。 | a | 全校の教員が参加できた。 | さらに、多くの教員の意識啓発を図る。 | ○講義内容がどのように意識啓発につながったかというような効果測定ができない状況なので、この文面だけでは判断できない。 | | | | | |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----|---------------------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| (2) セクシュアル・ハラスメント防止の取り組み | | | | | 職場等におけるセクシュアル・ハラスメント防止に関する取り組みを強化するため、セクシュアル・ハラスメントに関する啓発・研修等を推進します。 | | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | |
| メ セ ク シ ョ ン シ ョ ン 報 防 ユ ・ 止 ア 啓 の ル 発 た ・ め ハ ラ 広 ス | 職場等におけるセクシュアル・ハラスメントを防止するための啓発活動を行います。 | 46 | セクシュアル・ハラスメント防止に関する広報・啓発の推進 | 企画政策課 | 関連情報が掲載されている労働関係の手引書、情報誌をおおしに配架し、広報啓発に努めた。 | セクシュアル・ハラスメントに関する情報の提供や啓発により、セクシュアル・ハラスメントの防止を図る。 | b | 9/15 (60.0%) | 特にセクシュアル・ハラスメントに特化した取組はなかった。セクシュアル・ハラスメントについては、一定程度社会で認知されており、その対応は図られていると考える。 | セクシュアル・ハラスメントについては、機会をとらえ、啓発に努めたい。 | ○取組がなされていない。 ○この言葉自体は確かに認知されてきていると思うが、具体的にどのような言動がハラスメントにあたるのかというのにはあまり知られておらず、どの程度までなのかというのを広報していく必要がある。 | 良 | ◆ハラスメントもセクシュアル・ハラスメントだけではなくマタハラ、家事ハラなどもあるので総合的な対策が必要になると思われる。 ◆研修の結果、それが実際にどう意識啓発に役立ち具体的に生かされているか、研修の効果について、検証が必要である。 | |
| | | 47 | 事業所に対するセクシュアル・ハラスメント防止の普及・啓発 | 産業活性課 | 街頭労働相談時及び本庁1階と勤労労働市民センターのラックにパンフレット等を配布 | 広報紙、パンフレット等の情報提供による啓発 | c | | パンフレットの配布等、情報提供に努めた。 | 事業者や管理職に対する啓発活動について検討する必要がある。 | ○取組がなされていない。 | | | |
| シ ン ユ ア ル ・ ハ ラ ス メ ン ト 防 止 対 策 の 推 進 | 市職員や関係職員に対し、セクシュアル・ハラスメント防止対策を進めます。 | 48 | 市職員、教職員、民生委員等に対するセクシュアル・ハラスメント防止研修の実施 | 職員課 | 「より良い職場環境をつくるために」をテーマとした研修会を開催し、採用職員をはじめ24名の職員が受講した。 【前年度(H26)実施状況】 受講者数17名 | セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントの問題を理解し、その発生を防止し、快適な職場環境の形成を図る。 | b | | 前年度より受講者数も増え(前年度比+7名)、セクシュアル・ハラスメント防止に向け、職員の意識の高揚が図られた。 | 引き続き、研修等を通じて職員の意識の高揚を図り、快適な職場環境の形成に努める。 | 良 | | | ◆研修の結果、それが実際にどう意識啓発に役立ち具体的に生かされているか、研修の効果について、検証が必要である。 |
| | | | | 生活福祉課 | 東京都や各関係機関で実施される各種研修について地区の各会長に案内し、地区の会員への周知依頼をした。 | 共通した理解・認識を持つことで、その発生を防止し、快適な活動環境の形成を図ることができる。 | c | | 東京都主催の「人権研修等の参加者17名。セクシュアル・ハラスメントに対する認識を深めた。市民からの相談の対応に活かすだけでなく、民生委員の快適な組織内活動の環境づくりの意識付けができた。 【H26実績】 人権研修参加者数:16名 | 日々、活動に追われる民生委員の研修参加はなかなか困難であるが、各関係機関から届く研修についてはもれなく周知を図り、受講の支援をし、日頃の活動の充実、快適な組織内活動の環境づくりに繋げる。 | | | | |
| | | | | 指導課 | 全校に担当者を設置し、常に情報が入る環境を設定した。 | 担当者を各校に設置する。 | a | 全校に設置したため。 | この取り組みを継続する。 | | | | | |

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 2 配偶者等からの暴力などによる被害者への支援体制の確立 | DVの被害を受けた人のうち、「相談した」人の割合 | [女性] 33.0% [男性] 2.9% | [女性] 32.8% [男性] 27.6% | [女性] 50.0% [男性] 10.0% | [女性] 70.0% [男性] 30.0% |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | |
|----------------------------------------|---------------------------------------------|-----|----------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------|------------------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| (1) 配偶者等からの暴力などによる被害者の安全確保と自立支援 | | | | | 関係機関等との連携を図り、配偶者等からの暴力などによる被害者の安全確保と自立に向けた支援を行うとともに、加害者の再発防止に向けた対策についても検討します。 | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 被 害 者 の 安 全 確 保 | 国や都、関係機関等と連携し、被害者とその家族が安全かつ安心して避難できるようにします。 | 49 | 被害者の安全確保のための施設等の確保 | 子ども子育て支援課 | 母子生活支援施設及び女性相談センター等の施設を利用し対応 | 被害者の安全確保 | a | 17/21 (81.0%) | 被害者の安全確保を第一に努めている。No.40に関連 | 継続 | 良 | ◆被害者の安全確保について、できる範囲で実績の記載を検討されたい。 ◆警察と市で速やかに連絡が届くような体制づくりについて、さらなる取組の強化を図られたい。 ◆被害者のシェルター等への保護・職業支援、子どもの処遇、そういったものを一つの流れとして、市として本気で取り組んでいただきたい。被害にあっていらっしゃる方に寄り添う姿勢で対応していただきたい。 ◆引き続き、警察など関係機関との連携を密にし、被害者の安全確保をはじめとする支援をお願いする。 | |
| | | 50 | 民間シェルターへの支援 | 子ども子育て支援課 | 多摩地域民間シェルター連絡会に対し10万円の補助金を支出。 | シェルターの安定的運用とその利用 | a | | 必要に応じて利用することは被害者の救済に必須。 | 継続 | | | |
| | | 51 | 被害者の安全確保のための庁内各部署の連携 | 企画政策課 | 庁内の連絡会として、「DV被害者支援部会」を実施し、情報交換を行い連携を深めた。(H27年度は2回実施) また実務に携わっている課が連携して関係者会議を開催するなどして、被害者保護にあたっている。 | DV被害者支援に向けた庁内各部署の連携。 | b | | DV被害者支援部会を定期的に開催することで、連携が必要なケースの発生に備え、関係部署間で体制づくりを行っている。 | 引き続き、定期的な DV被害者支援部会の開催で、情報交換を行い、庁内の連携強化を図る。 | | | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 健康課(保健指導係)、子ども家庭支援センター、生活福祉課、市民課(住民基本台帳)等連携する。 | 被害者の安全確保と個人情報の管理 | b | | 個別ケースの事案発生時において関係機関の連携はおおた取れている。 | 緊密な連携や共通認識についての遺漏がないか徹底したい。 | | | |
| | | | | 指導課 | 平成26年度から学校に相談窓口(担当者)を設置した。平成27年度の相談件数は10件。 | 担当者を各校に設置する。 | a | 全校に設置したため。 | この取り組みを継続する。 | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------------|-----|----------------------|-----------|-------------------------------------------------|-----------------------------|-----------|-------------|----------------------------|----------------------------------------------|------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 支の被害 推進 の立者 | 被害者が落ち着いた生活を取り戻せるよう、自立に向けたさまざまな支援を行います。 | 52 | 被害者の自立に関する支援の実施 | 子ども子育て支援課 | 他市・他機関との連携を図り、被害者支援おこなう | 被害者の自立支援 | b | | 同行支援等被害者の安全確保のうちに自立を促している。 | 相談や対応が漸増し、複雑化する中相談者の安全面の確保のためにも人的な対応に苦慮している。 | ○具体的内容に乏しい | | |
| け発加 みた防害 の取止 りへの 組向再 | 加害者の再発防止に向けた取り組みを検討します。 | 53 | 「加害者更生プログラム」策定の都への要請 | 企画政策課 | 都の28年度予算編成に対する要望の中で「加害者更生プログラム」の策定への早期の取組を要望した。 | 東京都に対し、加害者の再発防止に向けた取組を要請する。 | b | | 平成27年度も東京都に市長会を通じて要請を行った。 | 引き続き、「加害者更生プログラム」が策定されるよう、市長会を通じて要請を行ってきたい。 | | | |

| 主要 施策 | | 主要 施策 の 狙 い | |
|---------------------|--|--------------------------------------------------------------------|--|
| (2)関係機関との連携と相談体制の充実 | | 被害者が相談しやすい環境づくりのための相談体制の充実や相談窓口の周知を図るとともに、国や都、関係機関等による連携の強化を推進します。 | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-------------------|--------------------------------|-----|----------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-----------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| あらゆる暴力に対する相談体制の充実 | あらゆる暴力に対する相談体制の充実と、窓口の連携を図ります。 | 54 | あらゆる暴力についての相談窓口の連携 | 企画政策課 | 女性悩みごと相談（毎週水曜日・27年度：47回）を通し、庁内の相談窓口等の連携を図っている。 相談者数 96人（うちDV相談16人） 決算額762千円 | 相談窓口の連携により、相談業務の充実を図る。 | b | 25/36 (69.4%) | 平成25年度に「DV被害者支援部会」を設置し、以降毎年関連部署との連携を図るべく情報交換等を行っている。 | 引き続き、定期的な「DV被害者支援部会」での情報交換で、庁内の連携強化を図る。 | ○相談体制が整っているということでは素晴らしいのだが、このあたりはもっと強化していただいて、広報活動も含めてアピールし、市としてきちんと取組んでいるということを示してほしい。 | 良 | ◆DVの問題がきっかけとなり家庭が崩壊し、貧困に陥るというケースが増えている。子どもの貧困に対して今後対策が必要になってくるものと思われる、具体的な支援について検討されたい。 ◆相談窓口を充実させると同時に、未然防止・早期発見に向け、連携強化を図らねたい。 |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 安全・安心まちづくり推進協議会（年1回開催、出席者15人）、連絡会（年2回開催、出席者14人）を開催し、関係機関と連携を図っている。 【前年度実施状況】H27年度と同様 | 情報提供による啓発 | b | | 一定の連携が取れている | 関係機関との連携による効果的な広報・啓発方法の検討に努める。 | | | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 女性被害者の状況に対応した連携を行っている。 | 適切な連携により避難、救済、自立等を支援する。 | a | | 効果の可視化は難しい面もあるが、連携して有益な相談を実施できている。 | 取組を継続し、さらなる充実を図る。 | | | |
| | | | | 指導課 | 平成26年度から学校に相談窓口（担当者）を設置済みである。平成27年度の相談件数は10件。 | 担当者を各校に設置する。 | a | | 全校に設置したため。 | この取り組みを継続し、相談体制の周知を図っていく。 | | | |
| 関係機関との連携 | 国や都、関係機関等との連携体制の確立を推進します。 | 55 | 配偶者暴力相談支援センター機能を有する拠点の検討 | 企画政策課 | （仮称）教育福祉総合センターに整備を予定している「男女共同参画センター」の検討にあたって、配暴センター機能を有する拠点の検討を行った。 | 配偶者暴力相談支援センター機能を有する拠点の検討。 | a | 25/36 (69.4%) | （仮称）教育福祉総合センター内に配暴センター機能を有する拠点整備を視野に入れた男女共同参画センター整備の検討を行った。 | DVに関わる関連部署と連携し、教育福祉総合センターに整備を予定している「男女共同参画センター」開設に合わせ、配偶者暴力相談支援センターの機能を有する拠点整備の検討に努める。 | ○相談体制が整っているということでは素晴らしいのだが、このあたりはもっと強化していただいて、広報活動も含めてアピールし、市としてきちんと取組んでいるということを示してほしい。 | 良 | ◆DVの問題がきっかけとなり家庭が崩壊し、貧困に陥るというケースが増えている。子どもの貧困に対して今後対策が必要になってくるものと思われる、具体的な支援について検討されたい。 ◆相談窓口を充実させると同時に、未然防止・早期発見に向け、連携強化を図らねたい。 |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 企画政策課と連携し配暴センター機能を有する拠点整備の検討を行った。 | 被害者の減少、意識づけや連携の向上 対応力の向上 | a | | 現状は母子相談女性相談の中で対応している。 | 組織の見直しも必要になるため、拠点については関係部署と連携し検討する。 | | | |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 安全・安心まちづくり推進協議会（年1回開催、出席者15人）、連絡会（年2回開催、出席者14人）を開催し、関係機関と連携を図っている。 【前年度実施状況】H27年度と同様 | 情報提供による啓発 | b | | 一定の連携が取れている | 関係機関との連携による効果的な広報・啓発方法の検討に努める | | | |
| 関係機関との連携 | 国や都、関係機関等との連携体制の確立を推進します。 | 56 | あらゆる暴力について警察等関係機関との連携 | 子ども子育て支援課 | 被害者の状況に対応した連携を行っている。状況に応じ警察等関係機関との連携をとり相談業務を実施した。 | 被害者の減少、意識づけや連携の向上 対応力の向上 | a | 25/36 (69.4%) | 関係機関との連携体制は取れており、被害者の救済につなげている。庁内では要保護児童対策地域協議会もあり、児童虐待への対応等について、関係部署間で連携してあっている。 | 今後もこの取り組みを継続し、関係機関との連携を図る。 | ○相談体制が整っているということでは素晴らしいのだが、このあたりはもっと強化していただいて、広報活動も含めてアピールし、市としてきちんと取組んでいるということを示してほしい。 | 良 | ◆DVの問題がきっかけとなり家庭が崩壊し、貧困に陥るというケースが増えている。子どもの貧困に対して今後対策が必要になってくるものと思われる、具体的な支援について検討されたい。 ◆相談窓口を充実させると同時に、未然防止・早期発見に向け、連携強化を図らねたい。 |
| | | | | 企画政策課 | 東京都女性相談センターを中心に、所轄の警察と市役所関係者との連絡会議を開催している。 | 東京都女性相談センター、警察等とのDVIに関する連携の強化を図る。 | b | | 庁内における関連部署との情報交換等を行ったが、連絡協議会の設置には至っていない。 | 平成25年度に、庁内における関連部署との情報交換等の場の設置を行ったが、これを発展させ、対外的な連携の場として位置づけることを、引き続き検討する。 | | | |
| 関係機関との連携 | 国や都、関係機関等との連携体制の確立を推進します。 | 57 | 東京都女性相談センター及び警察等とのDVに関する連絡協議会の設置 | 子ども子育て支援課 | 東京都女性相談センター及び警察等との連絡会議に参加した。 | 各機関との調整、情報交換等現場対応へ反映させる。 | b | 25/36 (69.4%) | 連絡会等に参加し、情報収集、ケーススタディを行い通常の相談業務に生かしている。事案により警察とも緊密な連携をとっている。 | 今後もこの取り組みを継続する。 | ○相談体制が整っているということでは素晴らしいのだが、このあたりはもっと強化していただいて、広報活動も含めてアピールし、市としてきちんと取組んでいるということを示してほしい。 | 良 | ◆DVの問題がきっかけとなり家庭が崩壊し、貧困に陥るというケースが増えている。子どもの貧困に対して今後対策が必要になってくるものと思われる、具体的な支援について検討されたい。 ◆相談窓口を充実させると同時に、未然防止・早期発見に向け、連携強化を図らねたい。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-------------------------|---------------------------|-----|---------------------------|-----------|-------------------------------------------------|----------------------------|-----------|-------------|----------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 関係 連機 携 関 の | 国や都、関係機関等との連携体制の確立を推進します。 | 58 | 暴力防止に関する法律・制度整備についての国への要請 | 企画政策課 | 要請は実施していない。DV防止法は既に制定されており、同法による取組の進展を見定めていきたい。 | 暴力防止に関する法律・制度整備についての国への要請。 | d | | 要請は実施していない。 | 今後の国の動向を注視し、要請内容等について、関連部署との情報交換の場で検討して行きたい。 | | | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 現段階では情報収集にとどまっている。 | 暴力防止についての意識の向上 | d | | 情報収集のみで特段の行動をとっていない。 | 企画部門との連携 | ○情報収集に留まるという記載内容で、このあたりはなぜこの段階で主要事業に含まれているのか。 | | |

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|-----------------|------------|-------------|-----------|-------------|-------------|
| 3 生涯を通じた男女の健康支援 | 健康教育事業参加者数 | [女性] 1,257人 | [女性] 987人 | [女性] 1,330人 | [女性] 1,480人 |
| | | [男性] 221人 | [男性] 153人 | [男性] 270人 | [男性] 320人 |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|------------|-----------------------------------------------------------|
| (1)互いの性の尊重 | 男女がともに性と生殖に関して正しい知識をもち、互いの性を尊重し、理解を深めるための啓発や学習機会の提供を行います。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | |
| 年齢に 応 じ た 性 に 関 す る 学 習 | 男女の性についての理解を図るため、年齢に応じた学習機会の提供を行います。 | 59 | 学校教育における性教育の推進 | 指導課 | 体育健康に関する年間指導計画年度初めまでに立案し、計画に基づいて適切に指導した。 | 年間指導計画に基づき、発達段階に応じた指導を行う。 | b | | 小学校では計画を見直し、中学校でも計画の見直しをする必要が生じたため。 | 中学校は、新しい教科書の内容に合わせた指導を実践する。 | | | | |
| | | | | 企画政策課 | 性の尊重に関する学習機会の提供は出来なかった。今後の課題として、検討したい。 | 性についての理解を図るため、年齢に応じた学習機会を提供する。 | d | | 性の尊重に関する学習機会の提供は出来なかった。24年度データDV防止支援カードを中学3年生に配布したが、27年度は作成できず、市の施設への補充に留まった。 | 今後、講演会やセミナーにおいて、どのようなことができるか検討していきたい。28年度にDV防止支援カードを作成し、市内公共施設に配布を予定している。 | | | | |
| | | | | 市民会館・公民館 | 同施策の取り組みはできなかった。 | 性の尊重に関する学習機会の提供を図る。 | d | | 直接、性の尊重に関する学習機会の提供はしていないが、子育てセミナーや教育文化セミナーに一部関連する内容が含まれているが、効果が出るまではない。 | 性の尊重に関する学習機会の提供の重要性は認識しているため、講座のあり方について検討していきたい。 | | | | |
| 性に関 す る 相 談 体 制 の 充 実 | 性に関する相談窓口の明確化を図るとともに、相談体制の充実を図ります。 | 61 | 性に関する相談の充実 | 健康課 | 女性医師による健康相談の実施・毎月4木曜日の午後予約制実施21名【H26実績】11名 | 女性特有の悩みや健康上の悩みを気軽に相談できるよう配慮し実施 | b | 16/30 (53.3%) | 利用は少なめだが、相談後に大変よかったと感想を述べていることから市民の反応も好評であると考えられる。 | 今後も女性が気軽に医師に相談できるよう広報活動を実施していきたい。 | | 可 | <ul style="list-style-type: none"> ◆全体として取組が進められていない印象である。LGBT、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて、啓発活動を積極的に行えば理解が進むものと考えられる。 ◆性を差なくするという社会の流れの中で、男女の違い、差を教えないと性教育に取組の難しさが感じられる。 ◆正しい知識を持つことで性的被害を防ぐことが可能となる。大人として子どもを守るという観点から取組を進めていただきたい。 ◆28年度にDV防止支援カードを作るという記載もあり、こうした部分で進捗を期待している。 ◆委員会の評価としては条件付きの可となったが、半数に近い委員が不可としか認められないという意見を持っていることを担当課職員にも認識していただきたい。 ◆まだまだ身近に感じられないリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を普及していることは困難な課題ではあるが、取組を進められたい。 | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 母子・女性相談の中で事案により対応。 | 女性の健康・不安の解消等不利益の防止や軽減 | b | | | 通常複合的な相談となるがその中でアドバイスを行い対応している。 | 性に対する相談体制はないが相談の一環としての対応はしている。 | | | |
| | | | | 指導課 | スクールカウンセラーを全校に引き続き配置した。 | スクールカウンセラーが相談内容の一つとして受ける。 | b | | | 性に関する相談に特化していないため。 | 毎年数件は相談がある状況にあるため継続して話を聞くようにする。 | | | |
| ル リ ス プ の ラ ダ 解 イ ク の ツ テ 促 に イ 進 つ プ い ・ て へ | 性と生殖に関する健康／権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)の考え方の定着を図るとともに、それを阻害する環境の是正に努めます。 | 63 | リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する情報提供 | 企画政策課 | 平成25年度に情報誌「Hi.あきしま」に、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する情報を掲載したが、27年度はこの取組での情報提供はできなかった。 | 性と生殖に関する健康／権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)についての理解と促進。 | d | | 日本においては、かなり認知度が低いと考えるが、その柱の一つである「安心して安全な妊娠、出産ができる」については、ある程度実現できていると認識している。今後どのような情報提供が必要か、効果的な情報提供の手法について検討課題となる。 | | | | | |
| | | | | 健康課 | 窓口パンフレットを配布 | リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する周知を図る。 | b | | 市民が多く利用するエントランスホールやロビーにパンフレットを設置し配布できた。 | パンフレット置き場が適切か、利用状況を確認し、配置など工夫していきたい。 | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|----------------------|------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| リプロダクティブ・ヘルズ/ライツについて | 性と生殖に関する健康/権利(リプロダクティブ・ヘルズ/ライツ)の考え方の定着を図るとともに、それを阻害する環境の是正に努めます。 | 64 | リプロダクティブ・ヘルズ/ライツの視点に立った子育て学級、健康学習の推進 | 健康課 | ・リフレッシュお母さん教室 8回ひとコースを年間6コース実施など開催 実績:32回*548人参加 【H26実績】 32回*534人参加 ・わくわく親子体操教室 5歳未満:年18回 138組 3歳以上:年18回 143組 | (1)育児中でストレスを抱えた母に対し、ヨガやリラクゼーションなど心の健康を取り戻し、自身の健康回復を促す (2)参加者同士の交流をはかり、孤立化を防ぐ ・わくわく親子体操教室 親子で遊びの中に健康増進の要素を取り入れた体操を行い、健康増進を図ると共に、子育て世代家庭同士の交流を支援する。 | a | | 開催時には保育をつけ、育児中の母親が参加し易い教室を計画・実施できている。 母親同士の交流が図れるように運営上できている。 【前年度(H26)比較】 参加者数:+14人 ・わくわく親子体操教室は平成27年度より新規事業委託にて実施している。 駐車場スペースを確保し参加しやすい環境設定で実施できた。 | 初回参加希望者を優先しているが、リピーターもいる。地域でも育児中の母親が参加しやすい教室を普及したい ・今後も子育て世代の交流を図りながら、親子の健康増進を促進する。 | | | |
| | | 65 | リプロダクティブ・ヘルズ/ライツの視点に立った相談体制の充実 | 健康課 | 女性医師による健康相談の実施 ・毎月第4木曜日の午後予約制 実績21名 【H26実績】 11名 | 女性医師2名が交替で健康相談を担当している。女性医師の専門性をいかし、相談者の問題解決をはかる | a | | 相談者が十分に相談できるような配慮ができています。 【前年度(H26)比較】 相談人数:+8人 | 今後も女性が気軽に医師に相談できるよう広報活動を実施していきたい | | | |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|-----------------------|------------------------------------------------------|
| (2)性差や年代に応じた心と身体の健康支援 | 男女がともに生涯を通じて心身ともに健康に過ごすため、年代の個々に応じたきめ細やかな健康支援を実施します。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------|--------------------------------------|-----|-----------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 女性の健康の保持・増進 | 女性固有の病気や身体機能を考慮した、生涯にわたる健康づくりを支援します。 | 66 | 妊娠・出産等に関する支援の推進 | 健康課 | を設けている H27年度実績:妊娠届894件 妊娠届場所:あいぼっく・本庁・東部出張所 2)妊婦健康診査14回分の健診費用助成を実施:10,717件、超音波検査の年齢撤廃を実施:759件 3)妊婦健康診査償還払実施:130人 4)妊産婦・新生児訪問指導:1766件 【H26年度実績】 1)妊娠届948件 2)妊婦健康診査14回分の健診費用助成を実施:10,576件、超音波検査の年齢撤廃を実施:629件 3)妊婦健康診査補助実施:130件 4)妊産婦・新生児訪問指導:1003件 ・すくすくマタニティ教室 年18回 129名 | 1)妊娠・出産・産後の育児不安など早期に把握し相談・支援体制の確立を図る 2)3)経済的負担を軽減し妊婦健診の受診率の向上 4)妊娠期間を安全に乗り越え母子共に無事に産を迎えるように支援 新生児時期の母親の抱える不安の早期解決と支援体制の確立により母親が育児を自信をもって行えるように支援する ・すくすくマタニティ教室 専門の講師により、妊婦にヨガやエアロビクス、軽体操などの場を提供し、健康相談も受けられることで、不安を解消し、安心して出産を迎えられるように妊娠中の健康増進を支援する。 | a | | 1)妊娠届の改定を実施しハイリスク妊婦の把握につとめ、早期の支援体制の確立を図ることができた。 【前年度(H26)比較】 1)妊娠届:-54件 2)妊婦健康診査:+141件 超音波検査:+130件 3)妊婦健康診査補助実施:±0件 4)妊産婦・新生児訪問指導:+763件 ・すくすくマタニティ教室は平成27年度より委託事業 駐車スペースが確保できる場かつバリアフリーで妊婦の安全が確保できる場で開催できた。 | 子育て世代包括支援センターを設置し、さらなる充実を図る | | | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 経済的事情により、出産費用が用意できない世帯に援助を行う。ほかの健康相談は専門の担当部署へつなぐ。 | 母体保護。安全性、衛生面の確保 | a | 27/33 (81.8%) | 出産にかかわる費用の課題やその後の母子の健康や家族構成の変化などを通し適切な機関へつなぐ必要がある。 | 継続。ケースの状況により他課と連携し健康づくりを支援する。 | | | 優 |
| | | 67 | 更年期を理解するための情報提供 | 健康課 | 更年期障害のパンフレットをロビーやパネル展示などの際配布した | あらゆる機会をとらえて、更年期を理解するための情報提供を行う | b | | | H26年度はあいぼっくのエンタランスホールでパネル展示を数回実施した。 パンフレット置き場も設置し、情報提供を行うことができた。 | 今後も情報提供は継続していく。 | | |
| 心身の健康の保持・増進 | 各ライフステージに応じた、男女の生涯を通じた健康づくりを支援します。 | 68 | 女性に対する検診事業の充実 | 健康課 | 乳がん検診受診者1437人 子宮頸がん検診受診者2862人 【H26実績】 乳がん検診受診者1,292人 子宮がん検診受診者2,752人 | 乳がんは40~50代の女性のがん死亡率のトップであり、子宮頸がんは近年若い女性の罹患率が上昇している。 | b | | 健診定員数を増やし、乳がん、子宮頸がん検診とも希望する方全員が受診できている。そのため、早期発見、早期治療が期待できる。 【前年度(H26)比較】 乳がん検診受診者:+145人 子宮がん検診受診者+110人 | 今後も健診の効果などの知識の普及も充実し、自ら進んで、健診が受けられるように実施していきたい。 | | | |
| | | 69 | 健康づくり支援の推進 | 健康課 | 健康教室・健康相談の開催 保健栄養相談:12回*50人 【H26実績】 保健栄養相談:12回*38人(男性13人、女性25人) | 管理栄養士、保健師による個別健康相談を実施、生涯にわたり心身の健康の保持増進を支援する。また健康づくり関連の教室の情報提供を行い、行動変容への意欲を向上する | b | | 健康相談は予約制で実施し、改善の効果を確認、継続指導ができています 保健師、管理栄養士のスキルアップのための研修参加ができた。 【前年度(H26)比較】 相談人数:+12人 | 新しい医療や保健情報を入手し、時代のニーズにあった情報提供ができるように研修の機会を増やしていく | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-------------------|------------------------------------|-----|-----------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 生涯にわたる心身の健康の保持・増進 | 各ライフステージに応じた、男女の生涯を通じた健康づくりを支援します。 | 69 | 健康づくり支援の推進 | 介護福祉課 | 高齢者福祉センター(朝日町、松原町、拜島町)の運営。 (延べ利用者数 88,472人/年) いきいきルームの運営。 (サークル数7 利用回数146回/年) 【H26実績】 高齢者福祉センター延べ利用者数 87,737人/年 いきいきルームの運営 (サークル数7 利用回数256回/年) | 高齢者が、いつまでも生まれ育った地域で元気に暮らせるよう、社会参加の促進、仲間作りの機会、活動場所の提供 | a | | 高齢者福祉センターは、個人利用、団体利用とも順調であり、事業目的に即した成果が得られているとともに、老人クラブの活動拠点となっている。 いきいきルームは、介護予防教室の開催の他、教室卒業生によるサークル活動の場としても機能している。 【前年度(H26)比較】 高齢者福祉センター延べ利用者数:+735人 いきいきルームの運営 利用回数:-110 | 高齢者福祉センターが3か所、いきいきルームが1か所の中で、事業を拡大することが難しい。今後は、サロン活動等も利用できる場所の確保を図ってきたい。 | | | |
| | | | | スポーツ振興課 | ●「健康さわやか教室」の開催 ・対象は50歳以上 ・4月～12月、市内4会場で実施(原則週1回、各会場とも27回) ・延べ5,547人が受講 【H26実績】 ・延べ6,862人が受講 ●「中高年のためのアクアエクササイズ教室」の開催 ・対象は40歳以上 ・各7回を3回実施 ・延べ716人が受講 【H26実績】 ・延べ648人が受講 | ●「健康さわやか教室」 日頃、運動不足になりがちな方を対象に、軽体操で体を動かす、健康づくりの場を提供すると共に、心と体のリフレッシュを図る。 ●「中高年のためのアクアエクササイズ教室」 日頃、運動不足になりがちな方を対象に、体の負担が少なく、運動の効果が大きい水の特性を生かした運動で健康づくりの場を提供すると共に、心と体のリフレッシュを図る。 | a | ●「健康さわやか教室」 毎年各会場延べ参加者が1,000人を超える人気のある教室である。多くの人と交流しながら軽体操で体を動かし、参加者に体力作りの場を提供することができた。(前年度比:-1315人) ●「中高年のためのアクアエクササイズ教室」 定員数を超える申し込みがあったが、講師と調整などを行い、お断りする方をささずに申込者全員を受講させることができた。申込者全員に対し、健康づくりの場の提供と心と体のリフレッシュが図られた。(前年度比:+68人) | どちらも、各種スポーツ教室の中で安定した人気を持つ教室であり、引き続き開催していきたい。 | | | | |
| | | 70 | 生活習慣病、介護予防対策の充実 | 健康課 | 特定健康診査、面接相談:212人 骨密度測定:965人 動脈硬化測定:781人 生活習慣病予防教室10回:106人 糖尿病予防教室11回:119人 【H26実績】 特定健康診査、面接相談:262人 骨密度測定:715人 動脈硬化測定:933人 生活習慣病予防教室11回:206人 糖尿病予防教室11回:160人 | 検診や測定により、自身の健康を再確認することができる。 生活習慣病予防教室や糖尿病予防教室では講義、運動、栄養、調理、個別相談体制をとりよりよい保健行動が実践できることを狙っている | b | 動脈硬化や骨密度は女性の健康に密接に関係している。骨密度測定や動脈硬化測定の結果によるアドバイスは生活習慣を見直す良い機会となるため、人気も非常に高い。 生活習慣病予防教室や糖尿病予防教室では重症化を防ぐための知識の普及や運動指導、栄養指導などきめ細やかな指導を行っている。 【前年度(H26)比較】 特定健康診査、面接相談:-50人 骨密度測定:+250人 動脈硬化測定:-152人 生活習慣病予防教室11回:-100人 糖尿病予防教室11回:-41人 | 今後も質の高い指導を実施していくようスタッフの人材育成に努める | | | | |
| | | | | 介護福祉課 | イキイキ・ニコニコ介護予防教室、元気菌つらつ健口講座(教室参加者延べ人数 1,342人/年) 【H26実績】 (教室参加者延べ人数 1,362人/年) | イキイキ・ニコニコ介護予防教室は、受講者の健康づくりや仲間づくり 元気菌つらつ健口講座は、虫歯、歯周病、口臭、誤嚥性肺炎の予防 | a | 介護予防やそのきっかけづくりとして開催している、イキイキ・ニコニコ介護予防教室、元気菌つらつ健口講座は、教室終了後にサークルが立ち上がり、仲間づくりや高齢者の健康づくりに寄与している。(前年度比:-20人) | 定員割れしている教室の内容の見直しを図り、多くの方の参加を促進していく。 | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-------------------|------------------------------------|-----|-------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------|------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 生涯にわたる心身の健康の保持・増進 | 各ライフステージに応じた、男女の生涯を通じた健康づくりを支援します。 | 71 | 医療機関や保健所等との連携による相談体制の充実 | 企画政策課 | 女性悩みごと相談(毎週水曜日・年47回)を通し、事例に応じ、必要な場合は他の部署と連携を図り、医療機関や保健所等へ、相談をつなげている。 | 男女の生涯を通じた健康づくりの支援を図る。 | b | | 生涯にわたる心身の健康について特化した相談体制は確立できていない。女性悩みごと相談の中で対応している。 | 今後、セミナー等において、どのようなことができるか検討していきたい。 | | | |
| | | | | 健康課 | 1)がん検診要精密者に対し適切な受診勧奨・相談を実施 胃がん:326人 大腸がん:384人 乳がん:146人 子宮頸がん:17人 肺がん:98人 前立腺がん:201人 2)母子保健事業に関して(妊娠・出産・乳児健診・経過観察健診・発達健診など)ハイリスク妊婦(精神疾患等)・発達障害児とその親の相談に対し医療機関・保健所などと連携を行っている 3)アルコール相談や精神疾患の相談など保健所保健師との連携を実施 【H26実績】 胃がん:356人 大腸がん:379人 乳がん:103人 子宮頸がん:21人 肺がん:108人 前立腺がん:154人 | 1)がん検診受診後の適切なフォローを促進する 2)母子の心身の健康を保持し、母と子及びその家族が健やかに家庭生活や社会生活を送れることを目的としている。 3)適切な相談ができることの支援 | b | 1)検診の有効性を高めるため、保健師による医療機関の紹介など実施できている 2)母子事業に関しては都・26市の母子保健事業の確立ができている。 3)市と保健所保健師業務連絡会を開催し情報交換を実施している【前年度(H26)比較】 胃がん:-30人 大腸がん:+5人 乳がん:+43人 子宮頸がん:-4人 肺がん:-10人 前立腺がん:+47人 | 1)要精密者が受診につながったか確認が不十分 2)3)今後も連携を密にし、より良いサービスの提供ができるようにする | | | | |

目標Ⅲ 働く場における男女共同参画とワーク・ライフ・バランスの推進(仕事と生活の調和)

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|----------------|-----------------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 1 働く男女の就労環境の整備 | 「仕事と家庭生活をともに優先している(両立)」人の割合 | [女性] 21.1% | [女性] 18.5% | [女性] 25.0% | [女性] 30.0% |
| | | [男性] 29.1% | [男性] 20.3% | [男性] 32.0% | [男性] 35.0% |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|------------------|------------------------------------------------------------|
| (1)働く場における男女共同参画 | 個人の能力を十分に発揮できるよう、また、男女の均等な雇用機会と待遇が確保されるよう、企業・事業所などに働きかけます。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | | |
|-----------------------|----------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 職場における男女平等に関する法制度等の普及 | 雇用や待遇など、職場における男女平等に関する法制度等の普及・啓発を行います。 | 72 | 男女雇用機会均等法・労働基準法等についての広報及びセミナーの開催 | 企画政策課 | 就労について、ちらし等の配付はしているが、男女雇用機会均等法や労働基準法等に関する講演会、セミナーの開催には至らなかった。 | 雇用や待遇など、職場における男女平等に関する法制度等の普及・啓発を図る。 | c | 8/30 (26.7%) | 取組は進められたが、セミナー開催には至らなかったため、更なる啓発活動が必要である。 | 今後、産業活性課と連携し講演会やセミナーの開催を検討する。 | ○取組が進められていない。 | 可 | ◆職場、企業に働きかける項目なので、企業の担当者を集めて要請や指導、啓発的な学習会を行い、外部に積極的に働きかけを行うこと、取組が進められると考えられる。 ◆女性活躍推進法は、大企業は計画策定の義務があるが、中小企業は作らなくても良いのかというところではなく、むしろ推奨されている。中小企業にも目が届くというのが基礎自治体の強みであり、この機を逃せば残りの5年間も変わらない可能性もあるので、このタイミングで対策を講じていただきたい。 ◆女性活躍推進法が施行され、市としても取り組まれていると思うが、市内企業への働きかけを積極的に進められたい。 |
| | | | | 産業活性課 | ポケット労働法を市内公共施設で配布。 | 制度の周知や共催セミナー実施による啓発 | c | | 制度の周知には取り組んだが、セミナーの開催には至らなかった。 | 担当課単独でのセミナー開催は困難である。今後、関係機関と連携した開催を検討する。 | | | |
| | | 企画政策課 | 商工会に対し、情報誌の提供を年2回行った。 2,700部(各1,350部) | 雇用や待遇など、職場における男女平等に関する法制度等の普及・啓発を図る。 | c | 企画政策課では、情報誌「Hi,あきしま」の配布による情報提供に留まり、直接事業所に啓発は行っていない。 | H28年3月に女性活躍推進法が施行され、一定規模の事業主には行動計画の策定等が義務付けられた。今後は法制度の実施状況等、国や都の動向にも注視しながらさらなる制度の周知を図っていく。 | | ○取組が進められていない。 | | | | |
| | | 産業活性課 | ポケット労働法を市内公共施設で配布。 | 法制度等の普及・啓発 | c | ポケット労働法以外にも、ハローワークや東京都が作成しているパンフレットを展示し、来庁者に対する配付を行った。 | H28年3月に女性活躍推進法が施行され、一定規模の事業主には行動計画の策定等が義務付けられた。今後は法制度の実施状況等、国や都の動向にも注視し、事業者や管理職に対する啓発方法についても検討する。 | | | | | | |
| ポジティブ・アクションに向けた啓発 | 企業や事業所などに対して、ポジティブ・アクションに向けた啓発を行います。 | 74 | 関連法の周知・啓発 | 企画政策課 | 関連パンフレットの配布を行った。 | 雇用機会均等法などポジティブ・アクションの関連法の周知・啓発を図る。 | d | 8/30 (26.7%) | 関連パンフレットの配布に留まった。 | 今後、情報誌に特集を組むなどの対応を検討したい。 | 可 | ◆女性活躍推進法が施行され、市としても取り組まれていると思うが、市内企業への働きかけを積極的に進められたい。 | |
| | | | | 産業活性課 | 街頭労働相談時及び本庁1階と勤労商工市民センターのラックにパンフレット等を配布 | 広報紙、パンフレット等の情報提供による啓発 | c | | 10月中旬に開催した街頭労働相談では、パンフレットの配付に併せて、臨時相談窓口(昭島駅北口)を開設した。 | 相談者は市民が主であったが、勤務先等に対する周知につなげていきたい。 | | | |
| | | 企画政策課 | 関連パンフレットの配布を行った。 | ポジティブ・アクションの啓発を図る。 | d | 関連パンフレットの配布に留まった。 | 今後、情報誌に特集を組むなどの対応を検討したい。 | | | | | | |
| | | 産業活性課 | 街頭労働相談時及び本庁1階と勤労商工市民センターのラックにパンフレット等を配布 | 広報紙、パンフレット等の情報提供による啓発 | c | 10月中旬に開催した街頭労働相談では、パンフレットの配付に併せて、臨時相談窓口(昭島駅北口)を開設した。 | 相談者は市民が主であったが、勤務先等に対する周知につなげていきたい。 | | | | | | |
| | | 企画政策課 | 直接の連携までには至っていないが、情報誌「Hi,あきしま」の配布を年2回実施している。 2,700部(各1,350部) | 商工会等との連携により、ポジティブ・アクションの周知を図る。 | c | 企画政策課では、情報誌「Hi,あきしま」の配布による情報提供を行っている。また、男女共同参画推進委員会の委員1名は商工会女性部から選出されている。 | 今後、情報誌に特集を組むなどの対応を検討したい。 | | | | | | |
| | | 産業活性課 | 商工会会員へのパンフレット等配布依頼 | ポジティブ・アクションに向けた啓発 | c | 商工会の活動は経営指導が中心であり、中小企業、個人事業者へは啓発の浸透が難しい状況である。 | 商工会等と連携した啓発活動について検討する。 | | ○なぜ啓発の浸透が難しいのか理由が分からない。 | | | | |

| 主要施策 | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するための支援 | | | | 男女がともに仕事と家庭生活、地域生活等とバランスをとり、生涯を通じて充実した生活を送ることができるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて市民・事業所に支援や啓発を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | | |
| ワーク・ライフ・バランスの啓発 | ワーク・ライフ・バランスの普及のための啓発活動を実施します。 | 77 | ワーク・ライフ・バランスの啓発及びセミナーの開催 | 企画政策課 | 男女共同参画講演会の開催 期日：12月6日(日) テーマ：家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者：50人(女性35人、男性15人)、決算額：115千円 情報誌にイクメンを紹介する特集記事を掲載した。 | ワーク・ライフ・バランスの普及のための啓発活動。 | a | | 講演会の実施や情報誌に特集記事を掲載して、ワーク・ライフ・バランスの啓発の推進を図った。アンケートでは「家事労働を軽視している日本社会の現状がよくわかってよかった」という意見が多数あり、ワーク・ライフ・バランスの啓発につながったと考えられる。 【前年度(H26)比較】 男女共同参画講演会：-10人 | 今後も引き続き、啓発の推進を図っていきたい。 | | | | | |
| | | | | 産業活性課 | H26年度は労働相談情報センター国分寺事務所と共催で市内でセミナーを開催したがH27年度はセミナー開催には至らなかった。 | セミナー開催によるワーク・ライフ・バランスの普及、啓発 | c | | 前年度は労働相談情報センター国分寺事務所と共催でセミナーを実施したが、H27年度は近隣市での開催となったため、チラシの配布等で周知に努めた。 | H28年度は企画政策課と連携し「イクボス」をテーマに講演会を実施し、啓発に努める。 | | | | | |
| | | | | 子ども子育て推進課 | 未実施。他組織で実施される講演やセミナーへの参加を勧める。 | 講演会やセミナーへの参加を促し、ワーク・ライフ・バランスについての理解を深め、各園におけるワーク・ライフ・バランスを推進する。 | d | | 各団体への情報提供にとどまっている。 | 関連部署との連携により、職員の意識啓発に努めたい。 | | | | | |
| | | 78 | ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業の認定・公表 | 産業活性課 | 取組み企業の調査、認定、公表など市独自の取り組みには至らなかった。 | ワーク・ライフ・バランスの推進 | c | 12/27 (44.4%) | | 企業の実施には至っていないが、情報収集に努め、取組に向けての検討をした。 | 企業の取組み事例を市のホームページ等で紹介できるよう、調査に向けた検討を続ける。H28年度は企画政策課と連携し「イクボス」をテーマに講演会を開催し、ワーク・ライフ・バランスの啓発に努める。 | ○認定・公表に取り組むと事業に掲げた以上は、それに対する情報収集や調査は必要だと思うので、そこから取り組んでいただかないかと思う。 | | | |
| | | 子ども子育て推進課 | 保育園、幼稚園の取組状況について、調査、認定、公表などの取組には至らなかった。 | 保育園、幼稚園におけるワーク・ライフ・バランス推進 | d | | 保育園など関係団体への情報提供にとどまっている。 | 保育園等関係する団体へ、さらに広報啓発に努める。 | | | | | | | |
| | | 働きやすい職場づくりの促進 | 職場におけるワーク・ライフ・バランスが推進されるよう、働きやすい職場環境づくりのための啓発を行います。 | 79 | 育児・介護休業制度の普及啓発 | 企画政策課 | 男女共同参画講演会の開催 期日：12月6日(日) テーマ：家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者：50人(女性35人、男性15人)、決算額：115千円 参画ルーム「おあしす」に関連図書を購入し、情報誌で紹介した。 | 職場におけるワーク・ライフ・バランスが推進されるよう、育児・介護休業制度の普及、啓発に努める。 | a | | 講演会の開催、講演会の内容を情報誌に特集として組み、また参画ルーム「おあしす」に関連図書を購入し、情報誌で紹介、普及、啓発に努めた。 | 引き続き、情報誌に特集を組むなどの対応を検討したい。 | | | |
| 産業活性課 | 街頭労働相談時及び本庁1階と勤労商工市民センターで「ポケット労働法」、「パートタイム労働ガイドブック」、「働く女性と労働法」を配布 | | | | | 広報紙、パンフレット等情報提供による啓発 | c | | ハローワークや東京都が作成したパンフレットの配付、ポスターの掲示を行った。 | 市内企業や事業所等への配付について検討が必要である。 | ○まず実態調査をし、それに対して対策をどう運びになるかと思うので、そこから取り掛かっていたきたい。 | | | | |
| 企画政策課 | 参画ルーム「おあしす」に関連図書を購入し、情報誌で紹介した。 | | | | | 職場におけるワーク・ライフ・バランスが推進されるよう、多様な就労形態の普及、啓発に努める。 | c | | 参画ルーム「おあしす」に関連図書を購入し、情報誌で紹介し、啓発に努めた。 | 今後、情報誌に特集を組むなどの対応を検討したい。 | | | | | |
| 80 | 多様な就労形態の普及啓発 | | | 産業活性課 | 街頭労働相談時及び本庁1階と勤労商工市民センターで「ポケット労働法」、「パートタイム労働ガイドブック」を配布 | 広報紙、パンフレット等情報提供による啓発 | b | | ハローワークや東京都が作成したパンフレットの配付、ポスターの掲示を行った。 | 市内企業や事業所等への配付について検討が必要である。 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | ◆「職場における」と謳っているからには、企業に対して何らかの取組がなされてしかるべきである。 ◆ワーク・ライフ・バランスはワークシェアリングの問題でもあり、この意味では専門の職員に仕事や責任が回まりすぎているという問題もある。働き方という問題を啓発も含めて周知していくということは大事だと考えられる。 ◆女性活躍推進法の計画策定の義務がない事業所についても、男女差別が許されるわけではないので、その点で行政の指導・監督の責任もあると考えられる。そういった部分に届くような施策、アイデアの提供を検討された。 ◆実態を知った上で啓発を進める必要があると考えられる。 ◆事業主の意識の向上、意識改革のきっかけになるような取組を検討された。 |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | |
|--------------------|-------------------------------------------------|-----|-------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| (3)女性の就業支援 | | | | | 女性の能力と意欲を生かすため、起業や再就職をめざす女性の支援を行うとともに、自営業や農業分野において男女がともに快適に働くための支援を行います。 | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 女性の起業・再就職に関する支援の推進 | 起業や再就職等を希望する女性に対して、情報提供や相談体制の充実などを推進します。 | 81 | 女性のための労働関連セミナーの開催 | 産業活性課 | H26年度は労働相談情報センター・国分寺事務所と共催で市内でセミナーを開催したがH27年度はセミナー開催には至らなかった。 | セミナー開催による啓発 | c | 11/18 (61.1%) | 前年度は労働相談情報センター・国分寺事務所と共催でセミナーを実施したが、H27年度は近隣市での開催となったため、チラシの配布等で周知に努めた。 | セミナー開催について検討を行う。 | | 良 | ◆産業活性課の取組について、施策のねらいの達成に向け取組が進められており、その点において評価できる。 ◆起業したい女性の意思を汲み取り、きめ細かな相談・支援が実施されている。 |
| | | 82 | 雇用・労働に関する情報・相談体制の充実 | 企画政策課 | 女性悩みごと相談(毎週水曜日・年47回)を通し、事例に応じ、必要場合は他の部署と連携を図り、相談をつなげている。参画ルーム「おあしす」に関連図書を購入し、情報誌で紹介した。 | 起業や再就職等を希望する女性に対して、情報提供や相談体制の充実を図る。 | b | | 女性に特化したものではないが、昭島市総合戦略の中では創業に関する相談窓口を設置することを計画に定めた。現状では女性悩みごと相談の中で対応し、必要に応じて東京都の労働相談情報センター・国分寺事務所を紹介している。参画ルーム「おあしす」に関連図書を購入し、情報誌で紹介した。 | 相談体制の充実について検討する。 | ○女性悩みごと相談で起業や再就職に関する相談があったのならばその件数を入れなければ、ただこの欄を埋めるために記入していると受け取られても仕方がない。 | | |
| | | | | 産業活性課 | ①あきしま雇用労働相談(毎月第2土曜日実施)②街頭労働相談(年1回、11月実施)③あきしま就職情報室(勤労商工市民センター内、月～金) 【26年度は27年度と同様の取組を実施】 | 専門家への相談機会の確保 | a | | 身近な施設で専門家への就労相談が可能。 | 継続して取り組んでいく。 | | | |
| 自営業・農業分野における男女共同参画 | 自営業や農業分野において、女性の参画を促進するとともに、就労環境の改善に向けた啓発を行います。 | 83 | 女性の起業に対する育成・支援のための情報提供 | 産業活性課 | ①開業セミナー②開業スクール③空き店舗活用補助金の創設④ワンストップ創業相談窓口(毎月第3木曜) 【H26実施状況】近隣自治体や金融機関と連携し起業塾の開催や個別企業相談を実施した。 | 創業希望者の発掘、育成。広報紙による情報提供。 | a | ①あきしま開業セミナー17名6名 ②昭島・福生開業スクール12名中8名 ③補助金活用5名中2名 ④ワンストップ相談窓口25名中8名、ほかミニブルーム交流カフェ14名中8名、アイデアアークあきしま9名中3名 | 継続して取り組んでいく。 | | | | |
| | | 84 | 自営業等で働く女性の就労環境の改善に向けた啓発 | 産業活性課 | 取組には至らなかった | 自営業における男女共同参画 | d | 自営業等で働く女性に特化した支援は行っていない。 | ワーク・ライフ・バランスの啓発を併せた取組が重要である。また、対象者が置かれている環境の分析、理解が必要である。 | | | | |
| | | 85 | 農業にたずさわる女性への支援 | 産業活性課 | 次世代の農業を担う意欲的な農業者を育成する目的で認定農業者制度を実施しており、その中で、家族で農業経営に携わる場合、経営方針や一人ひとりの役割、就業条件等について家族の話し合いを基に取り決める家族協定の締結を提唱している。 | 相互に責任ある経営への参加を通じて、近代的な農業経営を確立するとともに、健康で明るい家庭を築くことを目的とする。 | b | H27年度末時点で、昭島市で認定農業者として認定している22経営体のうち、家族協定を結んでいるのは5経営体である。これらの経営体では経営方針、労働時間・休日、役割分担や労働報酬などを家族の話し合いの基に取決めており、家事時間を労働時間とみなすなど、農業分野で働く女性の就労環境の改善に貢献している。 | 意欲的な農業者育成を進め、農業者の経営の改善を図ると共に、今後も家族経営協定の普及・推進を図る。 | ○家族経営で行われている農家に家族協定の普及・推進を図っているということで、この項目は一歩も二歩も取組が進められていると感じた。 | | | |

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|----------------|-----------|--------|--------|-------------|-------------|
| 2 仕事と家庭生活の両立支援 | 保育園の定員数 | 2,467人 | 2,783人 | 2,530人 | 2,600人 |
| | 学度クラブの定員数 | 940人 | 1,359人 | 1,050人 | 1,070人 |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)子育て・家事支援 | 男女がともに子育てや家事等を担えるよう、さまざまなニーズに応じた保育サービスや地域における子育て支援を充実するとともに、男性の子育て・家事への参画を促す啓発を行います。また、ひとり親家庭の自立支援のための支援にも努めます。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 各種保育サービスの推進 | 待機児童の解消を図るとともに、多様化する保育のニーズに対応できるよう、各種保育サービスを提供します。 | 86 | 各種保育サービスの推進 | 子ども子育て推進課 | ・新園の開設や、既にある保育園の改修工事を行い、定員数の枠を拡大し、待機児童の解消を図る。 | 保育施設の整備を図り、安心して子どもを産み、育てる環境を整え、男女が社会参画できる支援を行う。 | b | 84/96 (87.5%) | 毎年、施設整備を行い待機児童の解消に努めている。その結果、現在、待機児童は21名となっており、徐々に待機児童の解消が推進されている。 | 今後も引き続き、保育施設の開設や、改修を行い、待機児童の解消と保護者や児童の安心、安全に留意した施設整備を行う。 | | | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | ・一時預かり全園(21園) ・障害児保育全園(地域型を除く) ・休日保育1園 ・時間外保育(延長)22園 ・病児保育1か所、病後児保育1園 ・子どもワイライトステイ1か所 | 保護者の諸事情に対応した保育サービスを実施。男女共同参画に資する。 | b | | 保護者のニーズに応じた保育サービスを提供している。男女共同参画につながるものである。 | 新設園の増設に伴い、新設園での事業実施をすすめ、より保護者のニーズに対応できるように体制を整える。 | | | |
| | | | | 子ども育成課 | 平成26年度までは4か所のみ19時までの延長保育実施場所を平成27年度は21か所全学童クラブで行う。 | さまざまな勤務形態や勤務時間に対応するために、安心して働ける環境を整える。 | a | | 安心して働けるとの声が保護者から上がり、一定の効果はあったが、延長料金の滞納者の問題も発生してしまった。 | 放課後子ども総合プランに基づき、学童クラブと放課後子ども教室との連携をしていく。 | ○大変だと思うが頑張っていたきたい。 | | |
| 地域で支える子育て環境の整備 | 地域で子育てを支えるため、地域における子育て環境の充実に努めます。 | 87 | 学童保育の充実 | 子ども育成課 | 定員数増に向け、平成27年度につつじが丘学童クラブと第二昭和学童クラブを新築した。 | 学童クラブ待機児童の解消に努める。 | a | | つつじが丘学童クラブは1階と2階合わせて、150名の児童が入会可能となった。 | 学童クラブ入会児童の学年の引き上げについて、国や東京都の指針等を見て、各市の動向もみながら、検証していく。 | | | |
| | | | | 子ども育成課 | 子育てに関する相談、情報の提供、各種サービスの提供、及び子育てひろば、子育てグループ、子育て家庭の支援や先駆型(児童虐待に係る見守りサポートや虐待防止支援訪問などを行う)の対応を行った。虐待対策コーディネーターを配置し、関係機関との連携の強化に努めた。また、被虐待対応マニュアルや「189」ダイヤルの周知を図った。 相談件数: 6,169件 【H26実績】 相談件数: 6772件(年間延べ) | 地域における子ども家庭システムの中核として、ケースマネジメントの手法により子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、関係機関と連携しながら、子どもと家庭を支援するネットワークを構築する。 | a | 18歳までのお子さんと家庭のあらゆる相談を受け付け、サービスの提供やケースワークを行った。 【前年度(H26)比較】 相談件数: -603件 | さらなる関係機関との連携を強化し、子ども家庭支援センターの役割、虐待対応についての周知に努める。 | ○ひとり親家庭の支援について、経済的にも厳しいケースで、ぜひ見に行っていたきたいとお願いしたことがある。その際に福祉との連携もしていただきたい。その辺りに力を入れて、経済的に困難なケースにも支援の手を差し伸べていただける機会を多く持っていたきたい。 | 優 | ◆相対的によく取り組まれており、手厚い支援を継続されたい。 | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 実施主体である社会福祉協議会との連携を密にし、事業を推進する。 協力会員263人、利用会員359人 両会員17人、活動件数5155回 【H26実績】 協力会員245人、利用会員350人 両会員20人、活動件数4795回 | 市内に居住する労働者等の仕事と育児の両立のための環境を整備し、併せて地域の子育て支援及び児童の福祉の向上を図る。 | a | 利用会員に対する登録会員からの子育て支援が有効に行われている。 【前年度(H26)比較】 活動件数: +360件 | 受託業者との連絡会を実施し、事業の促進を図る。利用者のニーズを把握し、事業の取り組みを推進する。 | | | | |
| 子ども育成課 | 定期的に会議を開催。各グループ間で活動内容の情報交換や交流を行った。また、子どもまつりやホームページ等で周知に努めた。 会議開催数 4回、参加グループ数 10団体 【H26実績】 会議開催数 4回、参加グループ数 9団体 | 市内で子育て支援を行うグループ及び支援機関並びに行政が協働し、子育て支援活動を展開する | b | 会議においてグループ間の有効な情報交換が行われ、加入グループの増加(前年度比+1)があった。 | さらなる周知に努め、ネットワークが広がるように周知し、加入グループの増加を図る。 | | | | | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
|----------------|-----------------------------------|-----------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------|----|---------------|--|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | |
| 地域で支える子育て環境の整備 | 地域で子育てを支えるため、地域における子育て環境の充実に努めます。 | 91 | 児童センター等の施設の充実 | 子ども育成課 | 未就学児から幅広い年齢層の子ども及び保護者が参加しやすい事業を行うことに努めた。 | 放課後に児童や未就学児を持つ保護者等の居場所・交流の場所として、子育て環境に寄与する。 | b | | 子どもたちの憩いの場、保護者の交流の場として健全な遊びを通して情豊かな人間関係をつくる。 | 引き続き、より効果的な運営に努める | | | | |
| | | | | 企画政策課 | 情報誌に特集記事「イクメンを探せ！」を掲載し、家庭内での家事の分担方法や子育てなど、育児に関する情報を紹介した。 | 子育て環境の整備に向けた、情報の提供に努める。 | b | | 子育てに関するセミナーの開催はなかったが、育児に関する情報を情報誌に掲載し啓発を図った。 | 引き続き、情報提供に努め、子育てに関するセミナーの実施も検討していきたい。 | | | | |
| | | | | 健康課 | 1)各種相談の実施 育児相談の実施:年12回*1523人(内:個別相談542人) 2)子育てに関する講座の開催 離乳食講座・幼児食教室・初めての歯みがき教室・2歳児すこやか教室・5歳児歯科健康教室などを実施し、27年度は568組の親子が参加した。 【H26実績】 育児相談:年12回*1454人(内:個別相談508人) | 1)子育てに関する相談を保健師・助産師・管理栄養士・歯科衛生などが対応し問題解決ができるよう支援している 2)子育てに関する正しい情報を保護者へ伝えるとともに、講座に参加した保護者同士が交流できる場とする。 | b | | 1)子育てに関する相談体制ができていない 2)開催時期により応募が多いときとそうでないときがあるが、おおむね盛況である。 【前年度(H26)比較】 育児相談:+69件(うち個別相談:+60人) | 子育て世代包括支援センターを設置し、さらなる充実に図る | | | | |
| | | 92 | 子育てに関する情報提供及び講座等の実施 | 子ども子育て推進課 | 各保育園において、園庭開放、育児相談等を実施する中で、併せて情報提供を行っている。 | 子育てに関する不安の解消、孤立の防止を図る。子どもの健全育成にかかわる保護者への支援。 | a | | 全保育園で地域行事への参加や、子育て相談を実施している。幼稚園においても教育相談、保育相談を実施している。 | 家庭内で育児に悩み、戸外との関わりや相談につながらず孤立する世帯の掘り起しと支援の手立てが課題。 育児への同じ悩みを抱える保護者が集い合える魅力ある講座の開催。 | | | | |
| | | 子ども子育て支援課 | | 乳幼児支援制度案内等で子育てに関する情報提供をしたり、地域子育て支援拠点事業(子育てひろばなしのき、つどいのひろば(3か所)、各幼稚園(7園)、保育園(21園))を実施し、育児講座や伝承行事、育児相談、サークル支援等を実施。 | 子育てに関する不安の解消、孤立の防止。子どもの健全育成等 | a | | 乳幼児支援制度案内については、好評をいただいております。当初予定部数より増刷して発行しているほど浸透し活用されている。(1245部発行) ひろば事業では、各実施場所それぞれの特徴を生かし子育て支援に従事しているため、利用者が選べるため好評である。 | 新設園の増設に伴い、新設園での事業実施をすすめ、より保護者のニーズに対応できるように体制を整える。 また、つどいのひろばの増設に向け検討していく。 | | | | | |
| | | 子ども育成課 | | あきしま子育てハンドブックを刷新した。子ども家庭支援センターでは常時、電話や来所での問い合わせ受付。 はじめて赤ちゃん講座 404人 子育て講座 147人 【H26実績】 はじめて赤ちゃん講座 398人 子育て講座 161人 | 必要な人が適切な支援を利用したり、子育てに関する情報を得ることで、より、楽しく子育てができるようになる。 | b | | あきしま子育てハンドブックの内容を見直し、子育て中の人に必要情報を提供する。はじめて赤ちゃん講座については、応募者多数により、抽選となる。 【前年度(H26)比較】 はじめて赤ちゃん講座:+6人 子育て講座:-14人 | 講座について、さらに参加者が増えるよう、人気講座の回数を増やしたり、実施の時間帯や内容を検討するとともに啓発に努める。 | | | | | |
| | | 93 | 市の事業における保育室の設置 | 企画政策課 | 講演会、セミナー等開催時には一時保育で対応している。 他の事業についても、必要に応じて対応している。 27年度実績はセミナー2人の保育を実施した。 | 市の事業実施時における一時保育の実施に努める。 | a | | 事業の実施にあたり、安心して参加してもらうためには不可欠な取組である。 | 今後も事業実施にあたり、安心して参加してもらうために、継続していきたい。 | | | | |
| | | | | 健康課 | 子育て中の市民が参加できる健康教室には、希望者には保育(生後3ヶ月からの未就学児)をつけている。 H27年度実績827人 【H26実績】 1089人 | 保育付きの事業にすることで子育て中の母親の外出や交流を促すことができる。 | a | | 子育て世代が参加できる講座には保育を付けるように事業を組んでいる。利用者からは、安心して事業に参加できると好評であった。 【前年度(H26)比較】 参加者数:-262人 | 保育の充実に今後も実施予定 | | | | |
| | | | | 子ども子育て推進課 | 保育園で実施する事業は親子で参加するため設置なし。 その他の事業については、必要に応じた対応を行っている。 | 講座開催中の子どもの安全確保を行い、保護者が安心してさまざまな講座へ積極的に参加できるよう支援する。 | a | | 各種講座の開催場所に応じた適切な、保育対応を実施した。 | 講座開催に伴う保育実施のPRと、その利用者や利用者を通じた子育て仲間への、子育てひろばや相談事業などの子育て事業の周知を図る。 | | | | |
| | | | | 子ども育成課 | 子どもと親の家庭教育講座実施時に保護者が安心して講座に参加できるように努めた。 | 託児所等の整備をした。 | b | | 利用する参加者が5名いた。 【H26実績】 託児利用0件 | 引き続き、保護者が安心して参加できる運営に努める。 | | | | |
| | | | | 産業活性課 | 市主催のイベントで、授乳室やおむつ替え、休憩ができるスペースを確保した。 | 育児中の市民に対するイベント参加を支援 | a | | 利用者があり有効であった。 | 継続して行う。 | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | | |
|----------------|-----------------------------------------|-----|------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------|----|-----------------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | | |
| 地域で支える子育て環境の整備 | 地域で子育てを支えるため、地域における子育て環境の充実に努めます。 | 93 | 市の事業における保育室の設置 | 環境課 | 環境学習講座(年5回実施)において、実施回の内容によっては、保育サービスを用意した。(市の登録保育士による保育室での預かり。原則、2歳児まで) | 環境学習講座への、子育て世代の参加促進 | a | 27年度は、実際に保育サービスを利用する参加者はいなかったが、子育て世代の男女が参加しやすい事業とするため、保育体制の充実そのものは評価に値する。 | 保育サービスの用意がある旨を、今後も参加募集段階でPRしていく。 | | | | | | |
| | | | | 社会教育課 | 保育が必要となる取り組みはなかった。 | 市立会館に保育室が設置されているので必要に応じて活用できる状況にある。 | b | | | | | | | 市立会館での保育室の活用は可能であるが事業がなかった。 | 保育が必要となる事業を実施した時は、保育を行う。 |
| | | | | 市民会館・公民館 | 保育室は設置されているので環境整備の充実を図る。主催講座4回、延べ23回対応。 | 子どもはほかの子供と接することにより社会性をはぐくみ、親は学習に専念できることを狙いとしている。 | a | | | | | | | 保育室は設置されているし、保育士の研修等実施しているため、子育て支援の環境に対応している。 | 保育室管理及び保育士の更なる充実が課題と言える。 |
| | | 94 | 子育てに関する相談体制の充実 | 健康課 | 1)各種相談の実施 育児相談の実施:年12回*1523人(内:個別相談542人) 助産師相談:月4回**49回*105人(来所相談・80人、電話相談・31人) 2)家庭訪問の実施 27年度の実績は、妊産婦:890件、新生児(未熟児含む):876件、乳幼児211件、小学生以上117件 合計2132件 3)業務担当と地区担当保健師による相談・連携体制の確立【H26実績】 1)育児相談:年12回*1454人(内:個別相談508人) 助産師相談:月4回**49回*105人(来所相談・80人、電話相談・31人) 2)妊産婦訪問:507件、新生児訪問:446件、未熟児訪問:14件、乳幼児・小学生307件 | 1)子育てに関する相談を保健師・助産師・管理栄養士・歯科衛生などが対応し問題解決ができるよう支援している 2)新生児期に外出が困難な母親に対しニーズに添った相談ができる 3)相談体制の充実をはかり、漏れのない支援を目指している。 | b | 1)子育てに関する相談体制ができています。 2)家庭訪問ではリラックスした雰囲気での相談ができています。 【前年度(H26)比較】 1)育児相談:+69人 助産師相談:±0人 2)家庭訪問件数:+858件 | 子育て世代包括支援センターを設置し、さらなる充実を図る | | | | | | |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 地域子育て支援拠点事業(子育てひろばなしのき、つどいのひろば(3か所)、各幼稚園(7園)・保育園(21園))において子育て相談を受付実施。子ども子育て利用者支援員を市窓口へ配置し、保護者のニーズに合わせた施設等の情報提供や相談を実施。 | 比較的簡単な子育ての悩みについては、気軽に相談し解決策を見つかったり、同じ悩みを持つ者同士で共感することにより安心した気持ちで育児に取り組む。必要なが適切な支援を利用したり、子育てに関する情報を得ることにより、楽しく子育てができるようになる。 | a | 子育て相談については、子育てひろばなしのきはじめ、ひろば事業実施施設での相談対応に取り組んでいる。同じ年齢の子どもを持つ者同士で共感できるよう、「ハイタイム」等を設け相談しやすい環境づくりをし参加人数も増加している。 子育て支援情報などの相談窓口を一本化したことで丁寧なサービス提供を実施できた。(1765件) | 子ども子育て利用者支援窓口のさらなる周知に努める。また、窓口相談だけでなく、出張相談も増やすことでより多くの人が相談できるように検討していく。 | | | | | | |
| | | | | 子ども育成課 | 子ども家庭支援センターでの電話・面接相談受付。心理相談にも対応した。相談件数:6,169件【H26実績】 相談件数:6772件 | 比較的簡単な子育ての悩みについては、気軽に相談し解決策を見つかったり、同じ悩みを持つ者同士で共感することにより安心した気持ちで育児にとりくむ。虐待相談などの相談については、機関と連携し適切な対応を図る。 | a | 電話・面接での相談に9:00~19:00まで対応し、相談件数も増加【H26職員1人当たり100件増】している。心理面で不安を抱える親への対応として心理相談も対応した。 【前年度(H26)比較】 相談件数:-603件 | 相談場所が周知され、件数も増加の傾向にあるが、より専門性が高まってきている。 | | | | | | |
| 男性の子育て・家事参画の促進 | 男性の子育て・家事への参画を促進するため、学習機会の提供や啓発活動を行います。 | 95 | 男性が参加しやすい子育て講座・親学級等の推進 | 健康課 | (1)フレッシュパパママ学級 年6回実施 27年度は143組のペアが参加した。 【H26実績】 両親学級:開催数5回*228人(男性114人参加) | 男性が参加し易い、土曜日に開催し参加を促している。 | b | 主に新米パパが育児への参加がし易いプログラムになっている。 【前年度(H26)比較】 両親学級参加:+29組 | 今後も継続する | | | | | | |
| | | | | 管理課 | 公園や駅において、父子等が利用しやすい「誰でもトイレ」の整備に努めている。 | 父子等でも利用しやすい施設の整備により、男性の子育て・家事参画の促進を図る。 | a | | | | | | 公園の規模や周辺環境等の制約がある中で、「誰でもトイレ」の整備を推進している。 | 開発行為に伴う公園整備が行われる場合には、「誰でもトイレ」の設置を開発者に対し指導していく。 | |
| | | 96 | 父子等で利用しやすい施設の整備 | 社会教育課 | 市立会館に湯沸し室及び誰でもトイレの設置。授乳等の必要があれば空室を提供。 | イクメンなど父親の育児参加が見られる中、市立会館の利用の際にミルク作りやトイレの使用が可能な状態にある。 | a | 市立会館には、給湯設備、誰でもトイレを整備しており、父子等での活用がしやすい。 | 引き続き、必要に応じ場所の提供や案内を行う。 | | | | | | |
| 市民会館・公民館 | 父子等が利用しやすいよう「誰でもトイレ」「給湯室」等の施設整備に努める。 | | | 父子等でも利用しやすい施設整備により男性の子育て・家事参画の促進を図る。 | a | 父子等に利用しやすい施設整備ができています。 | 引き続き父子等が利用しやすい施設整備に努める。 | | | | | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|----------------|-----------------------------------------|-----|-------------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-----------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 男性の子育て・家事参画の促進 | 男性の子育て・家事への参画を促進するため、学習機会の提供や啓発活動を行います。 | 97 | 男性の家事参加促進のための啓発 | 企画政策課 | 情報誌に特集記事「イクメンを探せ！」を掲載し、家庭内での家事の分担方法や子育てなど、育児に関する情報を紹介した。 男女共同参画セミナー「もう一人でもがんばらない家事半半術」を開催。男性の参加はなかったが、家庭における家事への協力体制づくりについての話もあり、男性の家事参加に向けて啓発を回った。 参加者18人(女性18人、男性0人) 決算額24千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者:27人(女性25人、男性2人)、決算額:24千円 | 男性の家事への参加の促進に向け、啓発に努める。 | a | | 情報誌の特集記事「イクメンを探せ！」については読者からの反響もあり、こういった取組の継続によって読者の意識改革につながると考えている。 セミナーについては男性参加がなかったが、家事における家族の協力体制づくりの話もあり、一定程度の啓発は進められた。 【前年度(H26)比較】 参加者数:-9人 | 引き続き、情報誌に男性の子育て・家事参加関連記事の掲載への取組を進めるとともに、男性が参加しやすいセミナーの実施についても検討したい。 | | | ○タイトルも女性目線のような感じがする。男性の参加について、意識の高い男性なら参加できるかもしれないが、そうじゃない場合は参加しづらいように思える。男性がもっと積極的に参加できるようなタイトルを考えたいと思った。 |
| | | | | 生活コミュニ ティ課 | 消費生活講座において、子育て・家事に関する講座を実施する | 男性の子育て・家事への参加についての啓発 | a | | 夏休み親子消費生活講座へ男性の参加があった(参加者数27名中、男性8名) 【26実績】 整理収納術講座(参加者数38名中、男性9名) | 男性も取り組みやすく関心を持てる講座を開催していく | | | |
| ひとり親家庭への自立支援 | ひとり親家庭の生活の安定に向け、関係機関と連携した支援体制を整備します。 | 98 | ひとり親家庭に対する支援体制の整備 | 子ども子育て支援課 | ひとり親・女性支援担当2名及び賃付担当1名を配置し、相談及び賃付を実施している。児童扶養手当・医療費助成制度。 | ひとり親家庭等に対する経済的支援。 | a | | ひとり親家庭等の経済的支援にとって有益である。(大学等への修学費貸付、132件) 【26実績】 修学費貸付 151件 | 継続。平成26年度から父子家庭も対象となっている。今後、相談や対応の増加・複雑化が予想される。人的配置も検討課題。 | | | ○手厚い支援を続けていただきたい。 |
| | | | | 子ども子育て支援課 | 東京都ひとり親家庭支援センター、マザーズハローワークの利用 | 被害拡大防止、自立支援、不安感の軽減、経済的支援等 | b | | チラシ等資料配布、案内、アドバイス等通常の相談業務の中で情報提供している。 | 継続する。 | | | |

| | |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 主要施策 | 主要施策の狙い |
| (2)高齢者・障害者等の介護・介助を担う男女への支援 | 高齢者・障害者等の介護・介助を必要とする人やその家族が、仕事や家庭生活、地域活動などを両立することができるよう、関連計画に基づき支援を行います。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-------------------|-------------------------------------------------------|----------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 介護サービスの周知と介護負担の軽減 | 介護が必要な高齢者とその家族が地域で安心して生活できるよう、関連計画に基づいたサービスの提供を充実します。 | 100 | 昭島市介護保険事業計画の推進 | 介護福祉課 | 平成26年度に策定した第6期介護保険事業計画に基づく各施策の展開と介護保険制度の安定的な運営。(事業計画期間は平成27年度から平成29年度。) | 高齢者の増加に対応した介護保険制度の適正かつ安定的な運営を図る。 | a | | 高齢化に伴い増加している介護サービス利用と保険給付に対して適正な運営に努めるとともに、介護保険料の収納率向上を図ることなどにより安定的な事業運営ができた。 | 平成26年度に策定した平成27年度から29年度までの3か年を計画期間とする第6期介護保険事業計画に基づき、さらなる高齢者の増加に対応した適正かつ安定的な運営を図る。 | | | |
| | | | | 介護福祉課 | 家族介護教室の実施(3回)。(延べ参加者数30人 うち男性11人) 在宅介護リフレッシュ事業の実施(8回) (8回うち男性を対象とした事業を5回実施し43人参加) 【H26実績】 家族介護教室の実施(2回)。(延べ参加者数28人 うち男性6人) 在宅介護リフレッシュ事業の実施(7回) (7回うち男性を対象とした事業を4回実施し44人参加) | 介護者の負担軽減のため、介護の知識と技術に関する教室を実施するとともに、介護者の交流も図る。 | b | 23/33 (70.0%) | 「家族介護教室」は、対象者を男性に限定はしていないが、前年度と比べて男性参加者が6人から11人と若干の増ができています。「在宅介護リフレッシュ事業」は、男性介護者を対象とした事業を実施し、男性介護者の学習及び交流を図った。 | 今後もケアマネジャーや介護事業者等に依頼し、男性介護者に対して事業の周知をしていく。 | | | ○このような情報交換は市に仲介してもらえれば連携が進むと考えられる。 ○男性介護者も増えており、このような教室やセミナーは助けになると思うし、これからは続けていきたい。 ○女性よりも男性の方が一人で抱えこんでしまう傾向がある。女性の方がコミュニケーションを取ろうとしたり、人に聞こうとするが、男性はどちらかというと寡黙に頑張りすぎてしまう傾向があると思うので、体力的にも精神的にも負担が軽くなるよう、地域での支援に力を入れていただければと思う。 |
| | | 企画政策課 | 女性悩みごと相談の相談者で、関係する部署の支援が必要な場合など、支援につながる連携が図られた。 | 介護が必要な高齢者とその家族が地域で安心して生活できるよう、関係機関と連携を図る。 | c | | 引き続き、女性悩みごと相談時の対応を図るとともに、介護事業を実施する中で、男女共同参画の視点を持ってもらうよう連携を図った。 | 関係する部署の支援が必要な場合の連携の充実。 | | | ○十分な対応がなされているのかと心配である。 | | |
| 指導課 | (福祉部署との連携)子どもの主張意見文のテーマの中に福祉の視点を入れている。 | 敬老大会での連携を行うため。 | b | | テーマとして設定しているが、数名の児童・生徒しか取り組んでいないため。 | 視点の変更は行わず、意見文の指導の中で、福祉の視点をテーマに取り組むように促す。 | | | | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|-----------------------|----------------------------------------------------------|-----|---------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------------|----|-----------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 障害者サービスの周知と介護・介助負担の軽減 | 介護・介助が必要な障害者とその家族が地域で安心して生活できるよう、関連計画に基づいたサービスの提供を充実します。 | 103 | 昭島市障害者福祉計画の推進 | 障害福祉課 | 平成26年度に策定した第4期障害福祉計画(27年度～29年度)に基づく各施策の展開 | 障害のある人の新たなニーズや取り巻く環境変化を受け止め、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指す。 | c | | 障害者総合支援法や児童福祉法に基づく障害福祉サービスについては取り組めており、一定の効果は挙げているが、取り組めていない施策もあることから、取り組めるよう課題解決を図っていきたい。 | 計画期間(27年度～29年度)内に各施策のうち、取り組めていない施策については、関係機関等と調整を行いながら進めていく。 | | | |
| | | | | 企画政策課 | 女性悩みごと相談の相談者で、関係する部署の支援を必要とする場合など、支援につながる連携が図られた。 | 介護・介助が必要な障害者とその家族が地域で安心して生活できるよう、関係機関と連携を図る。 | c | | 引き続き、女性悩みごと相談時の対応を図るとともに、介護事業を実施する中で、男女共同参画の視点を持ってもらうよう連携を図った。 | 関連部署の支援が必要な場合の連携体制の整備。 | | | |
| | | 104 | 関係機関との連携 | 障害福祉課 | 障害当事者や障害福祉サービス事業者、障害者団体等で構成する障害者(児)ネットワーク及び障害福祉関係者で構成する地域支援会議等との情報交換や情報共有等を行い連携を図っている。 | 障害のある人が主体的に社会参加し、自助・共助・公助を基本として、みんなで支えあう共生の地域社会の構築を図る。 | a | | 障害者(児)ネットワークとは懇談会を実施し、要望等については、できるものについては対応している。また、地域支援会議においては新たな会議体を設置するため協議を重ね、平成28年度より障害者支援協議会や専門部会を設置し、地域の実情に応じた支援体制の整備を図る。 | 懇談会の実施や障害者地域支援協議会などにより、地域の実情に応じた支援体制の整備を図るとともに、引き続き、関係機関との連携を図る。 | | | |
| 生活安定と自立支援 | 高齢者・障害者等が自立した生活が送れるよう、相談体制や社会参加への支援を充実します。 | 105 | 高齢者・障害者等の相談体制の充実 | 企画政策課 | 女性悩みごと相談(毎週水曜日・年47回)を通し、事例に応じ、必要な場合は他の部署と連携を図り、相談をつなげている。 | 高齢者・障害者等が自立した生活が送れるよう、相談体制の充実を図る。 | b | | 高齢者・障害者等に特化した、相談体制は確立できていない。女性悩みごと相談の中で対応している。 | 引き続き女性悩みごと相談の中で支援体制を整備していく。 | | | |
| | | | | 障害福祉課 | 障害福祉課に保健師を配置するとともに、市内3か所の事業所で一般相談支援体制の整備を図っている。また、サービス等利用計画を作成する指定特定相談支援事業所との連携を図る。 | 障害福祉サービス、就労相談、障害者虐待、精神障害等に関する一般相談など様々な障害のある人に関する相談体制の充実を図る。 | a | | 障害福祉サービスの利用に関しては一般相談支援事業所とともに、指定特定相談支援事業所とも連携を図り、計画的な障害福祉サービスの提供が図られている。 | 引き続き、円滑なサービス利用が図られるよう適切な相談支援・計画相談支援を実施する。 | | | ○相談員は多種多様な相談に対応されているということで、大変だとは感じるが、こういう問題に対しても十分な対応がなされているのかと心配である。 |
| | | | | 介護福祉課 | 介護福祉課及び地域包括支援センターでの相談受付を行った。【H26実績】(延べ相談件数30,057件/年)【H27実績】(延べ相談件数23,202件/年) | 介護サービス、権利擁護、虐待等の様々な高齢者に関する相談の受付体制の充実を図る。 | a | | 困難ケースなどでは、介護福祉課と地域包括支援センターが連携し、必要に応じて地域包括支援センターによる訪問相談を実施している。 | 今後も増加する高齢者人口に対応した相談体制の充実を図るため、平成27年4月より地域包括支援センターを現行の3箇所から4箇所に増設することとした。 | | | |
| | | 106 | 高齢者・障害者等の雇用に関する情報提供 | 産業活性課 | 本庁1階と勤労商工市民センターのラックにパンフレット等を配布する。また、シルバー人材センターへ補助金を支給することで高齢者の雇用機会を確保し、センターは情報誌で情報を提供した。 | 広報紙、パンフレット等による情報提供 | b | | 高齢者の就業を促進するため、補助金の支給やパンフレットの配布、ポスターの掲示を行った。 | 商工会やシルバー人材センターと連携し、高齢者の就業と相談体制を充実させていく。 | | | |

目標Ⅳ 男女共同参画の総合的推進

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------|-------|-------------|-------------|
| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
| 1 政策・方針決定過程への男女の参画 | 審議会等における女性委員の割合 | 29.2% | 26.7% | 35.0% | 40.0% |

| | |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------|
| 主要施策 | 主要施策の狙い |
| (1)政策・方針決定参画の拡大 | 政策や方針決定過程の場において、男女双方の意見が反映され、多様な価値観と発想が取り入れられるよう、市政への女性の参画を促進します。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------|-----------------------------------------------------|-----|-------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-----------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 女性の市政参画の促進 | 性別に偏らない多様な市民の意見を市政に反映するため、積極的に市の審議会等における女性の参画を促します。 | 107 | 審議会等における女性委員比率の向上 | 企画政策課 | 昭島市においては、附属機関等の委員の男女の構成比率は、一方が委員定数の30%未満にならないよう努めることとし、計画目標達成に向け取り組んでいる。 ・女性委員の比率 25.1% (H27.4.1現在) 一集計中 | 性別に偏らない多様な市民の意見を市政に反映する。 | b | | 一定の職にあるものを委員とするなどしている場合もあり、男女の構成比率は一方が委員定数の30%未満にならないよう、選定等に取り組んでいるが、審議会等全体数57のうち目標35%を超えたものは18(32%)で要綱上の30%以上では23(40%)となっている。今後、男女構成に偏りのある審議会等において選出団体への働きかけを行うなど拡大させたい。 | 公募委員の選定等では、女性委員の比率が30%を超えるよう、また目標値40%に近づこう、意識して各課に呼びかけ、女性委員を増やすよう取り組む。 | ○非常任の委員を作るなどして、市民の声を拾い上げるような、パブリックコメントのような工夫を施すには参加できないような方、子育て等で忙しいという方もいる意見があるということも勘案すると、そういった制度を設けて少しでも声を拾い上げていくことが必要である。 | 良 | ◆審議会について、選出団体における男女比率など構造的な問題があるので改善が難しいが、市が目標値を掲げることにより、女性委員を各組織で選んでいくことに有効に働くことを期待する。 ◆市主催行事への女性参画は向上していると考えられるが、引き続き、目標指標達成に向けて取り組まれない。 |
| | | 108 | 市主催行事への女性の参画の推進 | 企画政策課 | 昭島市においては、附属機関等の委員の男女の構成比率は、一方が委員定数の30%未満にならないよう努めることとしている。事業の実行委員会等についてもこうしたことを踏まえて対応している。 | 性別に偏らない多様な市民の意見を市政に反映する。 | b | | 一定の職にあるものを委員とするなどしている場合もあるが、事業の実行委員会等についても女性の参画を推進するよう対応している。 | 更に、女性の参画を推進するよう、各課に呼びかけ、女性が事業等に参加できるよう取り組んでいきたい。 | | | |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 消費生活展では、女性が実行委員を務め活動している | 市主催行事への女性の参画の推進により女性の意見を取り入れる | a | 18/21 (85.7%) | 女性の視点での身近な生活に即した行事にできる | 実行委員の構成が女性中心のため、多くの男性が関心を持って参加できる工夫をし、男女協働での参画を図る | | | |
| | | | | 健康課 | 健康フェスティバルの企画に対する女性の意見の反映：年2回開催 | 1)多数の市民が集まる場を利用し、女性の市政参加の促進が期待できる。 | b | | 1世代のニーズに即した、具体的な実施方法の確立をしていくことが課題 | 今後も女性の参加が増えるよう推進していきたい。 | | | |
| | | | | 子ども育成課 | 青少年フェスティバルでは実行委員が46人中、24人が女性であり、意見等は充分に反映されている。 【H26実績】 委員39人中、女性委員数22人 | 男女参画の意識の向上。 | a | | 実行委員会の運営及び役割等において男女区別なく実施されている。 【前年度(H26)比較】 実行委員数：+7人(うち女性委員数：+2人) | 新たな実行委員の確保 | | | |
| | | | | 社会教育課 | 社会教育団体指導者及び子ども会担当者育成等研修会、中高年のためのパソコン教室、文化財めぐり | 性別に偏らない講習会等を実施する。 | a | | いずれの講習会等も女性の参加者は多い。参加者129名中77名が女性 59.68% | 引き続き、性別に偏らない講習会等を実施する。 | | | |
| | | | | 指導課 | 性差関係なく行事を実施した。 | 各種学校行事で性差関係なく行事を進めていく。 | a | | 行事を行う前に徹底をする。教育委員会事業でも徹底する。 | 徹底を継続する。 | | | |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | |
|---------------|----------------------------------------------|-----|-------------------------|----------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-----------|----------------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------|
| (2)人材育成と活用の促進 | | | | | 女性自身の意欲を向上し、能力を政策決定等に生かせるよう、学習機会の提供を行うとともに、女性の人材に関する情報を幅広く収集し活用します。 | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 女性の人材育成と活用の促進 | 女性のエンパワーメント等を目的として、講座等を開催し、女性の人材育成と活用を促進します。 | 109 | 女性のための政策決定能力向上に関する講座の実施 | 市民会館・公民館 | 男女共同参画セミナー「自分らしいライフ&キャリアをデザインしよう」4回実施。参加者8人。(全員女性)80千円 | 女性の生き方や働き方を見つめ、将来に向けた生き方や働き方をデザインする。 | a | | これまでのライフキャリアを振り返りながら、将来に向けての生き方をイメージすることができた。 | 引き続き、女性のための性格決定能力向上に関する講座の実施を進めていきたい。 | ○受講者が8名と少ないのは何らかの原因があるのではないかと。○開催日程や周知方法に課題があると思われる。改善の余地があると思われる。 | 不可 | ◆内容的に昨年から変化が見られず、新たな取り組みを期待したい。 |
| | | 110 | 女性人材リストの作成と活用 | 企画政策課 | 各審議会の構成員の情報収集はしているが、女性人材に特化したリストは作成に至らなかった。 | 女性の人材育成とその活用を図る。 | d | 3/9 (33.3%) | 情報収集に努めたが、女性人材に特化したリストは作成していない。今後、総合的な人材リスト作成の中で検討していきたい。 | 関連部署が人材を把握するための登録制度(人材バンク)の策定に向けた調査・研究を行っているが、今後関連部署と連携を図りながら対応していきたい。 | ○リストについては現状でひとまず作ってみて、そこから広げていくことを考えるなど、毎年「作成に至らなかった」と記載するのではなく、「ここまではできたのでそこから広げていこう」というような取組が必要だと思う。 | | ◆女性の人材育成にあたっては、人材リストの作成と併せ、活用に向けて検討されたい。 |
| | | | | 職員課 | H28年3月に女性活躍推進法に基づき特定事業主行動計画を策定し女性の活躍推進に努めているが、人材リストの作成には至らなかった。 | 女性職員の人材育成を推進する。 | d | | リストは作成していないが、人事評価や研修などを通じて、職員の人材育成に取り組んでいる。 | 引き続き女性職員の人材育成に努める。 | | | |

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平27度) | 目標値(平成32年度) |
|---------------|--------------|--------|------|-----------|-------------|
| 2 地域社会への男女の参画 | 自治会長への女性の参画率 | 5.1% | 7.0% | 8.0% | 10.0% |

| 主要施策 | | | | | 主要施策の狙い | | | | | | | | | | |
|------------------|------------------------------------|-----------|--------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)地域活動への男女共同参画 | | | | | 男女がともに地域におけるさまざまな活動に参加し、暮らしやすい地域をつくるため、地域ボランティア等に積極的・主体的に参画できる環境づくりを支援します。また、防災、防犯やまちづくり、環境など新たな分野における男女共同参画を推進します。 | | | | | | | | | | |
| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | | | |
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | | |
| 地域団体・社会団体等への活動支援 | さまざまな地域団体・ボランティア等への活動支援と参加促進を図ります。 | 111 | 地域団体のネットワークづくりや支援体制の推進 | 生活コミュニティ課 | 昭島ボランティアセンター、社会教育課、公民館と定期的に市民団体支援のため意見交換会を開催し、支援体制の推進に努めた。 | 地域団体、市民団体についての情報をもつ複数部署の情報共有を行うことで、支援体制の推進を図る。 | b | | 情報共有することで、市民団体へ対する横断的な支援、相談体制が可能となった。 | 引き続き、情報共有を行い、支援体制の充実を図る。 | 良 | ◆ボランティア活動への支援については一定程度なされているものと考えている。 | | | |
| | | | | 社会教育課 | 既存団体への支援を継続的に行った。また、生涯学習サポーター養成講座を実施した。さらに養成講座を修了した市民による団体を立ち上げた。 | 団体の活性化を図る。生涯学習推進のための活動をしてくれる人を養成する。 | b | | 継続的に既存団体への支援は行い、必要に応じ新規団体の立ち上げ等の相談体制は整っている。生涯学習サポーター養成講座の受講者を、今後ネットワークづくりなどにも活用する準備をしている段階である。 | 現在行っている支援を引き続き行い、生涯学習サポーター養成講座受講者の活用と増加を図り、ネットワークづくりを推進する。 | | | | | |
| | | 112 | 地域活動に関する情報提供 | 生活コミュニティ課 | 市民活動団体情報コーナーで、地域団体、市民団体の情報を掲示、配布した。 | 地域団体、市民団体の情報提供の場を設置することで、団体の活動支援と参加促進を図る。 | b | 55/78 (70.5%) | | 地域団体、市民団体の情報提供の場として利用されている。 | | | 引き続き、情報コーナーを提供する。 | | ◆自治会などでは会長は男性が多いが、実際に活動しているのは女性が多い。上に立って周りを率いるだけではなく、積極的に活動するという意味でリーダーとして捉えることができると思う。この視点を持ち、女性リーダーの育成にあたっていただきたい。 |
| | | | | 社会教育課 | あきしま学びかたによる情報発信のほか、ホームページを活用し生涯学習に関する情報提供に努めた。 | 国や都などの生涯学習に関する情報を広く発信していく。 | a | | | あきしま学びかたによる情報提供のほか、積極的にホームページ、ツイッターを活用した。 | | | 引き続き積極的に情報提供を行う。 | | |
| | | 113 | 関係機関との連携によるボランティア活動への支援 | 生活コミュニティ課 | 昭島ボランティアセンター運営委員会に参画することにより、センターとの連携を図った。 | 昭島ボランティアセンターと連携することにより、ボランティア活動への支援を図る。 | a | | | 昭島ボランティアセンターの「夏のボランティア体験」で、シニア向けメニューを追加した。また、ボランティアセンター登録団体間のつながりをつくるため、ボランティアフェスティバルを開催した。 | | | 引き続き、昭島ボランティアセンターと連携を図る。 | | ◆イクメンとかイクボスという言葉が早くなくなってほしいと思う。特別扱いをされている状況ではまだまだである。 |
| 114 | NPOに関する情報提供 | 生活コミュニティ課 | 昭島ボランティアセンターと連携し、NPO法人連絡会へ参加(年4回)した。 | NPO法人連絡会へ参加することにより、情報交換を実施。 | a | | | NPO法人連絡会へ参加し、情報交換を行った。また、新しくNPO法人申請している団体に連絡会を紹介し、長年活動しているNPO法人から情報を聞く機会を提供した。 | 引き続き、NPO法人連絡会へ参加する。 | | ◆女性リーダーの育成と活用にあたっては、女性がいきいきと活動できる環境の整備が必要であり、取組を進められたい。 | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------|---------------------------------------------------------|-----|---------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 女性リーダーの育成と活用 | 自治会や地域団体等の活動において、リーダーとして活躍する女性の増加が図られるよう、育成と活用の促進に努めます。 | 115 | 自治会や地域団体に対する女性リーダー育成と活用の促進 | 企画政策課 | 男女共同参画ルームおあしすの登録団体に呼びかけ意見交換を行った。また、生活コミュニティ課を通じて女性の自治会役員を増やす方向で働きかけた。 | 自治会や地域団体等において、リーダーとして活躍する女性の増加を図る。 | c | | 登録団体との意見交換や自治会への働きかけを行い、女性の意見を取り入れている。 | 今後、女性リーダーの育成に関する取組について、関連部署・関係機関と連携しながら進めていきたい。 | ○男女共同参画ルームの登録団体も地域団体・社会団体に該当するとなれば、構成員も代表者も女性が多いということで、女性リーダーの育成につながっていると考えられる。 | | ◆防災・防犯の分野では、それについての意識が高く、積極的な参加も多い。男女でも上手く役割分担がなされていると感じられる。 ◆登録団体について、一般的に市の担当課で登録している団体は、行政上の必要性から担当課で把握し、公開を前提としていないが、社会福祉協議会、ボランティアセンターは公開を前提としている。役割分担の差があると思われ、その意味では役割分担をしながらうまくやっていけばよいと思う。 |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 自治会連合会を通じて、女性の参画を促した。また、自治会の女性役員の情報交換会を開催した(2回)。 | 地域団体の役員等へ女性が参画することにより、女性の視点での意見を取り入れる。 | b | | 女性の役員が選出されている。 | 自治会の役員人事については、各自治会が決定している。そのため、市では決定権が無いため、引き続き自治会連合会を通じて女性の参画を促していく。 | | | |
| | | | | 子ども育成課 | 青少年とともにあゆむ地区委員会の代表者14人のうち、女性は2名。青少年委員の会では17人中、女性は5名である。 【H26実績】 青少年とともにあゆむ地区委員会の代表者15人のうち、女性は2名。青少年委員の会では17人中、女性は5名である。 | 事業、行事等の中で男女参画に関する意識の普及啓発に努める。 | a | | 各地区委員会で多数の女性が活躍している。 | 地域での自治会未加入者の増加、子ども会の減少により地域活動の低下。 | | | |
| | | | | 社会教育課 | 社会教育・地域活動に携わる方々のために研修会を開催。女性の参加は、28名中18名であった。 | 目を引きつけるチラシ作成のノウハウを学ぶことで、市民が身近な場所でも学ぶ機会を得て、参加する意欲の向上を目的とする。 | b | | 直接的な女性リーダーの育成と活用には至っていないが、研修会に参加していただき意識啓発に努めた。 | 引き続き研修会、講演会等を開催し、意識啓発に努める。 | | | |
| | | | | 市民会館・公民館 | 同施策の取り組みはなかった。 | 自治会や地域団体に対する女性リーダー育成と活用の促進を図る。 | d | | 同施策に対する取り組みは行わなかったため。 | 主要事業の重要性は認識しているため、市民ニーズを参考に検討していきたい。 | | | |
| 社会活動参画のための支援 | 性別や年齢、障害の有無にかかわらず、だれもが社会活動等に参画しやすい環境づくりを支援します。 | 116 | 男女が地域活動・ボランティア活動にかかわるための育児・介護支援 | 子ども子育て支援課 | 社会活動、ボランティア活動への参加のための一時預かり等の保育サービスを実施する。 一時預かり全園(21園)で実施。 利用件数:3274件 【H26実績】 一時預かり全園(20園)で実施。 利用件数:3815件 | 一時預かり保育を行い、社会的な活動への積極的な参加を促進する。 | b | | 既存の制度を利用し、徐々にサービスが定着し始め、利用されている。 【前年度(H26)比較】 利用件数:-541件 | 地域活動等へ積極的に参加しやすくなるよう、引き続き、サービスの普及を進める。 | ○今後少子高齢化でダブルケアが増加すると思われるので支援体制の充実が必要になると思う。 ○利用件数が活動への参加数に比例するとは一概には言えない。 | | |
| | | | | 介護福祉課 | 介護保険サービス(ショートステイ、デイサービスなど)の活用(ショートステイ利用者2,863人/年)(デイサービス利用者16,158人/年) 【H26実績】 (ショートステイ利用者3,018人/年)(デイサービス利用者14,243人/年) | 介護保険サービスとして、利用者に対し宿泊及び機能訓練やレクリエーションを提供し、介護予防や要介護度の重篤化を予防する。あわせて、ショートステイやデイサービスを利用することにより介護者の負担軽減を図る。 | b | | 介護保険サービスの活用により介護者の負担軽減を図り地域活動等を行うことが可能となる。ショートステイ利用者数は前年比155人減であるが、デイサービス利用者数は1,915人増で、全体としては、増傾向である。地域活動等のために利用しているか把握が困難である。 | 介護保険サービスの利用理由が、地域活動・ボランティア活動のためか把握できないが、デイサービス施設も増加しており、利用しやすい環境の整備が進んでいる。 | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------|------------------------------------------------|-----|---------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 社会活動参画のための支援 | 性別や年齢、障害の有無にかかわらず、だれもが社会活動等に参画しやすい環境づくりを支援します。 | 117 | 男性の地域参画の推進 | 企画政策課 | 情報誌に特集記事「イクメンを探せ！」を掲載し、家庭内での家事の分担方法や子育てなど、育児に関する情報を紹介した。 男性の地域参画を推進するため、男性が参加できる講演会を開催した。 男女共同参画講演会の開催期日：12月6日(日) テーマ：家事ハラから考える男も女も幸せになれる働き方 参加者40人(女性32人、男性8人) 決算額113千円 【前年度(H26)実施状況】 参加者：50人(女性35人、男性15人)、決算額：115千円 | 性別や年齢、障害の有無にかかわらず、だれもが社会活動等に参画しやすい環境づくりを進める。 | b | 情報誌の特集記事「イクメンを探せ！」については読者からの反響もあり、こういった取組の継続によって読者の意識改革につながると考えている。 講演会については男性参加が減ってしまったが、男性の地域参画の推進を図る上での課題点等も提示しており、一定程度の啓発は進められた。 【前年度(H26)比較】 男女共同参画講演会：-10人 | 男性が参加しやすいテーマで講演会・セミナーを実施するため、今後も検討を続ける。 | ○講座の内容からは男性の地域参画を促すようなものではないと思うので、この事業に挙げなくても良いと思った。 | | | |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 昭島ボランティアセンター、社会教育課、公民館と定期的に市民団体支援のため意見交換会を開催し、支援体制の推進に努めた。 | 地域団体、市民団体についての情報をもつ複数部署の情報共有を行うことで、支援体制の推進を図る。 | b | 情報共有することで、市民団体へ対する横断的な支援、相談体制が可能となった。 昭島ボランティアセンターでは、その世代の男性が興味を持つようなボランティア育成講座を開催し、その受講生がグループを作り活動。また、公民館では、市民大学を開催し、退職後地域に戻ってきて(またはその事前準備で)、まずは地域を知りたいというニーズに答えている。 | 引き続き、情報共有を行い、支援体制の充実を図る。 | | | | |
| | | | | 健康課 | 主夫の自主グループ立ち上げ支援および周知 | 社会ではまだ少数である主夫たちの孤立を防ぐとともに男性の地域参画を推進する | b | 主夫に自主グループを紹介し、地域の自主グループ活動ができるよう推進できた。 | 今後機会をとらえ、男性の地域参画を推進していく予定 | ○どうやって育児や家事に男性が参加して女性と共に輝いていけばよいのかということ、家族でやっていくというものが早くできてくれればと思う。 | | | |
| | | | | 介護福祉課 | 老人クラブ活動への支援 (男性会員数 1,647人、増減率1.6%増) ※平成26年4月1日現在 【H26実績】 (男性会員数 1,622人、増減率0.6%減) ※平成27年4月1日現在 | 老人クラブ活動の育成 | a | 老人クラブの育成・活動助成を行っており、老人クラブ数及び会員数は増加していたが、平成27年度は、男女共会員数は減となった。 | 老人クラブのない地域に新規クラブを立ち上げる支援や会員増の支援 | | | | |
| | | | | 社会教育課 | 囲碁教室、陶芸教室ともに男性のボランティアが講師として参画したほか、アダプト活動への男性の参加を促進した。 | 囲碁教室、陶芸教室では、教室の進め方なども講師がおこなっており、男性ボランティアが中心となって進められている。 | a | 男性を含めた地域の方の社会活動への参画となっている。 | 引き続き事業を実施し、自主的な活動への支援を行う。 | | | | |
| | | | | 市民会館・公民館 | 男性の地域参画のきっかけづくりとして、市民大学で地域活動への推進を働きかけている。 | 男性の地域参画を高めることを狙いとしている。 | c | 市民大学の目的の一つに学習成果の地域社会への活用があり、周知することはできた。 | 引き続き男性の地域参画の推進を高められるよう努めたい。 | ○市民大学は自分も参加したが、男性の参加者も多く積極的に活動しているのを見ている。 | | | |
| | | 118 | シルバーボランティアの活用 | 介護福祉課 | 傾聴ボランティア講座を開催し、社会福祉協議会のボランティア活動を支援 (講座参加者数 29人) 【H26実績】 (講座参加者数 20人) | 講座の開催を通して、ボランティアの育成、活動支援を実施 | b | 講座終了者がボランティア活動を行っている。 電話訪問相談事業の相談員への傾聴ボランティアの活用を行っている。 | 講座受講者がボランティア活動に参加しているが、講座受講者も高齢者の方が多く、活動が継続できないこともある。 今後も講座受講者がボランティア活動に参加できるように講座の開催や活動支援を継続していく。 | | | | |
| | | | | 社会教育課 | 囲碁教室、陶芸教室の講師、文化財ボランティアガイドは、シルバー世代である。 | 囲碁教室、陶芸教室ではシルバー世代が講師となり、児童、保護者との世代間交流の場となっている。 | a | このほか登下校時の見守り活動、放課後子ども教室などでシルバー世代の活用が進んでいる。 | シルバー世代にも積極的に「生涯学習援助協力者」に登録していただき、経験を活かした活動をの支援を行う。 | なかなか体験する機会がないので子供たちも目を輝かせている。こういった活動はぜひ継続していただきたい。 | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------------|-------------------------------------------------------|-----|----------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 新たな分野における男女共同参画の推進 | 防災、防犯、まちづくり、環境などの新たな分野において、男女双方の視点を取り入れた活動を行うよう推進します。 | 119 | 防災分野における男女共同参画の推進 | 防災課 | 災害時の活動において、女性の参画を推進できるよう取り組む。 | 学校避難所運営マニュアルを作成するにあたって、女性メンバーの参画を推進する。 | b | | 避難所運営において配慮すべきこと等について、女性ならではの視点で意見を頂きより良いマニュアルを作成する。(メンバー237人中、女性は51人) | 今年からはマニュアルの作成ではなく避難所運営委員会が始まるので、災害時により良い運営が出来るよう引き続き参画を図る。 | ○女性の視点をどんどん取り入れていただきたい。 | | |
| | | 120 | 防犯分野における男女共同参画の推進 | 生活コミュニティ課 | 自治会等による互助・共助に基づく、地域における自主防犯活動を支援している | 男性中心となりがちな防犯活動に女性目線の活動を取り込むよう啓発する | b | | 青色/パトロールカーによる地域巡視、地域防犯活動に男女が共同参画している | 青色/パトロールカーの実施者証の取得者に女性は複数いるが、実際の実施者は少ない。「社会を明るくする運動」で防犯・非行防止・更生を目的とした活動に多くの女性も参加している。 | ○女性だけというのは難しく、男女で協力しあってということが考えられる。 | | |
| | | 121 | まちづくり分野における男女共同参画の推進 | 都市計画課 | 当該で所管する審議会、委員会等について、女性委員の積極的な登用を図る。 | まちづくり分野において男女共同参画できる環境づくりを支援する。 | a | | 都市計画審議会の市民委員について、男女同数の登用。 市民委員2名(女性1名、男性1名) | 今後とも同様の取り組みを行う。 | | | |
| | | 122 | 環境分野における男女共同参画の推進 | 環境課 | 環境学習講座の開催については、環境学習講座スタッフ(女性3人、男性2人)と市との協働より内容等を決定している。 講座開催数: 6回 参加者数: 122人 【H26実績】 講座開催数: 4回 参加者数: 70人 | 環境学習講座を開催するにあたり、男女双方の視点を取り入れ、より多くの参加者を集めることを狙いとする。 | a | | 参加者には、男女いずれかに偏りが無く、誰もが参加できたことは男女共同参画の視点からは評価できる。 | 土日、祝祭日の開催を含め、男女いずれかに偏りがなく、より多くの参加者を集められるように検討していく。 | | | |
| | | | | | ごみ対策課 | 環境分野における男女共同参画の推進 | 女性のごみ減量等推進員を増やすことで、女性の意見等をごみ減量啓発活動に活用していく。 | d | | 平成27年9月にごみ減量等推進員の改選を行ったが、新規に委嘱した方45名の内、女性は8名となり、減少してしまつた。 【H26状況】 ごみ減量等推進員64名中、女性は16名 | 各自自治会で選出されるごみ減量等推進員は、男性が多いのが現状である。今後も引き続きごみ減量等推進員の女性参加を推進し進めていく。 | ○推進員が27年度に半減してしまっている。このあたりから、新たな分野における男女共同参画の推進について、市の方でもう少し力を入れるべきだと考える。 | |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------|
| (2) 国際的取り組みとの協調 | 男女共同参画の視点に立った国際的な取り組みに関して、国際社会の一員として理解と協調が深められるよう、学習・交流の機会や情報の提供を実施します。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|--------------|---------------------------------------------------|-----|------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-----------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 国際社会との協調 | 男女共同参画に関する国際的な取り組みや世界の女性を取り巻く環境等について情報収集・提供を行います。 | 123 | 「開発と女性」(WID)等について理解を深める学習の推進 | 市民会館・公民館 | 同施策の取り組みはできなかった。 | 開発と女性(WID)について理解を深める学習の推進を図る。 | d | | 施策及び市民ニーズを動かし、事業を企画しているが、当該主要事業に関わる取り組みはできなかった。 | 主要事業は専門性が高いため、どんな取り組みができるか検討したい。 | | | ◆世界経済フォーラムが公表したジェンダーギャップ指数2015では、日本の順位は145カ国中101位である。ジェンダーギャップ指数の公表など、情報の提供や広報を充実させ、意識啓発に努められたい。 |
| | | 124 | 男女共同参画に関する国際機関等の情報提供 | 企画政策課 | 内閣府のホームページにリンクを張り、国際機関の情報提供に努めている。 おあし登録団体の要望により、ヨーロッパ諸国の取組が多く掲載されている「OPINION+ (オピニオンプラス)」という情報誌をおあしすに配架し、情報提供に努めた。 | 男女共同参画に関する国際機関等の情報提供を図る。 | b | 25/42 (59.5%) | ホームページで情報提供に努めるとともに、欧米諸国の制度や情報が掲載された情報誌をおあしすに配架し情報提供に努めた。 また、男女共同参画登録団体会議の中で、国連ウィメン日本協会多摩から活動報告や資料提供を受け、登録団体間で情報の共有を図った。 | 引き続き、ホームページや情報誌を活用し情報提供に努めたい。 | | | |
| | | 125 | 男女共同参画に関する国際的条約等の周知 | 企画政策課 | 内閣府のホームページにリンクを張り、国際機関の情報提供に努めている。 おあし登録団体の要望により、ヨーロッパ諸国の取組が多く掲載されている「OPINION+ (オピニオンプラス)」という情報誌をおあしすに配架し、情報提供に努めた。 | 男女共同参画に関する国際的条約等の周知を図る。 | b | | ホームページで情報提供に努めるとともに、欧米諸国の制度や情報が掲載された情報誌をおあしすに配架し情報提供に努めた。 また、男女共同参画登録団体会議の中で、国連ウィメン日本協会多摩から活動報告や資料提供を受け、登録団体間で情報の共有を図った。 | 引き続き、ホームページや情報誌を活用し情報提供に努めたい。 | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|---------------|-------------------------------------------------------|-----|--------------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 平和に対する取組の推進 | 男女共同参画社会の実現に密接にかかわる平和に対する市民意識の高揚を図り、教育・学習機会の提供等に努めます。 | 126 | 平和関連行事の開催 | 企画政策課 | 第33回核と平和を考える市民のつどいを実施した。 ・映画会「アオギリにたくして」8/1(土)参加者76人(女性50人、男性26人) ・平和施設見学会「埼玉ピースミュージアム、旧日立航空機(株)立川工場変電所」8/4(火)参加者50人(女性32人、男性18人) ・パネル展「原爆と人間展」、「東京大空襲ほか」等参加者510人(女性278人、男性232人) ・横断幕、懸垂幕の掲出 ・平和関連映像資料の充実 平和教育関連貸出用DVD購入「ヒロシマの記憶 幻の原爆フィルムで歩く広島」「長崎の記憶 幻の原爆フィルムで歩く長崎」「消えさらぬ傷あと 火の海・大阪(アニメ)」「ぞう列車がやってきた(アニメ)」 決算額332千円 | 男女共同参画社会の実現に密接に関わる平和に対する市民意識の高揚を図る。 | a | | 平和祈念行事を毎年行い、市民に定着している。 平和教育推進のため、貸出用DVDを充実させ、ホームページで周知を図った。 | 今後も引き続き、「非核平和都市宣言」を行った自治体として、核の廃絶と世界恒久平和の実現を目指して、市民に平和の尊さを周知していきたい。 また、戦後70年を経過し、戦争への記憶が薄れていくなか、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを次世代に伝えて行くため、市民への貸出用DVD(4枚)を購入した。今後も計画的に貸出用DVDの充実、貸出実施の周知に努めていく。 | 〇毎年実施しているということなので続けていただきたい。 | | |
| | | 127 | 平和に関する教育・学習機会の提供 | 指導課 | 社会科の歴史的・公的的分野で、年間指導計画に基づいて実施した。また、全中学校で平和パネル展を実施した。 | 発達段階に応じて平和に関する教育を実施する。 | a | | 年間指導計画に位置付けていること、確実に実施されていることと新規のパネル展を実施したため。 | 継続する。 | | | |
| | | | | 社会教育課 | 市立会館での関係資料の掲示及び配布、また終戦記念日などの黙祷への参加を求めている。郷土資料室においては第二次大戦に係わる資料の展示をしている。 | 平和に関する講演など資料提供のあったものについて情報提供をしている。郷土資料室で戦時中の資料を展示することにより、平和について考える機会を提供する。 | b | | 独自の資料の発刊などの実施はなかったが、市立会館、郷土資料室で情報の提供などは実施している。 | 引き続き、市立会館において、関係資料の掲示、配布を行う。郷土資料室においても展示を継続する。 | | | |
| | | | | 市民図書館 | 核に関連する図書について専用のコーナーを設置する。 | 専用コーナー設置しアピールすることにより平和に関する啓発を推進する。 | b | | 継続してコーナーを設置し図書を提供している。 | 展示内容を精査し、今後も設置を継続する。 | | | |
| | | | 市民会館・公民館 | 同施策の取り組みには至らなかった。 | 平和に関する教育・学習機会の提供を図る。 | d | | 施策及び市民ニーズを勘案し、事業を企画しているが、当該主要事業に関わる取り組みはできなかった。 | 平和に関する教育・学習機会の提供できるよう市民ニーズなどを参考に検討したい。 | | | | |
| 国際理解と国際交流への支援 | 国際社会への関心や地域における国際交流を促し、国際性豊かなひとづくりを推進します。 | 128 | 国際理解を深めるための講座等の実施 | 市民会館・公民館 | 同施策の取り組みには至らなかった。 | 国際交流を深めるための講座等の実施を図る。 | d | | 施策及び市民ニーズを勘案し、事業を企画しているが、当該主要事業に関わる取り組みはできなかった。 | 国際理解を深める講座の実施を市民ニーズなどを参考に検討したい。 | | | |
| | | 129 | 小・中学校における国際理解教育の推進 | 指導課 | 全校で外国語活動や英語、総合的な学習の時間等において異文化理解や日本の伝統文化に関する授業を実施した。 | 国際理解教育について、外国語の指導と合わせて扱う。 | a | | 各校において総合的な学習の時間・外国語活動等で実施されたため。 | 全校での実施を継続する。 | 〇日本のことを教えるというのはすごく大事なことで、外国語を習得するだけでは海外に出て日本に対する知識不足を痛切に感じる。日本のことを聞かれても答えられないというケースが結構あるので、子供の時からこういうことをやっていくというのは大切だと思う。 〇外国にいとると日本のことをどれだけ知っているか、どれだけ伝えることができるかが問われてくる。外国を知ること大事だが、日本に住む日本人の自分たちは、日本の伝統文化抜きには外国を知ることが十分ではないので、ぜひ続けていただきたい。 | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|---------------|-------------------------------------------|-----|----------------|-----------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 国際理解と国際交流への支援 | 国際社会への関心や地域における国際交流を促し、国際性豊かなひとづくりを推進します。 | 130 | 国際交流を進める市民への支援 | 企画政策課 | 東京都在住外国人支援事業助成 助成事業の募集案内を市のホームページに掲載し、事業拡大に努めた。 | 国際交流を進める市民への支援を図る。 | b | | ホームページを活用した情報提供を行った。 | 引き続き、情報提供に努める。東京オリンピックを控え、外国人観光客増が予想される中、おもてなしの心と英会話能力の向上を図るために「外国人おもてなしボランティア講座」をH28年度に社会教育課と連携し開催する。 | | | ◆昭島市にも外国人住民がいてコミュニティが形成されている。資料の中にも支援団体があると記載されており、外国人コミュニティ向けの相談会を開催する。支援者側との懇談会を設けるなど、市から積極的に関与し、よりよい取組を検討されたい。 |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 昭島ボランティアセンター運営委員会に参画することにより、センターとの連携を図った。 | 昭島ボランティアセンターと連携することにより、国際交流・支援を行う団体の支援・情報提供を図る。 | b | | 昭島ボランティアセンターに3団体、国際交流外国語支援の団体が登録している。その他、昭島市在住外国人の会を立ち上げたいと相談があり、立ち上げのアドバイス、チラシの配布アドバイスをを行った。 | 引き続き、昭島ボランティアセンターと連携を図る。 | | | |
| | | 131 | 国際支援活動に関する情報提供 | 企画政策課 | 東京都在住外国人支援事業助成 助成事業の募集案内を市のホームページに掲載し、事業拡大に努めた。 | 国際支援活動に関する情報提供に努める。 | b | | ホームページを活用した情報提供を行った。 | 引き続き、情報提供に努める。東京オリンピックを控え、外国人観光客増が予想される中、おもてなしの心と英会話能力の向上を図るために「外国人おもてなしボランティア講座」をH28年度に社会教育課と連携し開催する。 | | | |
| | | | | 生活コミュニティ課 | 昭島ボランティアセンター運営委員会に参画することにより、センターとの連携を図った。 | 昭島ボランティアセンターと連携することにより、国際交流・支援を行う団体の支援・情報提供を図る。 | b | | 昭島ボランティアセンターに3団体、国際交流外国語支援の団体が登録している。その他、昭島市在住外国人の会を立ち上げたいと相談があり、立ち上げのアドバイス、チラシの配布アドバイスをを行った。 | 引き続き、昭島ボランティアセンターと連携を図る。 | | | |

| 施策の方向 | 目標指標 | プラン策定時 | 現状値 | 目標値(平成27年度) | 目標値(平成32年度) |
|---------|--------------------------|--------|-------|-------------|-------------|
| 3 計画の推進 | 「昭島市男女共同参画プラン」を知っている人の割合 | 6.0% | 10.3% | 15.0% | 30.0% |

| 主要施策 | 主要施策の狙い |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)市民との協働による計画の推進 | 市民一人ひとりがそれぞれの立場で男女共同参画に関する取り組みに主体的にかかわられるよう、市民と行政が互いの役割を認識し、対等なパートナーとして男女共同参画と本計画の推進を図ります。 |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|------------------|-----------------------------------------------------|-----|---------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----------|------------------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 市民参画による計画の推進 | 市民の積極的な参画により、男女共同参画推進委員会による事業の改廃を含めた本計画の着実な推進を図ります。 | 132 | 各種媒体による男女共同参画プランの周知 | 企画政策課 | 男女共同参画プランとプラン概要版をホームページに掲載すると共に、情報誌に昭島市の男女共同参画プランの概要を掲載し、周知を図った。 | 各種媒体を活用し、男女共同参画プランの周知を図った。 | a | | ホームページ等で定期的に情報提供を行っている。 | 引き続き、多様な媒体を通じて、周知していきたい。 | | | ◆27年度目標値15%に対して現状値が10.3%で、目標に達していない。男女共同参画について関心が低いように感じられ、この計画が十分に推進されているとは実感できない。 ◆市発行の女性情報誌などを活用し、男女共同参画意識の啓発と認知度を高めるための周知活動に努められた。 |
| | | 133 | 男女共同参画推進委員会の機能の拡充 | 企画政策課 | 推進委員会の機能が有効に働くように、庁内推進委員会と連携を図るとともに、担当課で実施した評価を施策ごとに数値化し、分かり易く見やすい年次評価報告書にするために改善を図った。また、H27年度実施の市民意識調査の結果をもとにプラン前半期の検証を進めた。 | 男女共同参画推進委員会の機能の充実を図り、市民参画による計画の推進に努める。 | a | | 検討に基づき、平成25年度から評価方法を見直し、外部委員会の意見を取り入れ改善したことにより、課題が明確になった。 | 10年を期間とする現プランにおいて、進捗状況を検証した第2期推進委員会(外部)がH28年2月に任期を終え、H28年3月から新たに発足した第3期推進委員会による評価・検証を進めていく。 | ○出席できない方の声を拾い上げるためのシステム作りも検討いただきたい。 | | |
| 市民参画による推進男女共同参画の | 市民との強力なパートナーシップを築き、男女共同参画のさらなる推進を図ります。 | 134 | 男女共同参画都市宣言の周知 | 企画政策課 | ホームページへの掲載、講演会、セミナー開催時に資料として配布し、周知を図った。 | 男女共同参画都市宣言の周知を図る。 | a | 16/18 (88.9%) | ホームページ等で定期的に情報提供を行っている。また、講演会、セミナー開催時に資料として配布し、周知を図った。 | 引き続き、機会を捉えて周知していきたい。 | | | |
| | | 135 | 男女共同参画条例制定の検討 | 企画政策課 | 条例制定には至っていないが、男女共同参画プランの取組を着実に進め、男女共同参画の理解、意識を高めることに努めた。 | 男女共同参画条例の制定について検討する。 | c | | 現時点においては条例提案にまで至っていないが、引き続き、男女共同参画プランの着実な推進に努めるとともに検討を行う。 | 条例制定については、男女共同参画推進委員からも意見が述べられており、今後の課題であるが、条例制定にあたっては、広く市民に男女共同参画の理解や意識を高めることが重要であり、今後も引き続き、プランの着実な推進を図る。 | | | |
| | | 136 | 男女共同参画センター設置の検討 | 企画政策課 | (仮称)教育福祉総合センターの整備に合わせて、男女共同参画センターの設計に向けた検討を進めた。 | 男女共同参画センターとしての機能を備えた施設を設置。 | a | | 整備に向けて市民説明会などが実施され、具体的な検討が進められた。 | 基本設計、実施設計に向けて具体的な検討を進める。 | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|----------------|----------------------------------------|-----|-------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 市民共同参画による推進の男女 | 市民との強力なパートナーシップを築き、男女共同参画のさらなる推進を図ります。 | 137 | 市民との協働による男女共同参画情報誌「Hi, あきしま」の充実(No.16の再掲) | 企画政策課 | 「より見やすく、多くの人に手に取ってもらえる情報誌」をめざし、編集委員の中で話し合いを進め、表紙の変更等、工夫を重ねて情報誌の作成に努めた。 年2回(10月、3月) 各7,000部発行 決算額 編集委員謝礼 6人 60千円 作成委託 273千円 | 男女共同参画に関する情報誌を市民公募の編集委員により発行し、市民への情報提供を図る。 | a | | 紙ベースと共に、音訳テープ版の発行を行っている。平成24年度からデザイン版(CD)の発行を行い、引き続き便利を図った。 また、平成27年度は女性委員4名、男性委員2名が編集にあたった。 | 引き続き、男女共同参画プランの施策の推進が図れるよう、公募の市民委員とともに、市民に情報提供を行っていく。 | | | |

| 主要施策 | | 主要施策の狙い | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|----------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| (2) 庁内推進体制の充実及び関係機関との連携 | | 庁内における男女共同参画及び本計画の推進体制の充実に努めるとともに、国や都、関係機関等との協力・連携を図ります。 | | | | | | | | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | | |
|-----------------|----------------------------------------|-----|-----------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント | |
| 庁内における男女共同参画の推進 | 男女共同参画を推進するため、職員の男女共同参画に関する認識と理解を深めます。 | 138 | 職員の男女共同参画意識の醸成 | 企画政策課 | 庁内の推進委員会に部会を設置し、現場の職員を中心とした「昭島市男女共同参画プラン」の進行管理を図った。 男女共同参画情報誌「Hi, あきしま」を庁内で配付・回覧した。 | 市職員の男女共同参画に対する意識の向上を図る。 | b | 30/39 (76.9%) | 市の職員については、男女共同参画について一定程度意識を持って職務に臨んでいる。 | 引き続き、こうした意識が低下することのないように努めていきたい。 | ○育児取得の男性職員が2名に増加しているため、増え続けてほしい。 | 良 | ◆報告書の記載について、具体的に数値化できるもので数値も入っているが、多いのか少ないのか判断がつかない。これだけ推進が図られているというふうな書き方にするなど、工夫が必要。 ◆庁内における取組は推進されているものと評価できる。今後は、市民にも普及されることを期待する。 | |
| | | | | 職員課 | 第四次昭島市職員次世代育成支援プランを踏まえ、職員の男女共同参画意識の醸成に努めた。 | ワークライフバランスの実現を図り、職員がより一層安心して子どもを産み、育てることのできる取り組みを推進する。 | b | | 職員にプランの内容を周知し、意識醸成に努めた。 | 機会を捉えてひきつづきプランの内容などを職員に周知し、意識の醸成に努める。 | | | | |
| | | 139 | 市男性職員の育児・介護休暇積極的取得の推進 | 職員課 | 第四次昭島市職員次世代育成支援プラン、子育てに関する休暇等のハンドブックや男性の育児休業取得資料などにより育児休業等の取得促進に努めた。 | 該当する職員に対し資料などをともに説明し、育児休業等の取得促進を図る。 | b | | 男性職員の育児休業等の取得促進に努めており、平成27年度は2名が育児休業を取得した。 【前年度(H26)実績】 育児取得男性職員:1名 | 引き続き男性職員を対象に育児休業等に係る制度の説明に努める。 | | | | |
| | | 140 | 市職員の職務分担における男女平等の推進 | 職員課 | 第四次昭島市職員次世代育成支援プランを踏まえ、男女平等の推進に努めた。 | 性別による差別をされることなく、職員個人の能力や意欲に基づく人事管理に努める。 | b | | 職員個人の能力・適性に応じた人事管理に努めた。 | 引き続き職員個人の能力・適性に応じた人事管理に努める。 | | | | |
| | | 141 | 女性管理職の登用にに向けた人材育成 | 職員課 | 職層別研修の参加や職場内研修の計画的な推進に努めた。なお、平成27年度の女性管理職は6名であった。 【前年度(H26)状況】 女性管理職6名 | 女性職員の能力を積極的に活用し、性別にとらわれない職員の登用を推進する。 | b | | 昭島市人材育成基本方針を踏まえ、研修や人事評価による面談などにより、人材育成が図れた。 | 引き続き女性管理職の登用に向け、人材の育成を図る。 | | | | |
| | | 142 | 男女共同参画に関する職員研修 | 企画政策課 職員課 | 男女共同参画に関する研修等への職員の派遣を継続している。また、市開催のセミナー等へ職員の参加を庁内掲示板で呼び掛けた。 市町村職員研修所へ女性職員4名を派遣し、研修を受講した。 【前年度(H26)実施状況】 受講者数:女性職員3名 | 市職員の男女共同参画に対する意識の向上を図る。 男女共同参画社会の実現に向け、男女観について考えるとともに、男女共生についての知識の習得を図る。 | b b | | 市の職員については、男女共同参画について一定程度意識を持って職務に臨んでいる。 市町村職員研修所の研修へ職員を派遣することにより男女共同参画に関する意識啓発が図れた。 | 引き続き、こうした意識が低下することのないように努めていきたい。 引き続き市町村職員研修所へ性別を問わず職員を派遣し、男女共同参画に関する意識啓発に努める。 | | | | |
| 庁内における計画推進体制の整備 | 本計画の着実な推進に向け、計画の進行管理と適正な点検・評価を実施します。 | 143 | 計画の進捗状況の管理・把握 | 企画政策課 | 男女共同参画推進委員会の提言を踏まえ、「昭島市男女共同参画プラン」の進捗状況調査について、調査シートを修正し実施した。 | 計画の管理進捗と点検・評価を適切に実施し、プランの着実な推進を図る。 | a | 男女共同参画推進委員会と庁内推進委員会及び管理進行部会により、進捗状況の把握と検証に努めた。 | 今後も引き続き、男女共同参画推進委員会(外部)の提言を踏まえ、調査様式の見直しや進捗状況の把握と検証に努める。 | | | | | |
| | | 144 | 関連事務担当課長会の開催 | 企画政策課 | 課長職を中心とした、男女共同参画庁内推進委員会を開催し、プランの進捗状況への外部委員会からの評価報告を行った。 | 関連事務担当課長会を開催し、男女共同参画プランの推進を図る。 | a | 庁内推進委員会のほかに、実務者レベルの専門部会も設置し、推進体制の整備を図っている。 | 定期的な会議の開催を行う。 | | | | | |
| | | 145 | 担当部署の組織強化 | 企画政策課 | 課長職を中心とした、男女共同参画庁内推進委員会及び実務者レベルの専門部会を設置し、強化を図った。 | 担当部署の組織強化を図る。 | b | 現状において一定の対応は図られており、今後も、引き続きこの体制を維持する。 | 今後、設置したそれぞれの委員会等で何が出来るか検討を続ける。 | | | | | |

| 男女共同参画プランの内容 | | | | | 平成27年度 担当課の取組状況 | | | | | 平成27年度の取組状況に関する委員会の評価 | | | |
|---------------|-------------------------------------|-----|----------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------|-------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------|
| 施策 | 施策の狙い | No. | 主要事業 | 担当課 | 取組の内容 | 取組の狙い | 担当課 評価 | 主要施策 の評価 | 評価の理由・事業の効果 | 課題と今後の予定 | 取組に対するコメント | 評価 | 評価の説明・評価のポイント |
| 国・都・関係機関等との連携 | 国や都、近隣自治体、関係機関等と連携を図り、男女共同参画を推進します。 | 146 | 女性団体との連携 | 企画政策課 | 市内登録団体に情報誌「Hiあきしま」、講演会とセミナーのちらしを送付し、男女共同参画に関する情報提供を行った。 また、年度当初に行われる登録団体総会において、情報交換を行った。 | 男女共同参画の推進に向け、女性団体との連携を図る。 | b | | 情報の提供には努めているが、個別の団体との連携には困難性もある。団体のネットワーク化が進むと連携もしやすくなる。 | 機会を捉え何が出来るか検討を続ける。 | | | |
| | | 147 | 国・都との連携による国内外の情報収集 | 企画政策課 | 国からのメールによる定期的な情報連絡、都の研修参加や多摩地区の担当課長会、事務担当者連絡会の開催など、連携による情報収集が図られている。 また、ホームページでは、国・都の機関へのリンクを張り、情報へのアクセス性を高めている。 | 国や都と連携し、国内外の情報の収集に努める。 | a | | 27年度は、30市町村男女平等参画施策担当課長会及び担当職員連絡会に出席し、都、多摩地区の近隣自治体からの情報収集に努め、連携を図った。 | 情報収集だけでなく、DV被害者支援など、具体的な面においても連携を図っていきたい。 | | | |
| | | 148 | 国・都・区市町村との連携による男女共同参画施策の推進 | 企画政策課 | 都の研修や多摩地区担当課長会、事務担当者連絡会などへ出席し連携を図っている。 また、DV被害者支援など、具体的な対応面においても連携が進んでいる。 | 男女共同参画の推進に向け、国や都、近隣自治体との連携を図る。 | a | | 27年度は、30市町村男女平等参画施策担当課長会及び担当職員連絡会に出席し、都、多摩地区の近隣自治体との連携を、今まで以上に図れた。 | 開催地によっては、国の全国大会への参加も検討している。 | ○近隣自治体と大きなイベントを企画してみるのも良いかもしれない。自治体の壁を越えてやってみれば面白い活動になるのではないかと。昭和記念公園は立川市と昭島市にまたがる公園なので、そういったところを利用して良いと思う。 | | |

昭島市男女共同参画推進委員会評価基準(案)

○ 「優」「良」「可」「不可」の4段階評価

| 評価 | | 評価の目安 |
|----|---------------|------------------------------------------------------|
| 優 | 十分である | ① 主要施策の評価が90%以上 |
| | | ② 主要施策の評価は80%以上で、担当課の取組状況に鑑み、取組が確実に推進されている |
| 良 | 概ね十分である | ① 主要施策の評価が70%以上 |
| | | ② 主要施策の評価は60%以上で、担当課の取組状況に鑑み、課題解決に向けての取組み姿勢が明確である |
| 可 | ある程度の成果は認められる | ① 主要施策の評価が50%以上 |
| | | ② 主要施策の評価が40%以上で、担当課の取組状況に鑑み、課題を認識し達成に向けての検討が進められている |
| 不可 | 不十分である | ① 主要施策の評価が49%以下 |

評価については、「評価の目安」のいずれかを満たすものとする。

※目標指標の達成状況により、制度や意識の定着がみられるものについては取組が進められていると考えられるので、その点にも考慮できるものとする。現状値が平成27年度目標値に到達していれば5%、平成32年度目標値に到達していれば10%加点可能。

昭島市男女共同参画推進委員会要綱

(設置)

第1条 昭島市における男女共同参画にかかる施策を推進するため、昭島市男女共同参画推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議し、その結果を市長に報告する。

(1) 昭島市における男女共同参画にかかる施策の推進に関すること。

(2) その他市長が必要と認めること。

(組織及び委員)

第3条 委員会は、委員8人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 学識経験のある者 4人以内

(2) 公募による市民 4人以内

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により決める。

2 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、必要に応じ委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開催することができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、企画担当課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成10年4月30日から実施する。

附 則

この要綱は、平成13年1月4日から実施する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から実施する。

昭島市男女共同参画推進委員会委員名簿

| 氏 名 | 選 出 区 分 | 役 職 等 |
|-------------|---------|----------------|
| 榎 本 真 弓 | 公 募 市 民 | |
| 加 園 正 子 | 学 識 経 験 | 昭島市立富士見丘小学校長 |
| ◎ 金 野 美 奈 子 | 学 識 経 験 | 東京女子大学現代教養学部教授 |
| ○ 柴 田 邦 臣 | 学 識 経 験 | 津田塾大学学芸学部准教授 |
| 竹 井 和 子 | 公 募 市 民 | |
| 長 瀬 尚 子 | 学 識 経 験 | 昭島市商工会女性部役員 |
| 長谷部 高 史 | 公 募 市 民 | |
| 山 内 昭 裕 | 公 募 市 民 | |

※ 氏名欄は五十音順、◎は委員長、○は副委員長

第3期昭島市男女共同参画推進委員会開催記録

| 回 | 日 程 | 会 議 内 容 |
|-----|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 平成28年5月12日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 委嘱状交付 ・ 正副委員長選出 ・ 推進委員会の運営について ・ 「昭島市男女共同参画プラン」について ・ 今後の委員会の進め方について |
| 第2回 | 平成28年6月23日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画プラン平成27年度進捗状況調査結果について ・ 男女共同参画プラン進捗状況に関する評価方法及び評価基準について ・ 男女共同参画プランの評価（その1）について |
| 第3回 | 平成28年7月7日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画プランの評価（その2）について |
| 第4回 | 平成28年8月4日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画プランの評価（その3）について |
| 第5回 | 平成28年8月23日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画プランの評価（その4）について |
| 第6回 | 平成28年10月6日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画プランの総合的な評価のまとめについて ・ 目標指標による検証 |